

シラバス

= Syllabus =

2026年度



学校法人筑波学園

アール医療専門職大学

R Professional University of Rehabilitation

リハビリテーション学部

理学療法学科

目次

教育課程の概要 1

1年次履修科目 3

≪基礎科目≫

大学入門セミナー

社会人基礎力

教育学

ジェンダー論

マナー接遇

社会学

文化人類学

生命倫理学

発生生物学

データサイエンス論

法情報リテラシー

災害支援論 I

スポーツ理論・実技 I

スポーツ理論・実技 II

健康と食の科学

健康教育学

健康科学

英語コミュニケーション I

英語コミュニケーション II

≪職業専門科目≫

人体構造学 I

人体構造学 II

生理学 I

生理学 II

人体構造学実習

生理学実習

リハビリテーション概論

保健医療福祉論

理学療法概論 I

理学療法概論 II

理学療法基礎セミナー I

理学療法基礎セミナーⅡ
早期体験実習Ⅰ
通所・訪問リハビリテーション実習

〈展開科目〉

地域創生論
世代間交流論

2年次履修科目 38

〈基礎科目〉

災害支援論Ⅱ
人間関係論
アクセシビリティリーダー論
中国語
韓国語

〈職業専門科目〉

運動学Ⅰ
運動学Ⅱ
運動生理学
人間発達学
運動学実習
神経解剖学
病理学
内科学
整形外科学
神経内科学
精神医学
小児科学
リハビリテーション医学
スポーツ障害学
老年医学
薬理学
救急救命学
画像診断学
公衆衛生学
早期体験実習Ⅱ
理学療法評価学Ⅰ

理学療法評価学Ⅱ
理学療法評価学実習Ⅰ
理学療法評価学実習Ⅱ
健康マネジメント論
日常生活活動学
物理療法学
臨床実習Ⅰ

〈展開科目〉

リーダーシップマネジメント論

3年次履修科目 72

〈基礎科目〉

運動障害・健康障害と心理

〈職業専門科目〉

リハビリテーション栄養学
予防医学
地域包括ケアシステム論
医療関係法規論
理学療法管理学
動作分析学
動作分析学実習
運動療法学実習
運動器障害系理学療法学Ⅰ
運動器障害系理学療法学Ⅱ
運動器障害系理学療法学実習Ⅰ
運動器障害系理学療法学実習Ⅱ
神経障害系理学療法学Ⅰ
神経障害系理学療法学Ⅱ
神経障害系理学療法学実習Ⅰ
神経障害系理学療法学実習Ⅱ
内部障害系理学療法学Ⅰ
内部障害系理学療法学Ⅱ
内部障害系理学療法学実習
発達障害系理学療法学
発達障害系理学療法学実習
老年期障害系理学療法学

老年期障害系理学療法学実習
義肢装具学
運動障害・健康障害の自立活動論・指導法
スポーツ障害系理学療法学
生活環境学
集団支援論
サクセスフルエイジング論
地域理学療法学
バリアフリー論
地域理学療法学実習
臨床実習Ⅱ

〈展開科目〉

高齢者健康づくり政策論
学校運営論
ヘルスケアマーケティング論
就労支援サービス論

〈総合科目〉

理学療法研究法演習Ⅰ

4年次履修科目 111

〈職業専門科目〉

子ども支援学
臨床実習Ⅲ
臨床実習Ⅳ

〈展開科目〉

経営組織論
教育相談
経営のための法律
財務会計論

〈総合科目〉

理学療法研究法演習Ⅱ
応用理学療法学演習

「必・選」欄:◎-必修, ○-選択必修, 空欄-選択, ◆-自由(卒業要件外)

区分	卒業要件	科目名	単位	必・選	形態	学年学期配当・週時間								免許・資格関連		備考		
						1年		2年		3年		4年		理学療法士 受験資格				
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期					
基礎科目	初年度セミナー 人間と生活及び社会の理解 20単位以上	大学入門セミナー	1	◎	講義	1									◎			
		社会人基礎力	1		講義	1									○			
		教育学	1	◎	講義		1								◎			
		ジェンダー論	1		講義	1									○			
		マナー接遇	1		講義	1									○			
		社会学	1	◎	講義	1									◎			
		文化人類学	1		講義		1								○			
		生命倫理学	1	◎	講義	1									◎			
		発生物理学	1	◎	講義		1								◎			
		データサイエンス論	1	◎	講義		1								◎	選択科目より2単位		
		法情報リテラシー	1		講義		1								○			
		災害支援論Ⅰ	1	◎	講義		1								◎			
		災害支援論Ⅱ	1		講義			1							○			
		人間関係論	1	◎	講義			1							◎			
	アクセシビリティリーダー論	1		講義				1										
	運動障害・健康障害と心理	1		講義					1									
	健康への追求	スポーツ理論・実技Ⅰ	1	◎	実習	1									◎			
	スポーツ理論・実技Ⅱ	1	◎	実習		1									◎			
	健康と食の科学	1	◎	講義		1									◎			
	健康教育学	1		講義		1									○			
	健康科学	1		講義		1									○			
	国際言語の理解	英語コミュニケーションⅠ	1	◎	演習	1									◎			
	英語コミュニケーションⅡ	1		演習		1									○			
	中国語	1		講義			1								○			
	韓国語	1		講義			1								○			
	職業専門科目	基礎医学 90単位以上	人体構造学Ⅰ	1	◎	講義	1									◎		
			人体構造学Ⅱ	1	◎	講義		1								◎		
生理学Ⅰ			1	◎	講義	1									◎			
生理学Ⅱ			1	◎	講義		1								◎			
人体構造学実習			2	◎	実習		2								◎			
生理学実習			1	◎	実習		1								◎			
運動学Ⅰ			1	◎	講義			1							◎			
運動学Ⅱ			1	◎	講義				1						◎			
運動生理学			1	◎	講義			1							◎			
人間発達学			1	◎	講義			1							◎			
運動学実習			1	◎	実習		1								◎			
神経解剖学			1	◎	講義		1								◎			
臨床医学			病理学	1	◎	講義		1								◎		
内科学			1	◎	講義		1									◎		
整形外科		1	◎	講義		1									◎			
神経内科学		1	◎	講義		1									◎			
精神医学		1	◎	講義			1								◎			
小児科学		1	◎	講義			1								◎			
リハビリテーション医学		1	◎	講義				1							◎			
スポーツ障害学		1	◎	講義				1							◎			
老年医学		1	◎	講義				1							◎			
薬理学		1	◎	講義				1							◎			
救急救命学		1	◎	講義				1							◎			
画像診断学		1	◎	講義				1							◎			
リハビリテーション栄養学		1	◎	講義					1						◎			
予防医学		1	◎	講義						1					◎			
福祉医療		リハビリテーション概論	1	◎	講義	1									◎			
保健医療福祉論	1	◎	講義		1									◎				
公衆衛生学	1	◎	講義			1								◎				
地域包括ケアシステム論	1	◎	講義					1						◎				

区分	卒業要件	科目名	単位	必・選	形態	学年学期配当・週時間								免許・資格関連		備考
						1年		2年		3年		4年		理学療法士 受験資格		
						前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎理学療法学 理学療法管理 理学療法評価学 理学療法治療学 地域理学療法学 理学療法臨床実習	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	1	◎	講義	1									◎	
		理学療法概論Ⅱ	1	◎	講義		1								◎	
		理学療法基礎セミナーⅠ	1	◎	演習	1									◎	
		理学療法基礎セミナーⅡ	1	◎	演習		1								◎	
		早期体験実習Ⅰ	1	◎	実習		1								◎	
		早期体験実習Ⅱ	1	◎	実習			1							◎	
	理学療法管理	医療関係法規論	1	◎	講義					1					◎	
		理学療法管理学	1	◎	講義					1					◎	
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	1	◎	講義		1								◎	
		理学療法評価学Ⅱ	1	◎	講義			1							◎	
		理学療法評価学実習Ⅰ	1	◎	実習		1								◎	
		理学療法評価学実習Ⅱ	1	◎	実習			1							◎	
		動作分析学	1	◎	講義				1						◎	
		動作分析学実習	1	◎	実習					1					◎	
	理学療法治療学	健康マネジメント論	1	◎	講義		1								◎	
		日常生活活動学	1	◎	講義		1								◎	
		物理療法学	1	◎	講義			1							◎	
		運動療法学実習	1	◎	実習				1						◎	
		運動器障害系理学療法学Ⅰ	1	◎	講義				1						◎	
		運動器障害系理学療法学Ⅱ	1	◎	講義					1					◎	
		運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	1	◎	実習				1						◎	
		運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	1	◎	実習					1					◎	
		神経障害系理学療法学Ⅰ	1	◎	講義				1						◎	
		神経障害系理学療法学Ⅱ	1	◎	講義					1					◎	
		神経障害系理学療法学実習Ⅰ	1	◎	実習				1						◎	
		神経障害系理学療法学実習Ⅱ	1	◎	実習					1					◎	
		内部障害系理学療法学Ⅰ	1	◎	講義				1						◎	
		内部障害系理学療法学Ⅱ	1	◎	講義					1					◎	
		内部障害系理学療法学実習	1	◎	実習				1						◎	
		発達障害系理学療法学	1	◎	講義				1						◎	
		発達障害系理学療法学実習	1	◎	実習				1						◎	
		老年期障害系理学療法学	1	◎	講義					1					◎	
		老年期障害系理学療法学実習	1	◎	実習					1					◎	
		義肢装具学	1	◎	講義				1						◎	
	運動障害・健康障害の自立活動論・指導法	1	◎	講義				1						◎		
	スポーツ障害系理学療法学	1	◎	講義					1					◎		
生活環境学	1	◎	講義					1					◎			
地域理学療法学	集団支援論	1	◎	講義				1						◎		
	サクセスフルエイジング論	1	◎	講義				1						◎		
	地域理学療法学	1	◎	講義				1						◎		
	バリアフリー論	1	◎	講義					1					◎		
	地域理学療法学実習	1	◎	実習				1						◎		
	子ども支援学	1	◎	講義						1				◎		
理学療法臨床実習	通所・訪問リハビリテーション実習	1	◎	実習	1									◎		
	臨床実習Ⅰ	1	◎	実習		1								◎		
	臨床実習Ⅱ	4	◎	実習				4						◎		
	臨床実習Ⅲ	7	◎	実習					7					◎		
	臨床実習Ⅳ	7	◎	実習						7				◎		
展開科目	20単位以上	地域創生論	2	◎	講義	2										
		世代間交流論	2	◎	講義	2										
		リーダーシップマネジメント論	2	◎	講義			2								
		高齢者健康づくり政策論	2	◎	講義				2							
		学校運営論	2	◎	講義				2							
		経営組織論	2	◎	講義					2						
		ヘルスケアマーケティング論	2	◎	講義				2							
		就労支援サービス論	2	◎	講義				2							
		教育相談	2	◎	講義					2						
		経営のための法律	2	◎	講義						2					
		財務会計論	2	◎	講義						2					
総合科目	応用理学療法学	理学療法研究法演習Ⅰ	2	◎	演習				2							
		理学療法研究法演習Ⅱ	1	◎	演習					1						
		応用理学療法学演習	1	◎	演習							1				

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	大学入門セミナー	1単位	1年前期	縄井清志(責任者)/1年担任	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
教育目標	倫理観を持ちながら他者との協働作業を通じて大学の教育目標や学部、学科の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解できる。				
主体的学習					
倫理観					
協働活動					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1: 多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
授業の概要					
大学入門セミナーは、学生が大学での生活と主体的な学修活動を始めるにあたっての基本的知識や技能を修得することである。大学の教育目標や学部、学科の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解することとする。具体的には、大学における学習方法、社会秩序のあり方、倫理と道徳を学修し、理学療法学科の教育プログラムの情報を得ながら倫理観を持ち、他者との協働作業を通じて理解していく。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション	(担任)			
第2回	大学での学びについて	(担任)			
第3回	大学での学びについて	(担任)			
第4回	大学での学びについて	(担任)			
第5回	高校と大学の学びの違い (講義)	(縄井)			
第6回	高校と大学の学びの違い (講義)	(縄井)			
第7回	高校と大学の学びの違い (グループワーク)	(縄井)			
第8回	高校と大学の学びの違い (グループワーク)	(縄井)			
教科書及び参考書					
別途資料を提供する。					
成績評価方法					
課題レポートによる評定100%					
オフィスアワー					
縄井 木曜日14時00分～15時30分、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
理学療法士としての資質について事前に考えておくこと。					
備考					
協働学習ができるよう主体的に授業に臨むこと。オムニバス形式学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により、内容を変更をする場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	社会人基礎力	1単位	1年前期	犬田 和成	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
社会人基礎力		様々な人の価値観を尊重しながら、社会に出るために必要な事柄について学び、科目を通じて主体的な行動ができるようになる。			
ものの見方、考え方					
一般常識					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。 DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
授業の概要					
社会人基礎力は、様々な人の価値観を尊重しながら、主体的な行動ができるために必要な能力である。本講義では、社会人基礎力について紹介し、それを身に付けるために必要な事柄について学ぶ。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、社会人基礎力とは				
第2回	主体性について				
第3回	目標設定の重要性について				
第4回	計画、実行、振り返りのサイクルについて				
第5回	卒業時のイメージを共有しよう				
第6回	社会人になるために必要なスキルについて1				
第7回	社会人になるために必要なスキルについて2				
第8回	社会に出たらどのように活躍したいかをイメージしよう				
教科書及び参考書					
資料を提供する					
成績評価方法					
レポート100%評定					
オフィスアワー					
質問や相談のある場合はメールにてアポイントメントを取ってください。 メールアドレスはinuta@u.a-ru.ac.jpです。					
履修にあたって必要な予備知識など					
社会人基礎力に必要な事柄について事前に調べておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	教育学	1単位	1年後期	幅崎 麻紀子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
学校教育		「教育」とは何か、教育学に関する基礎的知識を修得し、教育について考える力を習得する。加えて医療・福祉などの現場、ひいては我々の生涯にかかわる「教育」がどのようなものであるかについて深く理解することを目指す。			
教育倫理					
学校と社会					
教育哲学					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる。 DP2:豊かな人間性と倫理観を備えることができる。					
授業の概要					
・あらゆる人々の社会生活・職業生活において「教育」という営みは不可欠なものであり、医療従事者の日々の実践や活動にも「教育」的要素は重要な位置を占める。本講義では、私たちの生活に内在する「教育」の概念、教育の現状と課題を浮かび上がらせるとともに、より良い「教育」を生み出していくための方途を考察する。 ・本講義は、受講生が教育の課題について調べ議論するアクティブラーニング法を積極的に取り入れながら展開する。					
授業計画					
第1回	教育とは何か				
第2回	学校とは何か				
第3回	教育の歴史				
第4回	学校教育制度				
第5回	教師に求められる力				
第6回	教育における課題				
第7回	社会教育と生涯学習				
第8回	共生社会と共生教育				
教科書及び参考書					
教科書：適宜、プリントを配布します。 参考書：教育学をつかむ【改訂版】有斐閣					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・課題提出（ミニレポート等）40%、学期末試験（もしくはレポート）60%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。habazaki@u. a-ru. ac. jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
積極的に授業に参加してください。 授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					
備考					
授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	ジェンダー論	1単位	1年前期	幅崎麻紀子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
ジェンダー		<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダー／セクシュアリティとは何かを、様々な事例に則して学び、理解できる。 ・多様な個性、価値観、考え方を尊重するとともに、社会的包摂、公平と公正の視点から行動することができる。 			
セクシュアリティ					
ダイバーシティ&インクルージョン					
リプロダクティブヘルス・ライツ					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1: 地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる。 DP2: 豊かな人間性と倫理観を備えることができる。 DP3: 良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添えることができる。					
授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会をジェンダーの視点から捉えなおし、所与の物としてとらえてきた事象に潜むジェンダー問題について検討する。 ・女性あるいは男性として生まれ育つことが、公私の領域でどのように人生を規定していくかを学ぶと同時に、「性の二分法」では捉えきることのできない性の多様性について学ぶ。 ・本講義はアクティブラーニング法（受講生自ら課題を見つけ、調べ、議論する）を積極的に取り入れて展開する。 					
授業計画					
第1回	ガイダンス、ジェンダー／セクシュアリティ／男女共同参画とは何か				
第2回	ジェンダー概念の誕生				
第3回	労働とジェンダー①				
第4回	労働とジェンダー②				
第5回	身体とジェンダー①				
第6回	身体とジェンダー②				
第7回	暴力とジェンダー				
第8回	ダイバーシティ&インクルージョン社会に向けて				
教科書及び参考書					
教科書：適宜、プリントを配布します。 参考図書：田中雅一・中谷文美編『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社、2005年 白井千晶編 2022年『アジアの出産とテクノロジー』勉誠出版					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・課題提出（ミニレポート等）60%、学期末試験（もしくはレポート）40%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。					
履修にあたって必要な予備知識など					
履修にあたっての予備知識は必要ありません。 自分の周囲の事象について、ジェンダーの視点から捉えなおしてみませんか。					
備考					
※ 授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	マナー接遇	1単位	1年前期	幅崎 麻紀子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
コミュニケーション (敬い・尊重)		人に対する優しさや思いやりの気持ちを根底に、その場にふさわしい行動パターンを身に付け、より良い人間関係や職場環境を高めることで自己成長に繋げていくことができる。			
人に与える印象					
言葉のおしゃれ					
ビジネス文書 (お礼状の書き方)					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2:豊かな人間性と倫理観を備えることができる。 DP3:良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添えることができる。					
授業の概要					
理学療法士・作業療法士として、さまざまな領域で高い専門性を持ち活躍することが求められる中、他者理解と他者からの協力が必要不可欠となる。知識や技術に加え、より良い人間関係を築くための原則や患者心理の理解など、個人差を十分理解して接していくことを理解し、社会人として、また医療従事者として対象者を支えるために必要なことや相手に配慮した言動等について、敬語の使い分けや人に与える印象、お礼状の書き方の実践等などから学んでいく。					
授業計画					
第1回	マナー、エチケット、ホスピタリティとは				
第2回	コミュニケーションと「報連相」				
第3回	好感を与える話し方・聴き方とは				
第4回	人に与える印象の大切さ				
第5回	人に与える印象を考える				
第6回	敬語の使い分け・好ましい言葉遣い				
第7回	ビジネス文書、お礼状の書き方				
第8回	電話応対とオンラインコミュニケーション				
教科書及び参考書					
実社会で求められるビジネスマナー (専門教育出版)					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・授業時の課題提出50%、 学期末試験 (もしくは課題レポート) 50%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。habazaki@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
履修にあたっての予備知識は必要ありません。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保してください。 状況により、内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	社会学	1単位	1年前期	幅崎麻紀子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
個人と社会		社会学を学ぶことで、個人と社会の接点・関わりの構造を理解し、生活の成り立ちへの知識が広がり、生きること(ICF)への想像力を高めることができる。			
自己と他者					
社会問題					
社会学的想像力					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
授業の概要					
講義では、「人と人のつながり」である社会関係を起点に、社会集団(まとまり)、社会規範(きめごと)、社会システムなどについて、社会学の基礎概念を使って学ぶ。その上で、家族、少子高齢化、都市、労働、グローバル化、環境などの課題に対して、私たちはどのように関わっていくべきかを、社会学の視点から考察する。					
授業計画					
第1回	社会学とは何か				
第2回	様々な社会学理論と研究方法				
第3回	自己と他者				
第4回	家族				
第5回	労働				
第6回	都市				
第7回	グローバル社会				
第8回	社会運動 まとめ				
教科書及び参考書					
教科書：適宜、プリントを配布します。					
参考書：本当にわかる社会学(日本実業出版社)、<私>をひらく社会学(大月書店)					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・課題提出(ミニレポート等)50%、学期末試験(もしくは課題)50%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。habazaki@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
履修にあたって予備知識は必要ありません。身近な事象や経験を、社会学的な視点から捉え直してみましょう。					
備考					
学習効果を高めるために、復習の時間を確保してください。 授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	文化人類学	1単位	1年後期	幅崎麻紀子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
他者理解・自己理解		人間を文化の側面から理解し、異文化や他者を深く理解するための視点と方法を身に着ける。その上で、リハビリテーションの主体となる人々の多様な背景や価値観を理解し、人々への洞察力を高めるとともに、自己理解を深める。			
文化の多様性					
病気と障害					
参与観察					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1: 地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる。 DP2: 豊かな人間性と倫理観を備えることができる。 DP3: 良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添えることができる。					
授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークに基づき、様々な民族の文化を研究することを通して、人間とは何かを研究する学問である文化人類学の研究領域と理論を理解した上で、世界各地の人々の日常生活の営みを題材に、人々の文化の多様性と異文化理解の重要性について学ぶ。特に、「家族」や「医療福祉」をテーマに、より豊かな「生」を実現するための方法について考える。 ・本講義はアクティブラーニング法（受講生自ら課題を見つけ、調べ、議論する）を積極的に取り入れて展開する。 					
授業計画					
第1回	文化人類学とは：異文化理解・他者理解・自己理解				
第2回	異文化の捉え方を考える：文化相対主義				
第3回	異文化を理解する方法：フィールドワークと民族誌				
第4回	家族・親族について考える①：親と子ども				
第5回	家族・親族について考える②：夫婦・パートナー				
第6回	文化と医療①：医療化・脱医療化				
第7回	文化と医療②：病気観、死生観				
第8回	多文化共生社会に向けて				
教科書及び参考書					
教科書：適宜、プリントを配布します。 参考図書：梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン フィールドからの出発』学陽書房 2017年 池田光穂・奥野克己編『医療人類学のレッスン』学陽書房 2007年 その他、授業時に適宜紹介します。					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・課題提出（ミニレポート等）60%、学期末試験（もしくはレポート）40%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。					
履修にあたって必要な予備知識など					
本講義では、受講者が積極的に他者や自己を理解しようとする姿勢が求められます。受講者自身が、自分の身近な経験を、文化人類学の視点から捉え直してみましよう。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	生命倫理学	1単位	1年前期	吉田 幸恵	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生命倫理	優生思想	生殖補助医療	自己決定	1. 人の存在価値に関する概念的対立について理解する。2. 諸事実のいずれに倫理問題が存在するのかを見出す方法を理解する。3. 具体的な事案の倫理的是非について、基本倫理原則と自己の価値観に照らして論じる方法を理解する。	
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DPI:人を尊び、多様な価値観を理解し、人の輪の中で守るべき秩序を持って、地域住民に対して身体的・精神的苦痛に寄り添うことができる能力を有している。					
授業の概要					
生命倫理学とは、法学、宗教学、社会学をはじめ生命科学・医療・保健の分野において人間の在り方を倫理的・道徳的観点から系統的に論ずる学問である。 この授業においては、生命倫理学の発展の経緯と特徴を明らかにしながら、人類社会における倫理学の重要性が生命倫理を産み出した経緯を学習する。この過程を通し、様々な価値基準と情報が氾濫する中、自ら倫理的意思決定を行うことの重要性を理解する。					
授業計画					
第1回	イントロダクション-生命倫理学とはなにか				
第2回	インフォームド・コンセント-自己決定				
第3回	ハンセン病歴における倫理的問題				
第4回	出生前診断と生殖技術について				
第5回	安楽死・尊厳死について				
第6回	臓器移植をめぐる諸問題について				
第7回	医療の役割とは何か				
第8回	総括及び総合討論				
教科書及び参考書					
教科書：特になし（レジュメを配布します） 参考書：玉井真理子・大谷いづみ編『はじめて出会う生命倫理』（2015年、有斐閣アルマ）加藤尚武・加茂直樹編『生命倫理学を学ぶ人のために』（2014年、世界思想社）※絶対に購入しないといけないわけではありません					
成績評価方法					
筆記試験及び授業後のミニレポート					
オフィスアワー					
講義終了後					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	発生生物学	1単位	1年後期	塩見健輔	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
体軸決定		動物を構成する複雑な器官や組織が発生する基本原理について学ぶとともに、遺伝子の働きにより動物の体制が作られる仕組みについて理解する。ヒトを含む多くの動物の体の特徴が、遺伝子により支配されていることを学ぶ。			
三胚葉形成					
神経誘導					
形態形成					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
1つの細胞、受精卵から、どのように成体の複雑なからだが出来ていくのか、そのメカニズムを学ぶのが発生生物学である。本講義では、細胞分化、形態形成など発生の基本原理から、多くの生物に共通する初期発生の分子メカニズムまでを解説する。					
授業計画					
第1回	発生生物学の歴史、発生 of 諸概念				
第2回	ショウジョウバエの発生				
第3回	体軸決定				
第4回	三胚葉形成				
第5回	神経誘導				
第6回	形態形成運動				
第7回	器官形成				
第8回	その他、発生生物学まとめ				
教科書及び参考書					
参考書：ミニマル発生学（医学書院）、発生生物学－基礎から再生医療への応用まで－（裳華房）					
成績評価方法					
レポート課題					
オフィスアワー					
メールにて受付する。アドレスは、講義開始日に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし□					
備考					
復習の時間を十分に確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	データサイエンス論	1単位	1年後期	出澤真乃介	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
データ分析		データを収集・整備することの意義を理解し、講義課題を通してGoogleSheet、Excel等の表計算ソフトを用いて基本的なデータ操作を経験した状態になる。			
表計算					
グラフ作成					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法/作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
データとはなにか。データの基礎から活用事例までを紹介します。 特に医学・リハビリテーション学における基本的なデータの扱いを学習し、課題を通じて基本的なデータの扱い方の習得を目標とします。					
授業計画					
第1回	データサイエンスの基礎				
第2回	社会・リハビリテーション分野におけるデータの活用				
第3回	データの取得				
第4回	コンピュータを用いたデータ操作 (Excel, Googleスプレッドシートなど)				
第5回	データの可視化 (棒グラフ・折れ線グラフ、レーダーチャートなど)				
第6回	データの分析と解釈 (比較、相関、分類など)				
第7回	データ活用事例の紹介				
第8回	まとめ				
教科書及び参考書					
教科書 データサイエンス入門 第3版 (学術図書出版社) 参考図書 図解まるわかり データサイエンスのしくみ (翔泳社)					
成績評価方法					
課題 (100%)					
オフィスアワー					
月曜日 午後					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
これまでの研究や業務で多様なデータを扱ってきた経験を生かして講義を行います。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	法情報リテラシー	1単位	1年後期	岡村 英郎	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
憲法、民法、刑法		憲法、民法、刑法の全体像を理解し、法的思考力、バランス感覚を養う。			
法的思考力					
バランス感覚					
問題解決					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
豊かな人間性と倫理観を備えることができる。					
授業の概要					
民事法、刑事法、憲法等の基本制度を説明の上、法的に問題を解決するプロセスを学んでいく。					
授業計画					
第1回	民事法①				
第2回	民事法②				
第3回	民事法③				
第4回	民事法④				
第5回	刑事法①				
第6回	刑事法②				
第7回	憲法等①				
第8回	憲法等②				
教科書及び参考書					
無し					
成績評価方法					
授業出席、レポート					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	災害支援論 I	1単位	1年後期	上野 修(責任者)/鈴木	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
災害支援論		<p>学生が災害発生時に迅速かつ効果的な支援を提供できる専門的な知識と技術を習得することを目指します。具体的には、災害の影響を受けた地域社会に対し、物資、医療、心理的支援、復興活動を総合的に実施できる能力を養います。また、災害支援における倫理的問題や社会的責任を認識し、協力して支援活動を行うためのリーダーシップやチームワーク能力を育成します。さらに、災害後の評価と改善のため、継続的な学びと自己改善の意識を高めます。</p>			
災害時の役割					
災害時の事前準備					
リーダーシップ					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
<p>災害支援論は、ディプロマ・ポリシーに沿った教育を提供し、学生に災害支援に必要な知識、技能、倫理的視点を養うことを目指しています。学生は、理論と実践を通じて問題解決能力を高め、倫理的な責任を意識しながら、災害支援の現場でリーダーシップとチームワークを発揮できるようになります。また、災害支援活動を学び、社会的貢献を果たすための具体的なスキルを身につけることができます。</p>					
授業の概要					
<p>この授業では、災害発生時における支援活動の基本的な知識を学びます。学生は、災害時に必要な物資の調達、医療支援、避難所運営、心理的ケアなど、幅広い支援の方法を総合的に理解し、効果的に対応する能力を養います。授業内容は、災害の種類や影響、災害支援の計画と実行方法、そして支援後の復興活動に関する理論を中心に進められます。さらに、災害支援における倫理的問題や社会的責任についても学び、実際の支援現場でのリーダーシップやチームワークの重要性を強調します。授業では、シミュレーションやケーススタディを通じて、現場で役立つ実践的な知識も習得します。</p>					
授業計画					
第1回	はじめに：災害支援の重要性				
第2回	災害時の作業療法士・理学療法士の役割				
第3回	災害対応の準備：事前準備と備蓄				
第4回	避難所での支援活動				
第5回	障害者や高齢者への支援				
第6回	災害時のメンタルヘルスケア				
第7回	家屋や住居での支援				
第8回	まとめ				
教科書及び参考書					
PPTを使用します。					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	スポーツ理論・実技 I	1単位	1年前期	呉 世祖	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
スポーツの歴史・文化		スポーツの歴史・文化と身体機能、運動メカニズムを学び、健康・体力づくりの基礎を理解できる。実技ではバスケットボールの基本技能を安全に実践し、身体活動の継続につなげられるようになる。			
身体機能					
運動メカニズム					
バスケットボール					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
本授業は、多様な価値観を理解し尊重しながら、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力の基盤形成に関連する。スポーツ活動を通して安全配慮と他者理解を学び、協働的な態度を養う。					
授業の概要					
本授業では、スポーツの歴史・文化および身体機能と運動メカニズムを学び、健康・体力づくりの基礎を理解する。実技ではバスケットボールを題材として、ウォーミングアップ、基礎技能（ドリブル、パス、シュート）、体力要素（筋力・持久力等）を段階的に学修し、試合形式の活動へとつなげる。学生の体力や経験の差に配慮し、個々が安全に運動を継続できること、ならびに運動・スポーツを楽しみながら主体的に参加することを重視して授業を進める。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、スポーツの歴史と文化(講義)				
第2回	スポーツ文化と身体機能及び運動メカニズム(講義)				
第3回	バスケットボールを向上させるためのウォーミングアップ(上肢・下肢)				
第4回	バスケットボールを向上させるためのウォーミングアップ(体幹)				
第5回	バスケットボール技術(ランニングとターン①(基礎))				
第6回	バスケットボール技術(ランニングとターン②(応用・実践))				
第7回	バスケットボール技術(ウェイトトレーニング:上肢、下肢)				
第8回	バスケットボール技術(ウェイトトレーニング:体幹)				
第9回	バスケットボール技術練習(ドリブル)				
第10回	バスケットボール技術練習(パスワーク)				
第11回	バスケットボール技術練習(シュート)				
第12回	バスケットボール技術練習(ポジション別)				
第13回	バスケットボール試合①				
第14回	バスケットボール試合②(チーム変更)				
第15回	バスケットボール試合③(チーム変更)				
教科書及び参考書					
特に定めず					
成績評価方法					
実技40%、レポート課題20%、定期試験40%					
オフィスアワー					
月曜日・木曜日11時30分～15時、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
十分な睡眠、栄養を取っておくこと。					
備考					
主体的に参加するように。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	スポーツ理論・実技Ⅱ	1単位	1年後期	呉 世祖	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
体力		健康の維持・増進または体力の向上ができ、生涯にわたって運動・スポーツを楽しむために必要な知識を理解し、説明できる。			
健康増進					
運動習慣					
筋力トレーニング					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
授業の概要					
体力と健康の関係についての理論背景を学修し、体力の向上をすることで健康が維持できることを自己の運動から経験し、運動・スポーツを日常生活の中で習慣化できるようにしていく。さらに、その経験を周囲の人々に共感できるような環境を整備し、様々な人の生活を支援できることを意識して学修する。学生のスポーツ歴や体力レベルの違いにより、一律に講義を計画通りに進めることが困難である場合は、別途内容を検討し、体力向上についての楽しみを学ぶことを重要として、授業を進めていく。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、体力と健康(講義)				
第2回	体力向上のメカニズム(講義)				
第3回	筋力トレーニングの基本①				
第4回	筋力トレーニングの基本②				
第5回	体力向上練習(柔軟性向上プログラム)				
第6回	体力向上練習(巧緻性向上プログラム)				
第7回	体力向上練習(上肢筋力強化プログラム)				
第8回	体力向上練習(下肢筋力強化プログラム)				
第9回	体力向上練習(体幹筋力強化プログラム)				
第10回	体力向上練習(局所的筋持久性向上プログラム)				
第11回	体力向上練習(全身持久性向上プログラム)				
第12回	体力向上練習(筋力向上プログラム作成)①				
第13回	体力向上練習(筋力向上プログラム作成)②				
第14回	体力向上練習(筋力向上プログラム作成)③				
第15回	体力テスト(評価とフィードバック)				
教科書及び参考書					
特に定めず					
成績評価方法					
実技30%、レポート課題20%、定期試験50%					
オフィスアワー					
月曜日・木曜日11時30分～15時、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
十分な睡眠、栄養を取っておくこと。					
備考					
主体的に参加するように。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	健康と食の科学	1単位	1年後期	櫻井 麻理	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
食生活		健康と食に関して基礎知識を身に付け、自身の日常生活において振り返ることができる。また、ライフステージ別の特徴や生活習慣病について理解し、食生活との関連を学ぶ。			
栄養素					
生活習慣病					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。 DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
日本は平均寿命が男女ともに80歳を超え伸び続けていますが、健康寿命と寿命の間にはいまだに約10年のギャップがあります。最先端の医療を駆使しても、多くの加齢性疾患の治療は困難ですが、予防することは可能です。本講義では、日本人が伝統的に大切にしてきた医食同源という食による疾患予防の文化をアップデートします。これまでに人類が蓄積してきた食に関する膨大な知恵に加えて、最先端科学による明確なエビデンスに基づいた健康に役立つ「食」に関して学ぶことで、毎日の生活の中で実践できる知識を身につけることを目的とします。					
授業計画					
第1回	食品の分類、成分および物性				
第2回	食品の機能				
第3回	栄養の概念および働き				
第4回	食生活の現状				
第5回	食生活と疾病				
第6回	ライフステージ別の特徴と栄養				
第7回	調理の基礎				
第8回	調理の基礎				
教科書及び参考書					
カラーグラフ 食品成分表 (実教出版)					
成績評価方法					
定期試験80%、レポート課題20%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	健康教育学	1単位	1年後期	呉世昶	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
ヘルスプロモーション		健康に関する基礎的知識を整理し、患者や一般市民に分かりやすく説明できるようになる。あわせて、健康情報を批判的に評価し、科学的根拠に基づいて適切に活用する力を身に付ける。			
健康情報リテラシー					
行動変容					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
本授業は、多様な価値観を尊重しながら、科学的根拠に基づいて健康情報を判断し、対象者の生活を支援するための基礎的能力の養成に関連し、ディプロマ・ポリシーの達成に資する。					
授業の概要					
本授業では、将来、患者や一般市民に健康について「伝える立場」になることを想定し、健康教育の基礎的な考え方を学ぶ。肥満や慢性疾患、生活習慣と健康の関係について、専門的知識をどのように噛み砕いて説明すべきかを扱うとともに、インターネットやSNS、AIを通じて流通する健康情報の中から、正確で信頼できる情報を見極める視点を養う。講義を通して、科学的根拠に基づいた健康教育を実践するための基礎力を身に付けることを目指す。					
授業計画					
第1回	健康教育学とは何か—患者に「健康を教える」立場としての視点				
第2回	肥満人口の増加と慢性疾患—データを使って健康課題をどう伝えるか				
第3回	慢性疾患をどう説明する—専門知識を「誤解なく伝える」ための考え方				
第4回	生活習慣と健康教育—食事・日常行動をどう教育に落とし込むか				
第5回	健康教育で扱う検査値の考え方—数値を煽らず、正しく理解させる伝え方				
第6回	寿命・健康寿命と健康教育—「長生き＝健康」という誤解をどう正すか				
第7回	健康情報と教育者の責任—誤情報・過剰情報・AI情報との向き合い方				
第8回	まとめ—AI時代における健康教育者の役割				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する。					
成績評価方法					
レポート課題30%、定期試験60%、授業への積極的参加度10%					
オフィスアワー					
火曜日・木曜日10時00分～11時00分、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	健康科学	1単位	1年後期	呉世昶	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生理学的メカニズム		健康に関わる生理学的メカニズムを理解し、肥満、代謝、内分泌、ストレス反応が生体に与える影響を科学的に説明できるようになる。			
代謝調節					
内分泌応答					
ストレス生理					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
本授業は、多様な価値観を尊重しながら、科学的根拠に基づいて健康を理解し支援するための基礎的能力の養成に関連し、ディプロマ・ポリシーの達成に資する。					
授業の概要					
本授業では、健康を単なる生活習慣の結果としてではなく、生体内で生じる生理学的メカニズムの観点から捉える。肥満と慢性疾患の拡大を背景に、代謝調節、脂肪組織および骨格筋の内分泌機能、ストレスに対する自律神経・内分泌応答など、近年の健康科学研究で注目されるテーマを扱う。講義を通して、健康を科学的に理解するための基礎的視点を身に付けることを目指す。					
授業計画					
第1回	導入：健康科学を「メカニズム」で学ぶ（健康観・研究の見方）				
第2回	肥満と慢性疾患の拡大（疫学的背景と健康リスクの全体像）				
第3回	肥満が病気を引き起こすメカニズム				
第4回	エネルギー代謝と健康（糖代謝・脂質代謝の調節と代謝柔軟性）				
第5回	脂肪組織は内分泌臓器（アディポカインと全身代謝調節）				
第6回	骨格筋と健康科学（マイオカインと臓器間ネットワーク）				
第7回	ストレスの生理学（自律神経・内分泌反応と健康への影響）				
第8回	まとめ				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する。					
成績評価方法					
レポート課題30%、定期試験60%、授業への積極的参加度10%					
オフィスアワー					
火曜日・木曜日10時00分～11時00分、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	英語コミュニケーションⅠ	1単位	1年前期	Richard Schwartz	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
医療英会話 会話表現 英会話		1. 医療・看護現場での必要な会話表現、専門用語の習得と実践ができる。 2. 医療・看護現場で必要とされる心構えや態度などを理解し修得できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
授業の概要					
本授業では、日本の医療・看護現場で必要とされる医療英語の基本表現や専門用語を学び、外国人患者とのコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。授業では医療場面を想定した会話練習やロールプレイを行い、実践的な英語表現を習得する。最後に、学習した医療英語を用いた寸劇形式の発表を行う。					
※小テストはスマートフォンでQRコードを読み込み実施予定					
授業計画					
第1回	英語習得の心構え。英語での挨拶と自己紹介。 寸劇の要領説明				
第2回	Unit 1 Please speak more slowly グループ割、				
第3回	Unit 2 Where are you from? 小テスト① 寸劇提案書提出				
第4回	Unit 3 Could you tell me your address, please? 小テスト②				
第5回	Unit 4 What department do you want to visit? 小テスト③				
第6回	Unit 5 Where is the X-ray department? 小テスト④				
第7回	Unit 6 What are your symptoms? 小テスト⑤ 寸劇下書き1提出				
第8回	小テスト⑥ 英語での看護寸劇の発表、評価、まとめ				
教科書及び参考書					
知念クリスティーン、上瀧真紀恵 著 「クリスティーンのやさしい看護英会話」 (医学書院)					
成績評価方法					
小テスト6回 単位認定寸劇 1回 英語寸劇の評価、授業態度					
オフィスアワー					
講義終了後					
履修にあたって必要な予備知識など					
講義中の積極的な発言を求めます。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	英語コミュニケーションⅡ	1単位	1年後期	Richard Schwartz	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
医療英会話	会話表現	1. 医療・看護現場での必要な会話表現、専門用語の習得と実践ができる。 2. 医療・看護現場で必要とされる心構えや態度などを理解し修得できる。			
英会話					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
授業の概要					
<p>本授業では、日本の医療・看護現場で必要とされる医療英語の基本表現や専門用語を学び、外国人患者とのコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。授業では医療場面を想定した会話練習やロールプレイを行い、実践的な英語表現を習得する。最後に、学習した医療英語を用いた寸劇形式の発表を行う。</p> <p>※小テストはスマートフォンでQRコードを読み込み実施予定</p>					
授業計画					
第1回	英語習得の心構え。英語での挨拶と自己紹介。 寸劇の要領説明				
第2回	Unit 7 Where does it hurt? グループ割、				
第3回	Unit 8 Have you ever had any serious illnesses? 小テスト① 寸劇提案書提出				
第4回	Unit 9 Take one tablet, four times a day. 小テスト②				
第5回	Unit 10 Let me make an appointment for your test. 小テスト③				
第6回	Unit 11: your surgery will be tomorrow at 9 a.m. 小テスト④				
第7回	Unit 12: How are you feeling today? 小テスト⑤ 寸劇下書き1提出				
第8回	小テスト⑥ 英語での看護寸劇の発表、評価、まとめ				
教科書及び参考書					
知念クリスティーン、上瀧真紀恵 著 「クリスティーンのやさしい看護英会話」 (医学書院)					
成績評価方法					
小テスト 6回 単位認定寸劇 1回 英語寸劇の評価、授業態度					
オフィスアワー					
講義終了後					
履修にあたって必要な予備知識など					
講義中の積極的な発言を求めます。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	人体構造学 I	1単位	1年前期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
上肢の骨、下肢の骨、頭蓋骨、脊柱の骨、胸郭、上肢骨の連結、下肢骨の連結、脊柱の連結・頭蓋との連結、胸郭の連結、顎関節、上肢の筋、下肢の筋、頭頸部の筋、背部の筋、腹壁の筋、脊髄神経、上肢の神経、下肢の神経、頭頸部の神経、体幹の神経		理学療法、作業療法に必要な人体の構造と機能を関連付けて身につける。 (1)人体の骨格を構成する骨の名称と特徴について説明できるようになる。 (2)人体の筋群の起始・停止、支配神経および作用について説明できるようになる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学・作業療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
人体の骨格とその連結の構造と働き、筋の起始・停止、作用（関節の運動）、脊髄神経の構成、分布と機能、神経障害の機序について学ぶ。特に、日常の臨床に重要な機能に重点をおいて学ぶ。					
授業計画					
第1回	シラバスによる授業計画・評価方法等のガイダンス。骨格系（総論）、上肢の骨（上肢帯骨・上腕の骨）				
第2回	骨の連結（総論）、上肢骨の連結（上肢帯・自由上肢の連結と運動）				
第3回	下肢の骨（下肢帯の骨・大腿骨・下腿の骨・足の骨）、下肢骨の連結（下肢帯の連結と運動）				
第4回	背部の骨格（椎骨・頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・脊柱・寛骨）				
第5回	胸壁の骨（胸骨・肋骨・胸郭）、脊柱の連結、胸郭の連結				
第6回	頭蓋骨（顔面頭蓋・脳頭蓋・舌骨）				
第7回	筋系（総論）、上肢の筋（上肢帯の筋・上腕の筋）				
第8回	上肢の筋（前腕の筋・手の筋）、下肢の筋（下肢帯の筋）				
第9回	下肢の筋（大腿の筋・下腿の筋・足の筋）				
第10回	体幹：胸壁・腹壁の筋、横隔膜				
第11回	頭頸部の筋、背部の筋（固有背筋）				
第12回	神経系（総論、脊髄神経）、上肢の神経（腕神経叢）				
第13回	上肢の神経（主要神経の走路と分布）、下肢の神経（腰神経叢）				
第14回	下肢の神経（仙骨神経叢）、骨盤の神経（陰部神経叢）				
第15回	体幹：背部・胸壁・腹壁の神経（胸神経・肋間神経）、頭頸部の神経（頸神経叢）				
教科書及び参考書					
【教科書】透かしてみるとミルミルわかる!! 解剖学 学研 体表からわかる人体解剖学 原書第二版 南江堂 2800円					
成績評価方法					
中間試験および定期試験 100%					
オフィスアワー					
クラスルームにアクセスして質問してください。					
履修にあたって必要な予備知識など					
教科書あるいは配布資料で授業計画ごとの項目に関する内容を事前に読んでおく。					
備考					
授業中の内容を理解すること！医学用語は後から覚えること！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	人体構造学Ⅱ	1単位	1年後期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
組織、脳神経、自律神経、循環器系、感覚器系、呼吸器系、消化器系、内分泌系、泌尿器系、男性・女性生殖器系、外皮(皮膚)、細胞の構造		理学療法、作業療法に必要な人体の構造と機能を学ぶ。とくに日常の臨床に重要な機能に重点をおいて学ぶ。 (1)細胞・組織の(微細)構造と働きについて説明できるようになる。(2)脳神経・自律神経の構成と機能について説明できるようになる。(3)器官系の各臓器の構造と機能について説明できるようになる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学・作業療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
脳神経・自律神経の構成と機能について学習する。内臓系器官の構造と機能がどのような組織や細胞の微細構造に基づいているかを理解する。また、細胞の機能と疾患との関係を理解する。					
授業計画					
第1回	骨組織、軟骨組織、関節の組織構造、筋組織				
第2回	神経組織、上皮組織、結合組織				
第3回	脳神経1(嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経、三叉神経、外転神経)				
第4回	自律神経系1(総論、交感神経系1)				
第5回	感覚器系:眼(眼球・眼筋・眼瞼・涙器)、				
第6回	感覚器系:味覚器、嗅覚器、外皮(皮膚)				
第7回	循環器系(心臓・大動脈・大静脈・リンパ系・脾臓・胎児の循環)				
第8回	呼吸器系(鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺)、循環器系(呼吸器の血管)				
第9回	消化器系1(口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸)、循環器系(消化器の血管1)				
第10回	消化器系2(肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜)、循環器系(消化器の血管2)				
第11回	泌尿器系(腎臓・尿路)、循環器系(腎臓の血管)				
第12回	男性生殖器系(精巣・精路・外生殖器)、循環器系(男性生殖器の血管)				
第13回	女性生殖器系(卵巣・卵管・子宮・外生殖器)、循環器系(女性生殖器の血管)				
第14回	内分泌系(下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・性腺)、循環器系(内分泌器の血管)				
第15回	細胞の構造				
教科書及び参考書					
【教科書】1.解剖学(仮)リブサイエンス 2.透かしてみるとミルミルわかる!!解剖学 学研					
成績評価方法					
中間試験および定期試験100%					
オフィスアワー					
履修にあたって必要な予備知識など					
講義内で話します					
備考					
授業中に講義を理解すること!授業中に勉強しよう!					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	生理学 I	1単位	1年前期	塩見健輔	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード	学修教育目標(学修成果)				
興奮性細胞	①体内におけるシグナルの伝わりかた ②神経系の機能・調節 ③感覚系の機能・調節 ④循環器系の機能・調節 などについて説明することができる。				
中枢神経系					
末梢神経系					
感覚系					
循環系					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
人体内部における情報のネットワークやその機能について理解する。刻々と変化する外的環境および内的環境への人体の対応がどのような仕組みで行われているのか、について理解する。					
授業計画					
第1回	序論（オリエンテーション）、細胞の基本的構造と機能				
第2回	膜電位とシナプス伝達				
第3回	神経の基本的構造と機能				
第4回	中枢神経系 I 大脳皮質				
第5回	中枢神経系 II 大脳辺縁系、大脳基底核				
第6回	中枢神経系 III 間脳、脳幹、小脳				
第7回	中枢神経系 IV 脊髄				
第8回	脳神経系				
第9回	末梢神経、運動系、反射				
第10回	感覚系 I（総論、体性感覚）				
第11回	感覚系 II（特殊感覚）				
第12回	自律神経系				
第13回	筋肉の構造と機能				
第14回	循環系 I（心臓）				
第15回	循環系 II（血管）				
教科書及び参考書					
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版（医学書院） 参考書：消して忘れない生理学 要点生理ノート（羊土社）					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
メールにて受付する。アドレスは、講義開始日に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
教科書あるいは配布資料で授業計画ごとの項目に関する内容を事前に読んでおく。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	生理学Ⅱ	1単位	1年後期	塩見健輔	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
ホルモン		①ホメオスタシスの維持 ②栄養の吸収および排泄 ③尿の生成と体液の調節 ④呼吸の仕組みと働きおよび酸塩基平衡 ⑤体温の調節機構 ⑥精子形成および女性の性周期などについて説明することができる。			
消化・吸収					
泌尿器					
呼吸					
体温					
生殖					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
ホメオスタシスの維持機構に加え、人が生きていくうえで大切な呼吸のしくみ、栄養の吸収や排泄、生殖における基本的な知識を身につける。					
授業計画					
第1回	呼吸系（1）肺機能				
第2回	呼吸系（2）呼吸調節				
第3回	血液成分、血液凝固と線溶				
第4回	炎症と免疫系				
第5回	泌尿器系の構造と機能				
第6回	消化器系Ⅰ（総論、嚥下機能、口腔・食道・胃）				
第7回	消化器系Ⅱ（小腸・大腸・肝臓など）				
第8回	内分泌系Ⅰ（総論 ホルモンの種類と働き）				
第9回	内分泌系Ⅱ（視床下部、下垂体、甲状腺、副甲状腺）				
第10回	内分泌系Ⅲ（膵臓、副腎、性腺など）				
第11回	内分泌系Ⅳ（まとめ）				
第12回	生殖器系				
第13回	成長と老化				
第14回	代謝、栄養、体液調節				
第15回	その他、生理学まとめ（体温、発生と組織、運動生理）				
教科書及び参考書					
教科書：標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学 第6版（医学書院） 参考書：消っして忘れない生理学 要点生理ノート（羊土社）					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
メールにて受付する。アドレスは、講義開始日に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
教科書あるいは配布資料で授業計画ごとの項目に関する内容を事前に読んでおく。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	人体構造学実習	2単位	1年通年	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
人体構造学ⅠならびにⅡに示したキーワード		理学療法、作業療法に必要な人体の構造と機能を関連付けて実物で理解し、体得する。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法・作業療法分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
人体の構造を骨格模型、骨格筋模型、神経分布を立体的、総合的に理解する。実地に役立つように骨格、骨の基本的部位を体表から触診し、生体における位置を知る。関節の運動を行うことで、生体における筋の所在を触診する。主要な神経の所在と走行を体表から触診し、その働きを理解し考える。					
授業計画					
第1回	上肢の骨（上肢帯骨・上腕の骨・前腕の骨・手の骨）				
第2回	上肢骨の連結（自由上肢の連結と運動）、下肢の骨（下肢帯の骨）				
第3回	下肢骨の連結（下肢帯の連結と運動・自由下肢の連結と運動・足弓）				
第4回	背部の骨格（腰椎・仙骨・脊柱・寛骨）				
第5回	胸壁の骨（胸骨・肋骨・胸郭）、脊柱の連結、胸郭の連結、				
第6回	頭蓋骨（脳頭蓋・顔面頭蓋・舌骨）、顎関節				
第7回	上肢の筋（上肢帯の筋と上腕の筋）				
第8回	上肢の筋（前腕の筋・手の筋）、下肢の筋（下肢帯の筋）				
第9回	下肢の筋（大腿の筋・下腿の筋・足の筋）				
第10回	体幹：胸壁・腹壁の筋、横隔膜				
第11回	頭頸部の筋、背部の筋（固有背筋）				
第12回	神経系（脊髄神経）、上肢の神経（腕神経叢）				
第13回	上肢の神経（主要神経の走路と分布）、下肢の神経（腰神経叢）				
第14回	下肢の神経（仙骨神経叢）、骨盤の神経（陰部神経叢）				
第15回	体幹：背部・胸壁・腹壁の神経（胸神経・肋間神経）、頭頸部の神経（頸神経叢）				
第16回	骨組織、軟骨組織、関節の組織構造、筋組織、				
第17回	神経組織、上皮組織、結合組織				
第18回	脳神経2（顔面神経・内耳神経・舌咽神経・迷走神経・副神経・舌下神経）				
第19回	自律神経系2（交感神経系2・副交感神経系）				
第20回	感覚器系：耳（外耳・中耳・内耳）				
第21回	循環器系（心臓・大動脈・大静脈・リンパ系・脾臓・胎児の循環）				
第22回	循環器系（心臓・大動脈・大静脈・リンパ系・脾臓・胎児の循環）				
第23回	呼吸器系（鼻腔・咽頭・喉頭・気管・気管支・肺）、循環器系（呼吸器の血管）				
第24回	消化器系1（口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸）、循環器系（消化器の血管1）				
第25回	消化器系2（肝臓・胆嚢・膵臓・腹膜）、循環器系（消化器の血管2）				
第26回	泌尿器系（腎臓・尿路）、循環器系（腎臓の血管）				
第27回	男性生殖器系（精巣・精路・外生殖器）、循環器系（男性生殖器の血管）				
第28回	女性生殖器系（卵巣・卵管・子宮・外生殖器）、循環器系（女性生殖器の血管）				
第29回	内分泌系（下垂体・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎・膵臓・性腺）、循環器系（内分泌器の血管）				
第30回	細胞の構造				
教科書及び参考書					
【教科書】1.解剖学（仮）リブサイエンス、 2.ポケットチューター体表からわかる人体解剖学 【参考書】1. 分担解剖1・2 森 於菟 他. 金原出版 2. ネット解剖学アトラス, 相磯貞和訳. 南江堂 3. 解剖学講義 伊藤隆, 高野広子著 南山堂					
成績評価方法					
中間試験および定期試験100%					
オフィスアワー					
月・水・木・金曜日 12時50分～13時50分、 17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
教科書あるいは配布資料で授業計画ごとの項目に関する内容を事前に読んでおく。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	生理学実習	1単位	1年後期	塩見健輔(責任教員)/董/巻/山元	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生体反応		生体反応について実践的な理解力を習得する 生体反応の計測方法を体験を通じて修得する 動物生理と植物生理の違いを実践的に理解する			
動物生理					
植物生理					
生理学的計測方法					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・解決できる能力を有している。					
授業の概要					
人における生理的な計測方法を実習で学ぶ。また何らかの刺激による生理的变化についての実習を行う。実習で得られたデータを整理分析し、表やグラフへの表示について学ぶ。これらの生理的变化の仕組みについて考察する。					
授業計画					
第1回	血圧・心拍数の測定 実習 (塩見、董、山元)				
第2回	血圧・心拍数の測定 実習 (塩見、董、山元)				
第3回	上記 結果のまとめ (塩見、董、山元)				
第4回	各グループ発表 (塩見、董、山元)				
第5回	心電図測定 実習 (塩見、董、山元)				
第6回	心電図測定 実習 (塩見、董、山元)				
第7回	上記 結果のまとめ (塩見、董、山元)				
第8回	各グループ発表 (塩見、董、山元)				
第9回	呼吸機能の測定・平衡感覚機能の測定 実習 (塩見、巻、山元)				
第10回	呼吸機能の測定・平衡感覚機能の測定 実習 (塩見、巻、山元)				
第11回	上記 結果のまとめ (塩見、山元)				
第12回	各グループ発表 (塩見、山元)				
第13回	皮膚感覚測定・視覚機能測定 実習 (塩見、董、山元)				
第14回	皮膚感覚測定・視覚機能測定 実習 (塩見、董、山元)				
第15回	上記 結果のまとめ、各グループ発表 (塩見、董、山元)				
教科書及び参考書					
教科書：生理学実習NAVI（第3版）（医歯薬出版）					
参考書：リハビリテーションテキスト 生理学（メジカルビュー社）					
成績評価方法					
レポート100%					
オフィスアワー					
メールにて受付する。アドレスは、講義開始日に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
生理学の科目について復習しておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	リハビリテーション概論	1単位	1年前期	新田 収	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
リハビリテーション 病気と障害 チームアプローチ 社会保障		リハビリテーションの概念、定義、リハビリテーション医療の流れ、リハビリテーション関連職種の専門分野、役割、あるべき姿、現状の課題について説明することができる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
<p>病気とは何か、障がいとはまた、障がい者の権利に関する条約、高齢者等の擁護などの視点からリハビリテーションの概念、定義、リハビリテーション医療の流れ、リハビリテーション関連職種の専門分野、役割、あるべき姿、現状の課題などを教授し、リハビリテーション領域での理学療法士の専門性について科学的根拠に基づきながら検討していき、自らの役割を考える基盤を形成していく。</p>					
授業計画					
第1回	リハビリテーションの理念				
第2回	健康と疾病の捉え方				
第3回	リハビリテーション対象者の理解				
第4回	リハビリテーションの5分野 1				
第5回	リハビリテーションの5分野 2				
第6回	医療体制 1				
第7回	医療体制 2				
第8回	リハビリテーションにおける理論 1				
第9回	リハビリテーションにおける理論 2				
第10回	リハビリテーションの実際 1				
第11回	リハビリテーションの実際 2				
第12回	保健予防の考え方と実践 1				
第13回	保健予防の考え方と実践 2				
第14回	医療・福祉制度と関連法規				
第15回	振り返り、まとめ				
教科書及び参考書					
リハビリテーション基礎講座, リハビリテーション概論: 医歯薬出版社					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
月曜日12時50分～17時50分, 木曜日以外の午前中: 職員室					
履修にあたって必要な予備知識など					
授業を受けるにあたり、対応する教科書の内容を読んできてください					
備考					
自身の将来について考えながら受講してください。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により、内容を変更をする場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	保健医療福祉論	1単位	1年後期	入内島芳崇	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
健康転換	地域包括ケアシステム	健康転換と地域包括ケアシステムの関連を学ぶことで、包括的な視点から、医療と保健福祉の連携が必要とされる理由やリハビリテーションの目標を説明することができる。			
リハビリテーション(目標)	医療・介護(保健福祉)連携				
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2:理学療法士・作業療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
授業の概要					
授業は、①健康転換に伴う医療から介護、地域へという時代の流れ、②それを受けた地域包括ケアシステムの構築、医療介護連携(多職種連携)、リハビリテーションの目標が説明される。③最後に、受講生自ら医療介護連携の事例を調べて発表することにより、医療と保健福祉の連携を必要とする実情に目を向け、これからのリハビリ職に求められる包括的な視点について理解を深める。					
授業計画					
第1回	授業の案内：医療と保健福祉の連携を学ぶ(概要)				
第2回	保健・医療・福祉の連携：「新しい介護の形」を求めて				
第3回	健康転換①：人口構造と疾病構造の変化(高齢化と生活習慣病)				
第4回	健康転換②：健康問題と対応システムの変化(地域包括ケアシステム)				
第5回	住み慣れた地域で自分らしい暮らしとは？①：理念と課題				
第6回	住み慣れた地域で自分らしい暮らしとは？②：構成要素と担い手				
第7回	地域包括ケアシステムをどう創るのか？：葉っぱ事業/土事業				
第8回	地域包括ケアとリハビリテーション：求められる「包括」的視点				
第9回	日常生活の可能性を広げるケア：リハビリ前置主義				
第10回	課題研究1：「医療と介護」の連携を考える(地域包括ケアとリハビリ職)				
第11回	なじみの関係をあきらめないために何が必要なのか？：連携と協働				
第12回	地域包括ケアシステムがなぜいま求められるのか？：背景				
第13回	課題研究2：「医療と介護」の連携を考える(地域包括ケアとリハビリ職)				
第14回	課題研究3：「医療と介護」の連携を考える(地域包括ケアとリハビリ職)				
第15回	授業の要点：医療と保健福祉の連携を学ぶ(整理)				
教科書及び参考書					
特になし					
成績評価方法					
単元要約60点、意見発表10点、課題研究30点、定期試験100点の総合点で評価					
オフィスアワー					
質問等は開講時に指定する「フォーム」に記入してください(後日、返答します)					
履修にあたって必要な予備知識など					
社会学で学修したキーワード「生きること(ICF)」を思い出してください					
備考					
受講生には、知識の抜けを防ぎ、定着させることを優先して、「復習」を推奨します 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	理学療法概論Ⅰ	1単位	1年前期	縄井 清志	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
理学療法の基礎		様々な情報を整理して、科学的根拠に基づきながら理学療法士として社会にどのようにして貢献できるかを説明することができる。			
理学療法士の役割					
理学療法士の職域					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
理学療法の基本として、倫理・哲学、歴史、法律、学問体系、研究手法、管理、職域などについて学修する。日本における理学療法の現状などの様々な視点から情報を得て、将来どのような理学療法士として社会に貢献できるかについて明確にできるよう説明していく。理学療法(学)としての学問を科学的根拠に基づいて整理できるようにしていく。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、理学療法と倫理・哲学（プロフェッショナリズム）				
第2回	第1章 インTRODクシヨン／理学療法Ⅰ				
第3回	第2章 リハビリテーションと関連職種／理学療法Ⅱ				
第4回	第3章 理学療法の方法Ⅰ				
第5回	第4章 理学療法の方法Ⅱ				
第6回	第5章 理学療法の対象の理解Ⅰ				
第7回	第6章 理学療法の対象の理解Ⅱ				
第8回	第7章 理学療法の実際				
第9回	第8・9章 理学療法士の倫理と適正Ⅰ・Ⅱ				
第10回	第10章 理学療法に必要な研究法				
第11回	第11章 理学療法に関わる法令・制度				
第12回	第12章 理学療法の歴史と展望				
第13回	第13章 理学療法の安全管理				
第14回	心理リハビリテーション				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
改訂第2版 PTスタートガイド 基礎理学療法概論 メジカルビュー 2024					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
月曜日11時30分～12時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
理学療法について事前に学修しておいてください。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により、内容を変更をする場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	理学療法概論Ⅱ	1単位	1年後期	原 佳祐(責任者)/佐川 修平	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
理学療法の適性	心理的対応	職域開拓	理学療法士に求められる新たな職域の開拓について、科学的根拠に基づいて説明することができる。その科学的根拠の内容として、ICFと障害について、理学療法と職域に関連させて説明することができる。		
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
理学療法の基本として、職域、適正、教育課程、心理的対応、職域拡大などについて学修する。理学療法士としての専門知識と技能を活かして、理学療法士の職域新たな開拓はどのようなものが存在するのかについて学修していく。その新たな職域においても科学的根拠に基づいて説明することができるようにする。					
授業計画					
第1回	理学療法士の適性と資質・心理メンタルヘルスへの対応(原)				
第2回	理学療法士の職域は本来多様である(原)				
第3回	ICFの生成過程から「健康」について考え、PTの職域の拡大を見通す(原)				
第4回	ICFの生活機能の考え方からPTの職域拡大の可能性を考える(原)				
第5回	ICFの背景因子の考え方からPTの職域拡大の可能性を考える(原)				
第6回	ICFの3つの発展した点からPTの職域拡大の可能性を考える(原)				
第7回	ICFと理学療法の合致性からPTの職域拡大の可能性を考える(佐川)				
第8回	ICFと職域拡大についての到達度確認演習(原)				
第9回	疾病と障害の理解と職域の広がり(原)				
第10回	骨関節筋の構造と機能の障害の理解と職域の広がり(原)				
第11回	筋肉の構造と機能の理解と職域の広がり(原)				
第12回	神経の構造と機能の理解と職域の広がり(原)				
第13回	呼吸と循環器および代謝の構造と機能の理解と職域の広がり(原)				
第14回	発達の障害の理解と職域の広がり(原)				
第15回	活動と参加の制限と制約の理解と職域の広がり(原)				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する 参考書：国際生活機能分類(ICF)―国際障害分類改定版―(中央法規)					
筆記試験100%(1回目50% 2回目50%)					
オフィスアワー					
月曜日・火曜日・金曜日12時30分～13時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
ICFについて復習をお願いします。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	理学療法基礎セミナーⅠ	1単位	1年前期	犬田 和成	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
アクティブラーニング		理学療法の基本的な知識を習得し、理学療法士としての役割や責任を理解し、説明することができる。			
グループワーク					
プレゼンテーション					
討論					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
<p>理学療法基礎セミナーⅠは、少人数学習（5～6名）を中心として実施する演習科目である。本科目では、理学療法士を目指す学生に対して、まずはじめにどのような資質が求められるかについて検討する。さらに、理学療法士の現状や課題、地域社会が抱える課題やその解決方法についてグループワークを行いながら演習形式で開講する。グループワークを通して、学生間とのコミュニケーション能力を高め、科学的な根拠に基づいた内容から検証していくこととする。</p>					
授業計画					
第1回	グループワークの効果、プレゼンテーションの仕方について(グループワーク)				
第2回	(演習課題1) 理学療法士を目指す学生の心構え(グループワーク)				
第3回	(演習課題1) グループ発表、振り返り、総評				
第4回	(演習課題2) 主体的学修に必要なものとは				
第5回	(演習課題2) グループ発表、振り返り、総評				
第6回	(演習課題3) 理学療法士の役割と他職種連携について(グループワーク)				
第7回	(演習課題3) グループ発表、振り返り、総評				
第8回	(演習課題4) 地域社会の課題について(グループワーク)				
第9回	(演習課題5) 地域社会の課題解決方法について(グループワーク)				
第10回	(演習課題6) 地域社会に貢献するためには(グループワーク)				
第11回	(演習課題4、5、6) グループ発表、振り返り、総評				
第12回	(演習課題7) 科学的根拠に基づくこととは(グループワーク)				
第13回	(演習課題7) グループ発表、振り返り、総評				
第14回	(演習課題8) 日本における理学療法士の課題(グループワーク)				
第15回	(演習課題8) グループ発表、振り返り、総評				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する。					
成績評価方法					
授業回数の2/3以上出席した者を対象に、まとめテスト（小テストを含む：30%）と課題（70%）により100点を満点とし、5段階評価する。59点以下は不合格とする。					
オフィスアワー					
質問や相談のある場合はメールにてアポイントメントを取ってください。 メールアドレスはinuta@u.a-ru.ac.jpです。					
履修にあたって必要な予備知識など					
グループワークの仕方について事前に確認しておくこと。					
備考					
主体的な学修をすること。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	理学療法基礎セミナーⅡ	1単位	1年後期	原 佳祐	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
グループワーク		対象者への支援したいという気持ちを持ちながら、批判的思考、自己学習能力、コミュニケーション能力などを獲得することができる。			
プレゼンテーション					
演習課題					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
<p>本科目では、多くの医学的情報を収集し・分析し、科学的根拠に基づきながらこれらを解釈していく作業をグループワークを行いながら演習形式で開講する。事例を通してクリニカル・リーズニングを小グループで実施することで、対象者への支援したいという気持ちを持ちながら、批判的思考、自己学習能力、コミュニケーション能力などを獲得するようにしていく。</p>					
授業計画					
第1回	オリエンテーション：グループ分け、役割分担、手順説明、課題評価について				
第2回	課題1：フレイル ・加齢による解剖学的・生理学的変化をまとめる ・フレイルの障害構造（ICF）をまとめる ・発表する ・レポートにまとめる				
第3回					
第4回					
第5回					
第6回					
第7回	課題2：各種疾患 ・各種疾患の中で、1疾患を選び疫学、病態、評価をまとめる ・上記疾患の障害構造（ICF）をまとめる ・発表する ・レポートにまとめる				
第8回					
第9回					
第10回					
第11回	課題3：各種疾患 ・各種疾患の中で、1疾患を選び疫学、病態、評価をまとめる ・上記疾患の障害構造（ICF）をまとめる ・発表する ・レポートにまとめる				
第12回					
第13回					
第14回	全体の振り返り				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する。					
成績評価方法					
レポート課題100%					
オフィスアワー					
月曜日・火曜日・金曜日12時30分～13時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
グループワークの仕方について事前に確認しておくこと。					
備考					
主体的な学習をすること。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	早期体験実習Ⅰ	1単位	1年後期	新任教員(責任者)/中 徹/ 山元佐和子/他PT教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
障害のある幼児、児童等の支援		各施設における職業内容を把握するとともに職業倫理を高めることができる。現場体験をへて、主体的に理学療法士として、地域社会に貢献したいという思いが持てるよう学修できる。			
地域在住高齢者の支援					
施設限ばでの体験					
主体的な学修による職業志向					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP4:理学療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
DP5:理学療法士として自らを律し、使命感と責任感を身に付け、課題解決のための研究能力を有しながら、自ら学び続けられる。					
DP6:理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献できる。					
授業の概要					
<p>障害のある幼児、児童等や地域在住高齢者の支援に貢献できる人材を養成するために、療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学を実施する。見学や施設の職員からの情報を基にして、各施設における職業内容を把握するとともに職業倫理を高める態度を養っていくため、理学療法士以外の職種と良好なコミュニケーションを取るための技術を学修する。また、理学療法士として、地域社会に貢献したいという思いが持てるように主体的に学修していく。</p>					
授業計画					
1日目	オリエンテーション、実習セミナー(実習施設内でのマナー、倫理的配慮) (新任教員・中・山元)				
2日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学、体験 (各1施設) (新任教員・中・山元)				
3日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学、体験 (各1施設) (新任教員・中・山元)				
4日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学、体験 (各1施設) (新任教員・中・山元)				
5日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学、体験 (各1施設) (新任教員・中・山元)				
教科書及び参考書					
特に定めず					
成績評価方法					
提出課題(100%)					
オフィスアワー					
新任教員	月曜日・木曜日12時50分～13時50分、17時00分～17時50分				
中	火曜日・金曜日12時50分～13時50分、17時00分～17時50分				
履修にあたって必要な予備知識など					
リハビリテーション概論、理学療法概論Ⅰの復習をしておくこと。					
備考					
学外＝社会での実習です。社会的規範とモラルに沿って体験を重視して学習してください。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	通所・訪問リハビリテーション実習	1単位	1年前期	出澤(責任者)/高田/中/新田/ 渡邊/巻/谷口/山元/犬田/原/ 縄井/他	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
通所リハビリテーション		指導者の助言、指導を受けながら 通所・訪問リハビリテーションの利用者と主体的に良好なコミュニケーションを取り、通所・訪問リハビリテーションの目的意義を説明することができる。			
訪問リハビリテーション					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP4:理学療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
DP5:理学療法士として自らを律し、使命感と責任感を身に付け、課題解決のための研究能力を有しながら、自ら学び続けられる態度を有している。					
授業の概要					
<p>通所・訪問リハビリテーションを有している実習施設にて、通所・訪問リハビリテーション場面を見学し、通所・訪問リハビリテーションの目的ならびに意義を考察する。また、利用者ならびに家族、利用者本人に関わる多職種から生活状況や症状、障害などを聴取し、利用者ならびに家族のニーズを引き出すためのコミュニケーション技術も学修する。これらの実践を主体的に行うために日々の記録をまとめ、理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>					
授業計画					
【実習前】	オリエンテーション、OSCE、実習セミナー				
1日目	実習施設にて対象者の理学療法の見学と情報収集				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
2日目	実習施設にて対象者の理学療法の見学と情報収集				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
3日目	実習施設にて対象者の理学療法の見学と情報収集				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
4日目	実習施設にて対象者の理学療法の見学と情報収集				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
5日目	実習施設にて対象者の理学療法の見学と情報収集				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
【実習後】	実習の振り返り、OSCE、実習報告会				
教科書及び参考書					
実習の手引き(アール医療専門職大学)					
成績評価方法					
実習指導者評価・実習課題(50%)、実習課題の提出(25%)、実習報告会(25%)					
オフィスアワー					
出澤 月～水 13:00～17:00 (図書館・研究室棟 305室)					
履修にあたって必要な予備知識など					
通所・訪問リハビリテーションについて確認しておくこと。					
備考					
<p>主体的に実習に臨むこと。【実習前】筆記試験並びにOSCEは、実習参加の可否を決定する診断評価として実施し、【実習後】OSCEは、実習参加後の習熟度評価として実施する。【実習前】の試験が不合格の場合は、補習期間を設け、再試験とする。 都合により内容を変更する場合があります。</p>					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	地域創生論	2単位	1年前期	岡村正洋	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
地域創生		地域の課題や特別支援教育を必要とする幼児児童生徒一人ひとりの学習上の困難さ等を理解し、作業療法士・理学療法士としてどんな支援や教員等との連携ができるかを考え、障害のある子どもたちの可能性を引き出すための方法や方策を考える。			
特別支援教育					
発達段階・合理的配慮					
連携					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
P8: 学習上または生活上の困難のある幼児児童生徒一人ひとりの就学前・就学後におけるニーズを把握し、適切な指導及び支援やそうした幼児児童生徒に関わる教職員への助言方法など障害のある幼児児童生徒の支援に貢献することができる。					
授業の概要					
現代社会の諸問題や茨城県や地域が抱える課題等について主体的に考えるとともに、障害のある児童生徒の現状や課題について知ることにより、作業療法士・理学療法士として、どんな支援が効果的かを考えたり、教員を含め他業種との連携を進めていくには何が必要かを考えたりしながら、専門職としてのキャリアアップを図る。					
授業計画					
第1回	現代社会の諸問題について①	(講義・演習)			
第2回	現代社会の諸問題について②	(講義・演習)			
第3回	茨城県の課題・未来について考える (教育・福祉)	(講義・演習)			
第4回	小児の発達について	(講義・演習)			
第5回	茨城県における視覚障害教育学校の授業の実際と対応	(講義・演習)			
第6回	茨城県における聴覚障害教育学校の授業の実際と対応	(講義・演習)			
第7回	茨城県における知的障害教育学校の授業の実際と対応	(講義・演習)			
第8回	茨城県における肢体不自由教育学校の授業の実際と対応	(講義・演習)			
第9回	茨城県における病弱教育学校の授業の実際と対応	(講義・演習)			
第10回	発達障害について① (ASD)	(講義・演習)			
第11回	発達障害について② (ADHD)	(講義・演習)			
第12回	発達障害について③ (LD)	(講義・演習)			
第13回	高次脳障害・精神障害への対応	(講義・演習)			
第14回	不登校・ひきこもり、虐待の現状と課題	(講義・演習)			
第15回	振り返り、まとめ	(講義・演習)			
教科書及び参考書					
滝川一廣 「子どものための精神医学」 医学書院 ※参考書					
成績評価方法					
定期試験 100%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。okamura@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
「NHKハートネット」のHPや「ハートネットTV」などを時々見てほしい。					
備考					
事前に講義資料を各学生に送信するので、目を通しておいてほしい。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	世代間交流論	2単位	1年前期	幅崎 麻紀子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
持続可能な社会づくり	地域社会 コミュニケーション 相互支援	世代間交流の意義や世代間交流の視点から、子ども・若者、育児世代、高齢者等の各世代が抱える問題を捉え、その背景や要因を探る。その上で、多世代交流を通じて、地域の抱える諸問題を解決する方法を学び、より総合的な思考や支援方法が身につくことを目標とする。			
地域社会					
コミュニケーション					
相互支援					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1：地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる DP3：良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添うことができる					
授業の概要					
社会的なつながりの目的と方法が変化し続ける現代社会において、これまで個人と家族あるいは地域とのつながりを形成するうえで主な役割を担ってきた世代間交流のあり方も変化してきている。この授業では、世代間交流の背景にある考え方、役割、取り組みについて学び、地域課題の解決策としての世代間交流のあり方について考える。					
授業計画					
第1回	世代間交流とは何か				
第2回	世代間交流の歴史				
第3回	家族の変容と世代間交流について考える				
第4回	地域の変容と世代間交流について考える				
第5回	世代間交流の視点から社会課題を検討する①（演習）				
第6回	世代間交流の視点から社会課題を検討する②（演習）				
第7回	多世代交流の場づくり：子育て世代と高齢者の世代間交流①（事例研究）				
第8回	多世代交流の場づくり：子育て世代と高齢者の世代間交流②（事例研究）				
第9回	世代間交流の意義と方法の理解				
第10回	多世代交流プログラムの企画検討（演習）				
第11回	多世代交流の場の運営①：「幼老複合」の実践例（事例研究）				
第12回	多世代交流の場の運営②：「幼老複合」の実践例（事例研究）				
第13回	世代間交流プログラムの検討①（演習）				
第14回	世代間交流プログラムの検討と発表②（演習）				
第15回	世代間の視点からみた世代間交流のあり方				
教科書及び参考書					
教科書：適宜、プリントを配布します。 参考書：世代間交流学の創造（あけび書房）					
成績評価方法					
出席状況・授業時の意欲・課題提出／発表（ミニレポート等）50%、学期末試験（もしくは課題）50%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。habazaki@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
講義に関連する資料やネット・新聞記事などに目を通してください。					
備考					
授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	災害支援論Ⅱ	1単位	2年前期	上野 修(責任者)/鈴木	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
災害支援論		<p>学生が災害発生時に迅速かつ効果的な支援を提供できる専門的な知識と技術を習得することを目指します。具体的には、災害の影響を受けた地域社会に対し、物資、医療、心理的支援、復興活動を総合的に実施できる能力を養います。また、災害支援における倫理的問題や社会的責任を認識し、協力して支援活動を行うためのリーダーシップやチームワーク能力を育成します。さらに、災害後の評価と改善のため、継続的な学びと自己改善の意識を高めます。</p>			
災害時の役割					
災害時の事前準備					
リーダーシップ					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
<p>災害支援論は、ディプロマ・ポリシーに沿った教育を提供し、学生に災害支援に必要な知識、技能、倫理的視点を養うことを目指しています。学生は、理論と実践を通じて問題解決能力を高め、倫理的な責任を意識しながら、災害支援の現場でリーダーシップとチームワークを発揮できるようになります。また、災害支援活動を学び、社会的貢献を果たすための具体的なスキルを身につけることができます。</p>					
授業の概要					
<p>この授業では、災害発生時における支援活動の基本的な知識を学びます。学生は、災害時に必要な物資の調達、医療支援、避難所運営、心理的ケアなど、幅広い支援の方法を総合的に理解し、効果的に対応する能力を養います。授業内容は、災害の種類や影響、災害支援の計画と実行方法、そして支援後の復興活動に関する理論を中心に進められます。さらに、災害支援における倫理的問題や社会的責任についても学び、実際の支援現場でのリーダーシップやチームワークの重要性を強調します。授業では、シミュレーションやケーススタディを通じて、現場で役立つ実践的な知識も習得します。</p>					
授業計画					
第1回	災害時のリハビリテーションの緊急対応				
第2回	移動支援と交通手段の確保				
第3回	チーム医療と災害支援				
第4回	災害支援後のフォローアップ				
第5回	災害支援における倫理的問題				
第6回	災害時のコミュニケーション				
第7回	今後の課題				
第8回	まとめ				
教科書及び参考書					
PPTによる授業を行います。					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	人間関係論	1単位	2年前期	野村聖子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
人間関係の心理		人間関係の意義、病理、社会的相互作用など、人間関係に関する基礎理論を学び、さらに、医療者としての適切な人間関係を説明することができる。			
人間関係の病理					
友人との人間関係					
障害がある人との関係					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2: 作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。					
授業の概要					
社会心理学、特に対人心理学の基礎、人間関係を自分の課題としてとらえて対処していく考え方、現代社会における人間関係上の病理、患者との人間関係を円滑に進めるための意識、親、子ども、夫婦の関係を正常に保つための知識、恋愛や友情の理論、高齢者や障害がある人との人間関係を適正に保つための知識を教授する。					
授業計画					
第1回	人間関係の心理				
第2回	人間関係の病理				
第3回	友情と恋愛				
第4回	高齢者との関係、子供の発達と愛着				
第5回	障害のある人との関係 1				
第6回	障害のある人との関係 2				
第7回	障害のある人との関係 3				
第8回	人間関係の難しさと解決のための考え方				
教科書及び参考書					
参考書：徳田克己・水野智美編著、『ここだけは押さえない 人間関係学』文化書房博文社。授業でも内容を取り上げますので、ぜひ読んでみて下さい。					
成績評価方法					
2～8回目の授業時にレポートを出す。その内容は、①提示されたケースについて複数の立場から考えたこと、②授業に関する質問。計7回のレポートで成績をつける。					
オフィスアワー					
水曜日(必ず連絡・約束をしてから来ること) nomura@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
自分の持っている人間関係に名前が付けられるようになる授業です。それぞれの立場で考えてみるのが大切です。					
備考					
学習効果を得るために復習の時間(考える時間)を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	アクセシビリティリーダー論	1単位	2年後期	新田 収	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
障害		社会モデルに基づく正しい障害の定義を説明できる。社会的障壁を除去するための合理的配慮の在り方についてアクセシビリティの観点から説明できる。			
ICFと社会モデル					
合理的配慮					
アクセシビリティ					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
(リハビリテーション学部DP:1, 2, 4, 6, 8) (理学療法学科DP:1, 3, 6) (作業療法学科DP:1, 3, 6, 7)					
授業の概要					
障害を含め、多様な人々が包摂された社会を実現するためのリーダーとなれる人材として必要な知識を学ぶ。具体的には身体障害や発達障害といった様々な障害の理解やその支援、障がいのある人に役立つ支援技術、諸外国の状況や今日的话题等を通して、多様な背景のある人々が共生することのできる社会とはどのような社会なのかについて考える力を身につける。					
授業計画					
第1回	アクセシビリティとは				
第2回	発表テーマの検討				
第3回	視覚障害者の理解とアクセシビリティ				
第4回	聴覚障害者の理解とアクセシビリティ				
第5回	肢体不自由者の理解とアクセシビリティ				
第6回	内部障害の理解とアクセシビリティ				
第7回	発表と討論				
第8回	発表と討論				
教科書及び参考書					
資料配布					
成績評価方法					
レポート(50%)と発表(50%)					
オフィスアワー					
月曜日12時50分～17時50分 木曜日以外の午前中：職員室					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	中国語	1単位	2年前期	董玫伶	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
中華文化理解		<p>本科目では、中華文化の紹介、中国語（標準語）の基礎発音や会話をグループワークの形式で楽しく読み進めながら、基礎的な日常コミュニケーションや読解力の習得を目指す。具体的には漢字とその発音の練習、初級語彙、単語、文法、日常表現について、初めて中国語に接する学生にも楽しめるように習得できるよう基礎レベルの知識を学ぶ。また、リハビリテーション医療現場で様々な場面を想定して中国語のコミュニケーション力を高める。</p>			
日常コミュニケーション					
グループワーク					
リハビリテーション現場での中国語					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
<p>DP1：地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる。 DP3：良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添えることができる。</p>					
授業の概要					
<p>中国語（標準語）の発音と発音表記法を正しく身に付け、基礎文法と語彙を学ぶことで、初めて中国語に接する学生にも楽しめるように基礎レベルの知識を学ぶ。使用される漢字と日本の常用漢字の違いを理解した上で、基礎的な語句を正しく読み書きができ、基本的な文型を作れると同時に、医療場面でも簡単な中国語でコミュニケーションが取れることを目指す。</p>					
第1回					
第1回	授業の進め方・中華文化の紹介				
第2回	中国語の漢字と日本の常用漢字の違い				
第3回	ピンイン・声調				
第4回	母音・子音・変調				
第5回	文の構造・人称代名詞・数詞・量詞				
第6回	医療現場で役立つ中国語1				
第7回	医療現場で役立つ中国語2				
第8回	グループプレゼンテーション				
教科書及び参考書					
講義に関する資料をGoogle Classroomに示す。					
成績評価方法					
出席・授業への姿勢（60％）グループプレゼンテーション（40％）					
オフィスアワー					
月曜日13時から15時					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記事項なし					
備考					
予習と復習を行うこと。グループ練習とプレゼンテーション。クイズ、ゲームあり。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	韓国語	1単位	2年前期	金 美貞	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
韓国語の発音		韓国語の入門クラスとして、韓国語の文字と発音を習得し、文法を理解しながら簡単な作文や読解を練習する。挨拶や自己紹介など基礎的なコミュニケーションスキルを身につけるとともに、シチュエーションに合わせた表現を学び会話力を高める。また、韓国映画やドラマなどのメディアを活用し、韓国社会や文化への理解を深める。			
母音と子音、パッチム					
自己紹介と会話					
練習問題					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
初級韓国語講義を修了することで、韓国語の文字、基礎的な文法、語彙を理解できるようになり、外国語の理解力を向上できる。また、韓国の文化、習慣、価値観を理解し、多様な文化に対する理解を深めることができる。					
授業の概要					
初級韓国語講義は、韓国語を初めて学ぶ学生を対象に、韓国語の文字を読むことができるようになることを目的とする。また、韓国語の基礎的な文法、語彙、聴解力、発音、会話スキル等も学ぶ。授業は、第8回までで構成されている。					
授業計画					
第1回	韓国語の基礎と発音練習Ⅰ（発音の仕方、母音と子音、単語の発音練習）				
第2回	韓国語の基礎と発音練習Ⅱ（複合母音、パッチム、発音の変化説明及び練習）				
第3回	韓国語の基本表現と文法（簡単な自己紹介の練習、簡単な会話の練習）				
第4回	韓国語の基本表現と文法（教科書の第1課及び第2課の文法と練習問題）				
第5回	韓国語の基本表現と文法（自己紹介の続き、教科書の第3課の文法と練習問題）				
第6回	韓国語の基本表現と文法（教科書の第4課の文法と練習問題）				
第7回	韓国語の基本表現と文法（教科書の第5課の文法と練習問題）				
第8回	振り返り、まとめ（講義のまとめ、総合的な練習問題の解説、インタビュー）				
教科書及び参考書					
教科書：基礎から学ぶ韓国語講座 初級 改訂版（国書刊行会） ※参考書：文法から学ぶ韓国語 李 昌圭（ナツメ社）					
成績評価方法					
レポート課題の提出（60%）、学期末試験（40%）					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動学 I	1単位	2年前期	新田 収	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生体力学		運動の基礎として関節ごとに運動がどのようにして成立しているかを科学的根拠を基に説明できるようにする。			
四肢と体幹の運動					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
人間の身体運動を理解するために、現象としての身体運動を力学、解剖学と生理学へ還元して説明する。運動を科学的根拠の中から説明できるようにするために運動の基礎として関節ごとに概説していく。各関節がどのようなメカニズムで運動を成立させるのかを学修していく。さらに、各関節がどのような関係性を持って運動を行っているかについても学修する。					
授業計画					
第1回	運動学とは、身体運動の基本1				
第2回	運動学とは、身体運動の基本2				
第3回	力学1				
第4回	力学2				
第5回	運動の法則1				
第6回	運動の法則2				
第7回	てことモーメント1				
第8回	てことモーメント2				
第9回	仕事とエネルギー1				
第10回	仕事とエネルギー2				
第11回	骨1				
第12回	骨2				
第13回	筋1				
第14回	筋2				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
教科書：セラピストのための基礎4科目テキスト 運動学 出版社名：三輪書店					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
月曜日11時30分～12時50分、17時00分～17時50分 木曜日14時00分～15時30分、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
人体構造学 I、II ならびに人体構造学実習の復習をしておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科	運動学Ⅱ	1単位	2年後期	新田 収	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
姿勢		姿勢、歩行、走行等についての運動学的理論背景、 運動発達理論、運動学習理論を科学的根拠に基づき 説明できるようになる。			
歩行					
運動発達					
運動学習					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
姿勢、歩行、走行等についての運動学的理論背景を学修し、理解を深め、第三者に説明できるようにする。臨床における問題を発見できるように運動学的理論においては経験則的な視点だけではなく、科学的根拠を基に理解することに徹していく。また、運動発達、運動学習理論についても説明し、同様に科学的根拠に基づく理論について深く追及する。					
授業計画					
第1回	関節1				
第2回	関節2				
第3回	心肺機能1				
第4回	心肺機能2				
第5回	感覚1				
第6回	感覚2				
第7回	体幹の運動学1				
第8回	体幹の運動学2				
第9回	上肢の運動学1				
第10回	上肢の運動学2				
第11回	下肢の運動学1				
第12回	下肢の運動学2				
第13回	姿勢と運動の制御1				
第14回	姿勢と運動の制御2				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
教科書：セラピストのための基礎4科目テキスト 運動学, 三輪書店					
成績評価方法					
到達度定着演習50% 定期試験50%					
オフィスアワー					
月曜日12時50分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
運動学Ⅰ復習しておくこと					
備考					
毎時復習の時間を30分は確保すること 都合により内容を変更する場合があります。					

科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	1単位	2年前期	呉世祖	必修
授業科目の学修教育目標				
キーワード	学修教育目標(学修成果)			
エネルギー代謝	運動時の生体反応と運動・トレーニングに対する適応機序を理解し、医療・リハビリテーションにおける運動処方の基本を科学的根拠に基づいて説明できるようになる。			
骨格筋適応				
運動処方				
ディプロマ・ポリシーとの関連				
本授業は、理論に裏付けられた専門的知識を修得し、科学的根拠に基づいて医療・リハビリテーションを実践する能力の基盤形成に関連する。運動生理学的理解を通じて、臨床で必要となる判断力の修得を目指す。				
授業の概要				
運動時の生体反応および運動・トレーニングに対する適応機序を体系的に学修する。体力とエネルギー代謝を基盤に、骨格筋、神経系、内分泌・体液調節、疲労・回復を扱い、後半で医療・リハビリテーションへの応用として運動処方とリスク管理を学ぶ。健康増進と臨床実践に必要な基礎知識の修得を目指す。				
授業計画				
第1回	総論・基礎概念系（運動生理学の基礎概念、体力）			
第2回	エネルギー代謝①（生体エネルギー代謝の基礎、ATPの生成と利用）			
第3回	エネルギー代謝②（無酸素、有酸素、糖質・脂質・タンパク質代謝）			
第4回	エネルギー代謝③（運動時のエネルギー供給機構）			
第5回	骨格筋生理①（骨格筋の構造と機能）			
第6回	骨格筋生理②（運動・トレーニングに対する筋適応）			
第7回	内分泌・体液調節①（内分泌系による生体調節）			
第8回	内分泌・体液調節②（運動時のホルモン・体液応答）			
第9回	神経系・運動制御①（神経系による運動制御の基本）			
第10回	神経系・運動制御②（運動時の神経活動と調節）			
第11回	疲労・回復①（運動疲労の生理学）			
第12回	疲労・回復②（回復過程とコンディショニング）			
第13回	臨床・リハビリ応用①（医療・リハビリテーションへの応用）			
第14回	臨床・リハビリ応用②（運動処方とリスク管理）			
第15回	臨床・リハビリ応用③（疾患・障害特性を踏まえた運動介入）			
教科書及び参考書				
適宜資料を配布する。				
成績評価方法				
レポート課題30%、定期試験60%、授業への積極的参加度 10%				
オフィスアワー				
水曜日・金曜日10時00分～11時00分、17時00分～17時50分				
履修にあたって必要な予備知識など				
特記なし				
備考				
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。				

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	人間発達学	1単位	2年前期	新田 収	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生涯発達		1 生涯発達の概要を生活期ごとに説明できる 2 乳幼児期の運動・認知発達を説明できる 3 発達の法則と発達理論の特徴を説明できる 4 発達を理学療法に応用する方が説明できる			
身体の発達					
運動および認知の発達					
心理および社会の発達					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
生涯にわたる人間の身体・運動・認知・心理・社会の諸側面にわたって「発達」の現象と時系列におけるその変容を学ぶ。併せて、それらの理解の中から「発達」の法則性や変容が生じるメカニズム、発達理論の特徴について学ぶ。					
授業計画					
第1回	人体の発生				
第2回	骨と筋の発生				
第3回	1歳までの運動発達				
第4回	姿勢反射				
第5回	1歳からの運動発達				
第6回	感覚の発達				
第7回	上肢機能の発達				
第8回	目と手の協調				
第9回	運動イメージと空間イメージの発達				
第10回	認知と記憶の発達				
第11回	コミュニケーションと言葉の発達				
第12回	日常生活活動の発達				
第13回	遊びの発達				
第14回	青年期・成人期				
第15回	まとめと解説				
教科書及び参考書					
教科書：セラピストのための基礎4科目テキスト 人間発達学, 三輪書店					
成績評価方法					
到達度定着演習50%、試験50%					
オフィスアワー					
月曜日12時50分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
1年次の発生生物学と発達心理学を振り返ると本講義の理解の助けになります 本講義は2年次の発達障害系理学療法学と発達障害理学療法学実習につながる科目です * 予習として教科書該当部分を通読しておくこと (30分程度) * 復習として理解できたことと曖昧なところを簡潔にまとめること (45分程度)					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動学実習	1単位	2年前期	巻(責任者)/関口/出澤/山元/犬田/原	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
骨の触診		骨、靭帯、筋の触診が、科学的根拠を持って段階的に理解できること共に、実際に人体を通して触診ができるようになる。			
靭帯の触診					
筋の触診					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
骨と骨指標および筋を効果的に触診することは、理学療法評価と治療において到達しなければならない事項である。関節ごとの骨、骨指標の触診法の技術について説明し、また骨格筋の触診について視覚的内容も含めて説明する。それぞれの筋について触診手段を段階的に理解した上で容易に学習出来るよう、各々手順の科学的根拠についても概説する。さらに、各筋におけるトリガーポイントも説明する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、触診の基本(基本肢位、姿勢の表し方、触診技術) (巻)				
第2回	骨の触診(肩甲帯、上腕) (巻)				
第3回	筋の触診(肩関節複合体) (巻)				
第4回	骨の触診(上腕、前腕、手指) (出澤)				
第5回	筋の触診(上腕、前腕手関節複合体) (出澤)				
第6回	到達度確認演習 (巻/関口/出澤/山元/犬田/原)				
第7回	骨の触診(骨盤、大腿骨) (山元)				
第8回	筋の触診(股関節に関わる筋) (山元)				
第9回	靭帯の触診(股関節関連) (山元)				
第10回	骨の触診(膝関節周辺、足関節及び足部周辺) (犬田)				
第11回	筋の触診(膝関節に関わる筋) (犬田)				
第12回	骨・筋の触診(足関節及び足部周辺) (犬田)				
第13回	骨の触診(体幹、胸郭、脊柱) (原)				
第14回	筋の触診(体幹、胸郭、脊柱) (原)				
第15回	到達度確認演習 (巻/関口/出澤/山元/犬田/原)				
教科書及び参考書					
運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プラス上肢[Web動画付]改訂第2版 林典雄著 (メジカルビュー社)、運動療法のための機能解剖学的触診技術動画プラス下肢・体幹[Web動画付]改訂第2版林典雄 著 (メジカルビュー社)					
成績評価方法					
各到達度確認演習の平均点を成績評価とします。もし、60点に満たない場合は、再試験を実施します。					
オフィスアワー					
巻/関口/出澤/山元/犬田/原：初回に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
骨、靭帯、筋の解剖学的知識を復習しておくこと。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	神経解剖学	1単位	2年前期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
大脳半球（皮質・髄質）、大脳辺縁系、大脳基底核、間脳、中脳、橋、延髄、脊髄、小脳、下行性伝導路、視覚伝導路、平衡覚伝導路、聴覚伝導路、味覚伝導路、嗅覚伝導路、脳の血管		中枢神経系の各部位の構造と神経路、その機能的意味、さらに機能障害の発現機序について説明できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
理学療法学・作業療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法・作業療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
中枢神経系はどのような部位から構成されているか、どのような働きをするのかについて学ぶ。とくに、神経系の機能障害を理解するための基礎として、どのような神経回路に基づいてその機能が発現されるかについて学ぶ。					
授業計画					
第1回	神経系の発生、脳の構成、大脳半球（皮質）の構造と機能局在				
第2回	大脳辺縁系、大脳髄質、大脳基底核				
第3回	間脳の構造と機能、中脳の構造と機能				
第4回	橋の構造と機能、延髄の構造と機能、脳幹網様体				
第5回	小脳の構造と機能、脳室・髄液と髄膜				
第6回	脊髄の構造と機能、脊髄反射				
第7回	運動系の概説、下行性伝導路				
第8回	上行性伝導路、視覚伝導路				
第9回	平衡覚伝導路、聴覚伝導路、味覚伝導路、嗅覚伝導路				
第10回	脳の血管				
第11回	標本観察と課題解決 1				
第12回	標本観察と課題解決 2				
第13回	標本観察と課題解決 3				
第14回	標本観察と課題解決 4				
第15回	標本観察と課題解決 5				
教科書及び参考書					
【教科書】 1. 資料配布 2. 透かしてみるとミルミルわかる!! 解剖学 学研					
成績評価方法					
定期試験 100%					
オフィスアワー					
クラブルームに記載します。またクラブルームで質問を受けます。遠慮なく！					
履修にあたって必要な予備知識など					
講義開始時に指示します					
備考					
授業中にしっかり理解してください。その場で質問！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	病理学	1単位	2年前期	洪 建偉	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
各分野の医学専門用語		前期では、次の3つ目標に向かって勉強すること①病理学において数多くの医学専門用語を覚えることや病的現象を理解することが最初の目標とする。②総論において病理学の基本知識や疾患の共通点をしっかり把握すること。③疾患の成り立ちを理解すること。			
病気の成り立ちとメカニズム					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2: 高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。医療が高度に発展し疾病構造が複雑になることで医療技術的にも良質なサービスが期待され、多様な医療関係職種間におけるチームワークによる医療を行うことが求められる。					
授業の概要					
病理学は基礎医学と臨床医学との結びつける学際領域の学問である。次の5つを中心として教えること①病理学において数多くの医学専門用語を覚えさせることや病的現象を理解させること。②前期の総論において病理学の基本知識や疾患の共通点をしっかり把握させること。③疾患の成り立ちを理解させること。④前期の内容は後期の各論におけるそれぞれの病気の基礎として理解し、病気の成り立ちや形成の原因もしっかり把握させること。⑤各疾患の病理所見の基本と臨床診療の要点との関連性などを把握させることとする。					
授業計画					
第1回	序論 病理とは、病理学の歴史、正常細胞の形態と超微細構造、疾患の種類				
第2回	退行性病変 (1) 萎縮, 変性, 壊死, 細胞死, 壊死とアポトーシスの違い				
第3回	退行性病変 (2) 代謝異常 (糖質, 脂質, 蛋白質), 黄疸の原因や種類				
第4回	循環障害 (1) 概説 充血, うっ血, 虚血の定義, 出血の定義と分類				
第5回	循環障害 (2) 特殊な部位の出血, 血栓症, DIC, 塞栓症, 梗塞				
第6回	循環障害 (3) 血栓症と塞栓症と梗塞の関連, 水腫の分類, 滲出液と漏出液				
第7回	先天異常と奇形 時期, 原因, 種類, Down, Turner, Klinefelter症候群				
第8回	進行性病変 肥大, 増生, 肉芽組織, 移植の種類, 拒絶反応, GVH反応				
第9回	一般炎症 炎症の原因, 経過, 種類, 炎症の種類, 滲出性炎, 化膿性炎				
第10回	特殊性炎 肉芽腫, 結核, 梅毒, 真菌, ハンセン病, サルコイドーシス				
第11回	免疫 概説 抗体と抗原, アレルギーの種類, AIDS, HIV, 日和見感染				
第12回	腫瘍の定義, 癌と肉腫, 良悪性腫瘍の鑑別, 各臓器に発生しやすいがん				
第13回	腫瘍の発育と進展, Virchow転移, TNM分類とStage分類, 多発癌, 重複癌				
第14回	腫瘍の発生, がんと遺伝子, がんの診断手法, 腫瘍マーカーなど				
第15回	病因論 内外因, 公害病, 医原病, 老化と死, 死の三徴候, 脳死, 植物状態				
第16回	前期期末試験				
教科書及び参考書					
教科書: シンプル病理学、参考書: エッセンシャル病理学、病理学-標準理学療法・作業療法学					
成績評価方法					
筆記試験					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
最低限の解剖学、生理学の知識が必要。					
備考					
できれば予習と復習が行うことですが、予習ができなければ、復習は必ずすること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	内科学	1単位	2年前期	菊池修一	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
循環器・呼吸器・消化器系疾患		内科的疾患について、疾患の概念と治療の基本的な考え方を説明できる。			
代謝・内分泌・腎疾患					
免疫・血液疾患					
栄養障害・中毒					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP4:理論に裏付けられた知識や技術を有し、科学的な考えと共に適切なリハビリテーションを実践することができる。					
授業の概要					
リハビリテーションを必要とする方々は、内科的な疾患を抱えていることも多い。循環器、呼吸器、消化器、代謝、腎疾患を中心とした内科的疾患の概念および治療の基本を、仕組みから学ぶことにより科学的根拠に基づいたリハビリテーションを実践できるようにする。					
授業計画					
第1回	循環器疾患(1)： 高血圧・虚血性心疾患				
第2回	循環器疾患(2)： 心電図・不整脈				
第3回	循環器疾患(3)： 心不全・末梢動脈疾患				
第4回	呼吸器疾患(1)： 呼吸器感染症				
第5回	呼吸器疾患(2)： 喘息・COPD				
第6回	呼吸器疾患(3)： 呼吸器系腫瘍性疾患				
第7回	消化器疾患(1)： 消化管疾患				
第8回	消化器疾患(2)： 肝胆膵疾患				
第9回	消化器疾患(3)： 消化器系腫瘍性疾患				
第10回	代謝性疾患： 糖尿病・脂質異常症・痛風				
第11回	内分泌疾患： 下垂体・甲状腺・副腎疾患				
第12回	腎疾患： 糸球体腎炎・腎不全				
第13回	免疫疾患： アレルギー・膠原病				
第14回	血液疾患： 貧血・白血病・悪性リンパ腫				
第15回	栄養・中毒： 栄養障害(フレイル)・薬物中毒				
教科書及び参考書					
『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学』前田眞治編 医学書院					
成績評価方法					
定期試験 100%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
単なる知識の暗記ではなく、講義内で説明した仕組みの理解を復習中心に進めてください。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	整形外科学	1単位	2年前期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
整形外科			運動器疾患の概念、定義、診断と治療について、リハビリテーション関連職種として必要な知識を習得する		
病気と障害					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP4:理論に裏付けられた知識や技術を有し、科学的な考えと共に適切なリハビリテーションを実践することができる。					
授業の概要					
リハビリテーション関連職種として必要な運動器（骨関節、神経）の構造と機能、運動器疾患の概念、定義、およびその診断と治療について学習する。					
授業計画					
第1回	運動器の構造と機能				
第2回	頚椎・腰椎障害と対応				
第3回	上肢障害の特性と対応				
第4回	下肢障害の特性と対応				
第5回	筋骨格感染症と対応				
第6回	関節障害と対応				
第7回	四肢循環障害と対応				
第8回	筋骨格系腫瘍と対応				
第9回	救急・外傷処置の特性と対応				
第10回	骨折・脱臼・捻挫の特性と対応				
第11回	上肢外傷と対応				
第12回	下肢外傷と対応				
第13回	脊椎・脊髄損傷と対応				
第14回	運動器疾患に対するリハビリテーション				
第15回	総括 試験問題とその解説				
教科書及び参考書					
わかる医学 for comedical MAC medical マック メディカル アカデミー					
成績評価方法					
試験&レポート100%					
オフィスアワー					
履修にあたって必要な予備知識など					
整形外科に関する解剖生理学					
備考					
授業中に積極的に質問しましょう！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	神経内科学	1単位	2年前期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
神経学の症候		神経筋の体系と疾患概念、各疾患の診断・検査・治療、リハビリテーションの実施に際して知っておくべき事柄や注意点などについて理解し説明することができ、リハビリテーションプランを作成できる。			
高次脳機能					
神経系の疾患					
筋疾患					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有するために必要な神経・筋疾患についての適切かつ十分な知識を身に着ける。					
授業の概要					
神経学的な症候の診方、高次脳機能の理解、それぞれの神経筋疾患の概要・詳細、また、神経系疾患の診断に必要な検査手段などについて系統的・個別的に学習し、臨床現場で活用できるように教授する。また、それら知識を駆使して、神経筋疾患における患者の状態の把握、リハビリテーションへの戦略・アプローチが可能となるよう、体系的に理解しリハビリテーションプランの作成が可能な能力に結び付くよう解説していく。					
授業計画					
第1回	神経系とは、構造と生理				
第2回	神経系の症候と高次脳機能障害（前頭葉・頭頂葉）				
第3回	高次脳機能障害（側頭葉・後頭葉）				
第4回	脳神経と自律神経系				
第5回	脳血管障害				
第6回	神経変性疾患・パーキンソン病と関連疾患				
第7回	アルツハイマー病と大脳変性疾患				
第8回	筋萎縮性側索硬化症など				
第9回	脊髄疾患・脱髄疾患（多発性硬化症）				
第10回	ミトコンドリア脳筋症・重症筋無力症など				
第11回	筋炎・筋ジストロフィー				
第12回	機能的疾患・頭痛・てんかん、末梢神経障害				
第13回	神経系の感染症・脳腫瘍				
第14回	頭部外傷・先天性疾患・水頭症				
第15回	代謝・中毒・全身疾患に伴う神経症候・神経の可塑性				
教科書及び参考書					
神経内科学 for comedical リプロサイエンス					
成績評価方法					
定期試験 100%					
オフィスアワー					
履修にあたって必要な予備知識など					
神経系の解剖・生理の基礎知識があるとより良い					
備考					
授業をしっかりと理解しましょう！わからない場合はその場で質問！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	精神医学	1単位	2年後期	野村聖子(責任者)/岩本	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
精神科医療の歴史		精神医学と精神保健の基礎的な事項を説明できる。他職種連携について理解する。精神と行動の障害を持つ「病める人」の全人的理解をする。回復に伴走する上で理学療法士、作業療法士として欠かせない知識について幅広く身につける。			
精神疾患の体系的理解					
代表的な精神疾患の成因・症状・診断・治療					
本人や家族への他職種支援					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1: 多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。 DP6: 理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献することができる。					
授業の概要					
主要な精神科疾患について基礎的知識を習得する。教科書を参考にしながら講義形式で進める。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション：授業の進め方と成績評価基準について、「5大疾病への理解」「診断の手順と方法」「診断基準DSM-5等」理解度確認テスト作成				
第2回	「身体的検査と心理検査各論」「精神症状と状態像の定義と各論」「精神医療の歴史」「精神障害の成因と分類」「面接の態度」				
第3回	「統合失調症」症状、薬物治療、非薬物治療、リハビリテーション1				
第4回	「統合失調症」症状、薬物治療、非薬物治療、リハビリテーション2				
第5回	「気分(感情)障害」うつ病・躁うつ病(双極性障害)1				
第6回	「気分(感情)障害」うつ病・躁うつ病(双極性障害)2				
第7回	不安症・強迫症・心的外傷後ストレス障害・摂食障害・パニック障害・強迫性障害・パーソナリティ障害など				
第8回	「器質性精神病」意識障害(せん妄含む)、梅毒、クロイツフェルトヤコブ病など				
第9回	「器質性精神病」認知症1				
第10回	「器質性精神病」認知症2				
第11回	身体疾患による精神疾患の治療(岩本)				
第12回	「物質関連精神障害」または依存症：薬物、アルコール問題など				
第13回	小児期の精神障害および発達障害				
第14回	てんかん、てんかんの薬物療法、3大精神病、病気の深さと治療内容				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
教科書 メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 精神医学 飯高哲也編著(理工図書)					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
随時応相談：事前に連絡ください。野村：nomura@u.a-ru.ac.jp 岩本iwamoto@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
備考					
内容は履修状況により変更になることがあります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	小児科学	1単位	2年前期	中 徹	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
成長・発達	小児疾患 障害児 リハビリテーション	医療分野における高度職業人として身につけるべき、小児の疾患や障害について理解し説明することができる。また、リハビリテーションの対象となる脳性麻痺や知的障害、発達障害、重症心身障害などを含め、小児科学における今日的課題について問題意識			
小児疾患					
障害児					
リハビリテーション					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
(リハビリテーション学部DP:4,6,8) (理学療法学科DP:3,6) (作業療法学科DP:1,3,6,7)					
授業の概要					
小児科学は、成長と発達の過程にある小児を対象として、その身体と心の問題を扱うものである。その領域はきわめて広く、胎児期、新生児期から思春期までのすべての医学領域の知識が求められる。この授業は、医師としての実務経験のある教員が、小児科学の基本的知識について講義する授業科目である。具体的には小児科学の概要、診断と治療、PT・OTと小児科学、小児の成長と発達、小					
授業計画					
第1回	PT・OTと小児科学、小児科学の概論、診断と治療の概要				
第2回	新生児・未熟児の疾患				
第3回	先天異常と遺伝病				
第4回	神経・筋・骨疾患1（筋疾患、骨疾患）				
第5回	神経・筋・骨疾患2（脳性麻痺、てんかん、二分脊椎）				
第6回	到達度確認演習1				
第7回	発達障害とその周辺疾患、骨関節疾患				
第8回	循環器疾患、呼吸器疾患、耳鼻科疾患				
第9回	小児の感染症				
第10回	消化器疾患、腎・泌尿器疾患				
第11回	到達度確認演習2				
第12回	内分泌・代謝疾患、血液疾患、腫瘍性疾患				
第13回	アレルギー疾患				
第14回	心身医学的疾患、眼科疾患				
第15回	重症心身障害児、医療的ケア児、事故・虐待その他				
教科書及び参考書					
教科書：標準理学療法・作業療法 専門基礎分野 小児科学 第6版（医学書院）					
成績評価方法					
到達度確認演習1-40%、到達度確認演習1-30%、学期末試験30% の壱性的評価とする					
オフィスアワー					
月曜日：12時30～13時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために1単位時間当たり180分を目安に予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	リハビリテーション医学	1単位	2年後期	田辺勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
リハビリテーション		各種障害の評価、治療について科学的根拠に基づきながら説明できるようになることを学修目標とする。			
疾患と障害					
チームアプローチ					
目標指向型アプローチ					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
リハビリテーションの理念を基盤として、対象疾患に伴う障害を、急性期、回復期から在宅生活期すべての時期について、多職種チームで評価し、目標指向型の考えで障害を可能な限り減らすとともに、残された能力を最大限に引き出して、社会生活への復帰と維持に貢献できる知識を習得する。					
授業の概要					
リハビリテーションの考え方をはじめとして、各種の疾患や障害の評価、リハビリテーション計画立案と治療についての知識と技能を教授する。また関連社会制度や地域医療との関係など、社会生活の支援に必要な幅広い考え方と知識を教授する。					
授業計画					
第1回	総論 1				
第2回	総論 2				
第3回	脳損傷 1 脳卒中 運動学・障害学・痙縮				
第4回	脳損傷 2 摂食嚥下障害				
第5回	脳損傷 3 脳外傷、脳腫瘍、低酸素性脳症				
第6回	脳損傷 4 高次脳機能障害、認知症				
第7回	神経筋疾患				
第8回	小児疾患 1				
第9回	小児疾患 2				
第10回	呼吸・循環など内部障害				
第11回	がん				
第12回	運動器疾患 骨折・四肢外傷				
第13回	脊髄損傷・脊髄疾患				
第14回	切断				
第15回	補装具				
教科書及び参考書					
教科書： 1. リハビリテーション医学 第4版（南江堂）					
成績評価方法					
試験・授業への参加態度等を総合的に判断する。					
オフィスアワー					
クラスルームで質問をうけつけています。オフィスアワーはクラスルームで。					
履修にあたって必要な予備知識など					
内科全般（特に神経内科、循環器内科、呼吸器内科、腫瘍内科、緩和ケア内科）、整形外科、脳神経外科、小児科、精神科					
備考					
授業中にしっかり講義を聴くこと！寝るのは夢しか見ないので勉強にならないよ。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	スポーツ障害学	1単位	2年後期	基幹教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
スポーツ外傷と障害		スポーツ外傷・障害の発生機序や病態を解剖・運動学的に理解し、現場での応急処置や予防、コンディショニングに関する基礎知識を習得し、説明できる。			
応急処置					
コンディショニング					
トレーニング					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP4:理論に裏付けられた知識や技術を有し、科学的な考えと共に適切なリハビリテーションを実践することができる。					
授業の概要					
本講義では、スポーツリハビリテーションに関わる上で必須となる医学的基礎知識を学ぶ。前半は成長期特有の疾患や、部位別の外傷・障害の病態、緊急時の現場管理について概説する。後半はコンディショニングに焦点を当て、筋力、持久力、柔軟性等の理論とトレーニングの実際、女性特有の課題やアンチ・ドーピングまでを網羅する。単なる疾患理解に留まらず、スポーツ現場の全体像を俯瞰できる視点を養う。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、スポーツ医学概論				
第2回	ジュニアアスリートの外傷と障害				
第3回	アスリートの外傷と障害1（下肢①）				
第4回	アスリートの外傷と障害2（下肢②）				
第5回	アスリートの外傷と障害3（上肢）				
第6回	スポーツ現場における応急処置と現場管理				
第7回	中間まとめ、中間試験				
第8回	トレーニングの実際1（筋力）				
第9回	トレーニングの実際2（持久力）				
第10回	トレーニングの実際3（柔軟性）				
第11回	トレーニングの実際4（俊敏性）				
第12回	トレーニングの実際5（ミクロとマクロの戦略）				
第13回	女性アスリートとスポーツ				
第14回	内科的障害、ドーピング				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
特になし					
成績評価方法					
中間試験50%、定期試験50%					
オフィスアワー					
火曜日 11時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
スポーツ現場特有の面白さや難しさを共有できればと思います。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	老年医学	1単位	2年後期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
加齢と老化		老年期に多い疾患について科学的根拠に基づき、病態生理ならびに特徴の知識について説明できる。			
老年期疾患					
リハビリテーション					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的な根拠とともにリハビリテーションを実践することができる。					
授業の概要					
本講義では、超高齢社会となる我が国において老化・加齢とはどのようなメカニズムになるかを学修し、老年期に多い疾患について科学的根拠に基づき、病態生理ならびに特徴の知識を学修していく。さらに、老年期の対象者についてのリハビリテーションの役割についても老年期疾患の特徴から検討する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、老年医学の考え方捉え方				
第2回	加齢と老化				
第3回	高齢者の機能評価				
第4回	老年期症候群と廃用症候群				
第5回	循環器疾患				
第6回	呼吸器疾患、感染症				
第7回	運動器疾患				
第8回	内分泌・腎・代謝疾患				
第9回	耳鼻科・眼科疾患				
第10回	免疫・血液疾患				
第11回	神経疾患				
第12回	認知症と精神科疾患				
第13回	高齢者のリハビリテーション				
第14回	高齢者と生活習慣病				
第15回	高齢者の外科治療				
教科書及び参考書					
プリント配布いたします。					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
授業終了後					
履修にあたって必要な予備知識など					
生理学Ⅰ・Ⅱの内容を復習しておくこと。					
備考					
授業中はしっかり講義を聞きましょう！					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	薬理学	1単位	2年後期	塩見健輔	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
薬物反応 有害反応（副作用） 各種疾患の発症メカニズム 薬物治療		正常もしくは病的状態にある生体が薬物に対してどのような反応を示すかを理解する。薬物が作用する仕組みと臨床応用、さらには、副作用についての知識を得る。代表的な薬物について学ぶ。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
理学療法・作業療法を受ける多くの患者が薬を服用している。リハビリテーションを実施する際に、患者本人の既往歴に加え服薬状況（薬剤の種類・副作用・運動への影響など）を十分理解し把握することは、患者のリスク管理上極めて重要となる。本薬理学の授業で、薬に関する基礎知識をはじめ各臓器の機能破綻に基づく疾患成立とその薬物治療法を理解する。					
授業計画					
第1回	薬理学総論				
第2回	薬理学の基礎・薬の作用				
第3回	薬物動態（吸収，分布，代謝，排泄）				
第4回	薬の作用に影響する因子				
第5回	中枢神経系の薬理① 神経疾患の薬物療法				
第6回	中枢神経系の薬理② 精神疾患の薬物療法				
第7回	中枢神経系の薬理③ 麻酔薬、催眠薬、抗てんかん薬など				
第8回	疼痛の制御と薬物療法				
第9回	末梢神経系の薬理 自律神経、運動神経と骨格筋				
第10回	循環器系疾患に対する薬物				
第11回	呼吸器系疾患、消化器系疾患に対する薬物				
第12回	代謝性疾患・内分泌系疾患に対する薬物				
第13回	感染症、炎症と免疫疾患に対する薬物				
第14回	がんに対する薬物				
第15回	国試対策、その他、薬理学まとめ				
教科書及び参考書					
教科書：リハベーシック 薬理学・臨床薬理学 第2版（医歯薬出版） 参考書：リハビリテーションのための薬理学・臨床薬理学（南江堂）					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
メールにて受付する。アドレスは、講義開始日に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
生理学の科目について復習しておくこと。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	救急救命学	1単位	2年後期	田辺 勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
ショック		不慮の事故や突然の疾病は、海水浴、登山、競技中、遠征のための移動中など、時と場所に関係なく発生する。発生時の正しい対応が救命につながり、重篤な状態に移行することを防ぐ。したがって医療福祉にたずさわる人達は、緊急の事態を常に予想し、素早く適切な処置ができるような知識と技術とを身につけておかなければならないため、基本的知識からBLSの仕方について学修していく。			
外傷					
トリアージ					
心肺蘇生法					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:良好なコミュニケーションをとり、協調性に優れ周囲の人に寄り添えることができる。					
授業の概要					
救命で最も注意しなければならないショックについて学修し、ショックの早期発見と予防のためのトリアージ方法を学ぶ。BLSを習得する。AHAのBLSプロバイダーコースを受講可能程度の知識を学習する					
授業計画					
第1回	ショックとは				
第2回	意識障害				
第3回	呼吸困難				
第4回	心臓発作・不整脈				
第5回	腹痛・吐血				
第6回	多発外傷				
第7回	トリアージとその方法				
第8回	熱傷・中毒				
第9回	異物誤嚥・誤飲				
第10回	自然環境災害（熱中症、寒さなど）				
第11回	小児救急				
第12回	大規模災害				
第13回	事例 もしも〇〇〇が日本を襲ってきたら・・・				
第14回	心肺蘇生法				
第15回	心肺蘇生法				
教科書及び参考書					
<参考書> 1. BLSヘルスケアプロバイダー受講者マニュアル AHAガイドライン2010準拠					
成績評価方法					
定期テスト100%					
オフィスアワー					
クラスルームで確認してください。クラスルームで質問も受け付けます					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
基礎知識を学修し、演習で身に付くよう復習を進めてください。リハビリ中に救急対応が必要な場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	画像診断学	1単位	2年後期	福士政広	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
運動器の病気と障害		運動器疾患に特徴的な画像所見を学習し、リハビリテーション関連職種として必要な画像に関する知識を習得する。			
運動器の画像					
脳の構造・局在と画像					
神経系の障害と画像					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP4/DP7 「科学的根拠に基づきながら適切に対象者にリハビリテーション技術を提供することができる能力」ならびに課題解決のために画像を活用する能力を身に付けるために必要な知識を得ること。					
授業の概要					
リハビリテーション関連職種として必要な運動器（骨関節、神経）疾患の画像的特徴について学習する。各種撮影法の基本原理と画像診断の理論を学修する。画像に関する内容は、胸部・腹部疾患、脳血管障害、脊椎・脊髄疾患、上肢・下肢疾患の内容とする。総論として基本原理と画像診断の理論、骨・関節疾患、脳血管障害・脳疾患の内容について学修する。					
授業計画					
第1回	画像診断学1 画像診断の歴史				
第2回	画像診断学2 画像診断の種類や装置の概要				
第3回	画像診断学3 脊椎（頸椎）				
第4回	画像診断学4 脊椎（腰椎）				
第5回	画像診断学5 下肢（膝関節）				
第6回	画像診断学6 上肢				
第7回	画像診断学7 下肢（股関節）				
第8回	画像診断学8 小児整形全般				
第9回	画像診断学9 スポーツ整形				
第10回	画像診断学10 脳の構造と脳画像総論及び各論				
第11回	画像診断学11 X線CT画像の診断				
第12回	画像診断学12 MRI画像の診断				
第13回	画像診断学13 超音波画像の診断				
第14回	画像診断学14 核医学画像の診断				
第15回	画像診断学15 被ばくと放射線管理				
教科書及び参考書					
診療放射線技師スリム・ベーシック 放射線医学概論 福士政広編集 メジカルビュー社					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	公衆衛生学	1単位	2年後期	浅川・田島・金・渡邊	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
公衆衛生学 疫学・統計 保健・福祉 社会保障		公衆衛生の理念や歴史、現在の公衆衛生システムの特徴など、公衆衛生の基本について理解する。疫学・統計の基本とその活用方法を学び、集団の特徴を表す健康指標を理解する。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2:理学療法士・作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。 DP3:理学療法分野・作業療法分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。 DP5:理学療法士・作業療法士として変化し得る様々な課題に対して、使命感と責任感のもとで自ら学び続ける探求心を持ち、研究することができる。					
授業の概要					
公衆衛生の歴史、基本理念、目的、対象を理解する。また、高齢者・学校・産業等の領域における健康問題の予防と解決のために、地域住民や関係者と協働して活動する方法の概要を理解する。公衆衛生学分野における専門的な知識と技能を有し、健康問題に対する包括的な理解を深めるとともに、「個人」「集団」「社会」「環境」の視点からアプローチする必要性を理解する。科学的な根拠に基づき、「個人」「集団」「地域」など様々なレベルにおける公衆衛生活動の実践方法を習得し、健康に関する課題を発見・解決する能力を備える。					
授業計画					
第1回	公衆衛生学とリハビリテーション（浅川）				
第2回	リハビリテーション専門職による公衆衛生活動策（浅川）				
第3回	公衆衛生学からみた健康・疾病・障害のとらえ方（金）				
第4回	保健統計（金）				
第5回	身体活動（田島）				
第6回	疫学（田島）				
第7回	公衆衛生活動の基盤（渡邊）				
第8回	茨城県における地域包括ケアシステムの構築（渡邊）				
第9回	高齢者保健・認知症対策（浅川）				
第10回	母子保健・学校保健（浅川）				
第11回	産業保健（金）				
第12回	精神保健・メンタルヘルス対策（金）				
第13回	成人保健（田島）				
第14回	行動変容（田島）				
第15回	障害者支援（第4章第7節）・まとめ（浅川）				
教科書及び参考書					
公衆衛生学（Crosslink basic リハビリテーションテキスト） 出版社：メジカルビュー社（2023/12/28） ISBN-10：4758320977、ISBN-13：978-4758320979					
成績評価方法					
学期末試験100%					
オフィスアワー					
何かあった際は、授業前または授業後に担当教員にお声がけください。					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	早期体験実習Ⅱ	1単位	2年後期	縄井清志(責任者)/巻/出澤/ 他	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
障害のある幼児、児童等の支援		各施設の職員および対象者とコミュニケーションを図りながら職員および対象者との良好な人間関係の構築し、他の職種や利用者からの情報を基にして理学療法士・作業療法士が果たすべき役割について学ぶことができる。			
地域在住高齢者の支援					
コミュニケーション能力					
主体的な学修					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP4:理学療法士として地域社会に貢献したいという思いが強くなり常に努力することができる。					
DP5:理学療法士として自らを律し、使命感と責任感を身に付け、課題解決のための研究能力を有しながら、自ら学び続けられる。					
DP6:理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献できる。					
授業の概要					
<p>障害のある幼児、児童等や地域在住高齢者の支援に貢献できる人材を養成するために、療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学、および本学主催の介護予防事業に参加する。各施設の職員および対象者とコミュニケーションを図りながら職員および対象者との良好な人間関係の構築し、他の職種や利用者からの情報を基にして理学療法士・作業療法士が果たすべき役割について学修する。また、理学療法士として、地域社会に貢献したいという思いが持てるように主体的に学修していく。</p>					
授業計画					
1日目	オリエンテーション、実習セミナー(実習施設内でのマナー、倫理的配慮) (縄井・巻・出澤・ほか)				
2日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学、体験(各1施設) (縄井・巻・出澤・ほか)				
3日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学、体験(各1施設) (縄井・巻・出澤・ほか)				
4日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学、体験(各1施設) (縄井・巻・出澤・ほか)				
5日目	療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学、体験(各1施設) (縄井・巻・出澤・ほか)				
教科書及び参考書					
特に定めず					
成績評価方法					
提出課題(100%)					
オフィスアワー					
縄井・巻・出澤 火曜日11時30分～12時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
早期体験実習Ⅰでの経験を確認しておくこと。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	理学療法評価学Ⅰ	1単位	2年前期	谷口圭祐(責任者)/出澤真之介/山元佐和子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
理学療法評価の意義・目的		理学療法士として必要な検査測定(情報収集、問診、形態計測、関節可動域テスト、筋力検査、反射検査、感覚検査)についてその意義、目的、検査方法、解釈について説明できる。			
高い安全性					
高い精度					
高い効率性					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
理学療法士として必要な検査測定(情報収集、問診、形態計測、関節可動域テスト、筋力検査、反射検査、感覚検査)についてその意義、目的、検査方法、解釈について学修する。また、検査を実施する際のリスト管理についても学修し、安全にかつ高い精度を保ち、効果的な検査方法についても学修する。					
授業計画					
第1回	理学療法評価の過程(谷口)				
第2回	模擬カルテからの情報収集(谷口)				
第3回	問診(医療面接)実技(谷口)				
第4回	反射検査実技(谷口)				
第5回	感覚検査実技(谷口)				
第6回	形態計測(谷口)				
第7回	関節可動域テスト(上肢)(出澤)				
第8回	関節可動域テスト(下肢)(出澤)				
第9回	関節可動域テスト(体幹)(出澤)				
第10回	筋力測定(上肢)(山元)				
第11回	筋力測定(下肢)(山元)				
第12回	筋力測定(顔面・体幹)(出澤)				
第13回	筋力測定総復習実技(山元)				
第14回	理学療法検査実技総復習(谷口、出澤、山元)				
第15回	まとめ(谷口、出澤、山元)				
教科書及び参考書					
理学療法評価学(MEDICALVIEW)、新・徒手筋力検査法 原著第10版[Web動画付](協同医書出版)					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
初回に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	理学療法評価学Ⅱ	1単位	2年後期	巻直樹(責任者)/高田/出澤/山元/犬田/原	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
脳血管障害の検査 疾患ごとの統合と解釈 治疾患ごとの治療アプローチ立案 ケーススタディー		検査測定(片麻痺機能検査、脳神経検査、高次脳機能検査、協調性検査)についてその意義、目的、検査方法、解釈について説明することができる。また臨床推論、ケーススタディーを通じて、理学療法評価の考え方を説明できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
前半は、理学療法士として必要な検査測定(片麻痺機能検査、脳神経検査、高次脳機能検査、協調性検査)の意義、目的、検査方法、解釈について学修する。また、検査を実施する際のリスト管理についても学修し、安全にかつ高い精度を保ち、効果的な検査方法についても学修する。後半は、検査結果の解釈などについて学修し、各疾患のケーススタディーで整理していく。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、理学療法評価学Ⅰの復習 (高田)				
第2回	理学療法評価学Ⅰの復習 (高田)				
第3回	脳血管障害の病態(国家試験問題含む) (高田)				
第4回	協調性とは、協調性検査① (高田)				
第5回	脳神経検査 (山元)				
第6回	パーキンソン病の病態及び評価 (高田)				
第7回	前半復習 (高田)				
第8回	問題点の抽出、目標設定 (犬田)				
第9回	統合と解釈、治療プログラム立案 (犬田)				
第10回	臨床推論①(骨関節疾患) (原)				
第11回	臨床推論②(中枢疾患) (原)				
第12回	ケーススタディー① (出澤)				
第13回	ケーススタディー② (出澤)				
第14回	ケーススタディー③ (巻)				
第15回	ケーススタディー④ (巻)				
教科書及び参考書					
理学療法評価学;MEDICALVIEW;中山 恭秀(編集)、新・徒手筋力検査法 原著第10版[Web動画付](協同医書出版)					
成績評価方法					
期末試験にて評定する。					
オフィスアワー					
巻：初回に提示する。					
高田：初回に提示する。					
出澤：初回に提示する。					
山元：初回に提示する。					
犬田：初回に提示する。					
原：初回に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	理学療法評価学実習Ⅰ	1単位	2年前期	谷口圭佑(責任者)/出澤真之介/山元佐和子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
高い安全性 高い精度 高い効率性		理学療法士として必要な検査測定(情報収集、問診、形態計測、関節可動域テスト、筋力検査)について、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識してできるようになる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
理学療法士として必要な検査測定(情報収集、問診、形態計測、関節可動域テスト、筋力検査)について、検査方法、記録方法を学修し、リスク管理についても整理していく。検査の実習では、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識して学修し、患者への負担をできる限り少なくできるようにしていく。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、理学療法評価の意義・目的(谷口)				
第2回	情報収集(谷口)				
第3回	問診(医療面接)(谷口)				
第4回	反射検査(谷口)				
第5回	感覚検査(谷口)				
第6回	形態計測実技①(谷口)				
第7回	形態計測実技②(谷口)				
第8回	関節可動域テスト(上肢)実技(出澤)				
第9回	関節可動域テスト(下肢)実技(出澤)				
第10回	関節可動域テスト実技総復習(出澤)				
第11回	筋力測定(上肢)実技(山元)				
第12回	筋力測定(下肢)実技(山元)				
第13回	筋力測定(顔面・体幹)実技(山元・出澤)				
第14回	理学療法検査実技総復習(谷口、出澤、山元)				
第15回	理学療法検査実技総復習(谷口、出澤、山元)				
教科書及び参考書					
理学療法評価学(MEDICALVIEW)、新・徒手筋力検査法 原著第10版[Web動画付](協同医書出版)					
成績評価方法					
定期試験(100%)					
オフィスアワー					
初回に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	理学療法評価学実習Ⅱ	1単位	2年後期	巻直樹(責任者)/高田/出澤/山元/犬田/原	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
高い安全性		理学療法士として必要な検査測定について、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識してできるようになる。			
高い精度					
高い効率性					
臨床推論・ケーススタディー					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
前半は、理学療法士として必要な検査測定(片麻痺機能検査、脳神経検査、高次脳機能検査、協調性検査)の意義、目的、検査方法、解釈について学修する。また、検査を実施する際のリスト管理についても学修し、安全にかつ高い精度を保ち、効果的な検査方法についても学修する。後半は、検査結果の解釈などについて学修し、各疾患のケーススタディーで整理していく。					
授業計画					
第1回	脳血管障害の病態 (高田)				
第2回	片麻痺機能検査 (高田)				
第3回	片麻痺機能検査(国家試験含む) (高田)				
第4回	協調性検査②、高次脳機能検査① (高田)				
第5回	高次脳機能検査②(国家試験問題含む) (高田)				
第6回	脳神経検査実技 (山元)				
第7回	前半まとめ (高田)				
第8回	臨床推論① (犬田)				
第9回	臨床推論② (犬田)				
第10回	臨床推論③ (原)				
第11回	ケーススタディ① (出澤)				
第12回	ケーススタディ② (出澤)				
第13回	ケーススタディ③ (出澤)				
第14回	ケーススタディ④ (巻)				
第15回	ケーススタディ⑤ (巻)				
教科書及び参考書					
理学療法評価学;MEDICALVIEW;中山 恭秀(編集)					
成績評価方法					
レポートにて評定する。					
オフィスアワー					
巻：初回に提示する。					
高田：初回に提示する。					
出澤：初回に提示する。					
山元：初回に提示する。					
犬田：初回に提示する。					
原：初回に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	健康マネジメント論	1単位	2年前期	呉世昶	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生活習慣病		生活習慣病に関わる主要指標を理解し、食事・運動実践の効果を説明できるようになる。あわせて、健康診断データを解釈し、無理のない健康管理を考察できるようになる。			
食生活・運動実践					
加齢・老化					
行動変容					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
本授業は、理論に裏付けられた専門的知識を修得し、科学的根拠に基づいて健康管理および支援を行うための基礎的能力の養成に関連する。					
授業の概要					
本授業では、生活習慣病の予防を目的として、食事および運動実践を中心とした健康管理の基本的な考え方を学ぶ。健康診断データの見方や年齢差、生活背景を踏まえ、日常生活の中で無理なく継続可能な自己管理の方法について理解を深める。さらに、検査値に及ぼす生活習慣の影響や短期的・長期的な変化を整理し、科学的根拠に基づいた健康づくりの視点を身に付けることを目指す。					
授業計画					
第1回	健康マネジメントの全体像				
第2回	健康診断データの見方				
第3回	検査値に及ぼす短期的効果と長期的効果				
第4回	肥満・肥満症のマネジメント①：概念と評価				
第5回	肥満・肥満症のマネジメント②：食事・運動の基本戦略				
第6回	脂肪性肝疾患と生活習慣①：概念と評価指標				
第7回	脂肪性肝疾患と生活習慣②：食事・運動の基本戦略				
第8回	身体活動・運動の基礎知識：量・強度・頻度				
第9回	運動処方：作成手順と注意点				
第10回	高血圧症のマネジメント：生活習慣介入の要点				
第11回	動脈硬化のマネジメント：危険因子と対策				
第12回	糖尿病のマネジメント：運動実践の留意点				
第13回	脂質異常症のマネジメント：病態と生活習慣介入				
第14回	心の健康マネジメント：ストレス対策と自己管理				
第15回	総括：行動変容と継続の工夫				
教科書及び参考書					
適宜資料を配布する。					
成績評価方法					
レポート課題30%、定期試験60%、授業への積極的参加度10%					
オフィスアワー					
火曜日・木曜日10時00分～11時00分、17時00分～17時50分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	日常生活活動学	1単位	2年前期	山元(責任者)/縄井清志/原圭佑	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
ADL評価		理学療法士の視点からADLを評価する目的および方法を理解し、疾患ごとに異なるADL指導が説明できるようになる。			
ADL支援機器					
各疾患におけるADL					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
前半はADLの概念について学習し、理学療法士の視点からADLを評価する目的ならびに方法を理解する。基本動作における正常について各動作を構成している運動を解釈し、動作の特徴を理解する。後半は疾患ごとのADLの特徴とその現象を捉え、科学的根拠に基づきながら理学療法士の専門性を活かし、ADL動作の指導方法について学習する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、ADLの概念と範囲 (山元)				
第2回	ADLと障害 (縄井)				
第3回	ADLとQOL (縄井)				
第4回	ADL運動学 (縄井)				
第5回	ADL評価① (山元)				
第6回	ADL評価② (山元)				
第7回	ADLを支援する機器① 自助具、日常生活用具 (縄井)				
第8回	ADLを支援する機器② 歩行補助具 (山元)				
第9回	ADLを支援する機器③ 車椅子 (山元)				
第10回	片麻痺患者のADL (山元)				
第11回	脊髄損傷患者のADL (原)				
第12回	脳性麻痺児のADL (原)				
第13回	関節リウマチ患者のADL (原)				
第14回	人工関節患者のADL (原)				
第15回	神経筋疾患患者のADL (原)				
教科書及び参考書					
標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学					
成績評価方法					
定期試験(筆記試験) 100%					
オフィスアワー					
初回授業時に提示					
履修にあたって必要な予備知識など					
患者さんの体験談などを見聞していると理解が深まります。本講義で扱う疾患について、事前に調べるようにしてください。					
備考					
普段の生活をイメージしながら受講してください。学習効果を得るために、予習・復習の時間を確保すること。また、主体的な学習ををするよう努めてください。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	物理療法学	1単位	2年後期	犬田 和成	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
物理療法		物理療法とは、熱、冷、電気、水、光線、力学的負荷などの物理エネルギーを疾患の治療に適応するもので、リハビリテーション医療のなかでは運動療法とともに理学療法の両輪をなすものである。受講者は各種物理療法の理論を理解するとともに臨床で用いられる物理療法機器の適応と禁忌を理解した上で、科学的根拠に基づいて病態に応じた物理療法を選択し、更に各種物理療法機器の取扱いを習得する。			
物理学					
生理学					
適応と禁忌					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
理学療法において運動療法とともに重要な物理療法について学ぶ。はじめに物理療法が適応になる病態の理解、物理学、生理学の基礎知識を確認した後に、基本的な物理療法（温熱療法、寒冷療法、光線療法、水治療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法、その他の物理療法）の基礎知識と使用方法について学ぶ。					
授業計画					
第1回	授業の概要説明、物理療法総論				
第2回	物理療法の臨床適応と評価				
第3回	温熱療法				
第4回	寒冷療法				
第5回	電磁波療法				
第6回	超音波療法				
第7回	電気刺激療法Ⅰ				
第8回	電気刺激療法Ⅱ				
第9回	光線療法				
第10回	牽引療法				
第11回	水治療法				
第12回	随意運動介助型電気刺激				
第13回	リハビリテーションロボット				
第14回	物理療法の臨床応用				
第15回	物理療法の効果判定				
教科書及び参考書					
教科書：物理療法学 編著：鳥野大 川村博文 医歯薬出版株式会社					
参考書：エビデンスから身につける物理療法 庄本康治（編）羊土社 物理療法学テキスト改訂第3版 細田多穂監修 南江堂 物理療法学改訂第3版 松澤正・江口勝彦監修 金原出版株式会社 理学療法学テキスト 物理療法学 吉田英樹（編）MEDICAL VIEW					
成績評価方法					
筆記試験にて評価する。					
オフィスアワー					
質問や相談のある場合はメールにてアポイントメントを取ってください。 メールアドレスはinuta@u.a-ru.ac.jpです。					
履修にあたって必要な予備知識など					
各種物理的エネルギーが生体に与える影響と生理学的効果の機序を理解するためには、生理学と物理学の基礎知識が必要となる。					
備考					
理学療法士の強みとなる技術の一つである物理療法を是非とも扱えるようになっていただきたい。そのためにも、基礎知識の習得が必須であり、みなさんには予習復習に十分取り組んでいただきたい。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	臨床実習Ⅰ	1単位	2年後期	谷口(責任者)/原/中/新田/縄井/渡邊/巻/山元/犬田/出澤	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
コミュニケーション能力		指導者の助言、指導を受けながら 主体的に対象者との良好なコミュニケーションを取り、理学療法評価を實踐することができる。			
理学療法検査測定					
主体的な学修態度					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP4:理学療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
DP5:理学療法士として自らを律し、使命感と責任感を身に付け、課題解決のための研究能力を有しながら、自ら学び続けられる態度を有している。					
授業の概要					
<p>実習施設にて理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ、作業療法評価学Ⅰ・Ⅱで学修した理学・作業療法評価を対象者に対して、指導者の監視の下、指導を受けながら見学→模倣→実践をする。その様な応用的学習の機会を得ることで、対象者の疾病や障害の理解を深める。また、対象者ならびに家族、利用者本人に関わる多職種から生活状況や症状、障害などを聴取し、対象者ならびに家族のニーズを引き出すためのコミュニケーション技術も学修すると共に、その聴取内容と評価結果との関連性を考察する。これらの実践を主体的に行うために日々の記録をまとめ、理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>					
授業計画					
【実習前】	オリエンテーション、筆記試験及びOSCE、実習セミナー				
1日目	実習施設にて対象者の理学療法検査測定の実施				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
2日目	実習施設にて対象者の理学療法検査測定の実施				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
3日目	実習施設にて対象者の理学療法検査測定の実施				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
4日目	実習施設にて対象者の理学療法検査測定の実施				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
5日目	実習施設にて対象者の理学療法検査測定の実施				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
【実習後】	実習の振り返り、OSCE、実習報告会				
教科書及び参考書					
実習の手引き					
成績評価方法					
実習指導者評価、実習課題(50%)、実習課題の提出(25%)、実習報告会(25%)					
オフィスアワー					
谷口：木曜日12時30分～13時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
理学療法評価学の学問を復習しておくこと。					
備考					
<p>学外での実習となります。社会的モラルには十分意識するように。【実習前】筆記試験並びにOSCEは、実習参加の可否を決定する診断評価として実施し、【実習後】OSCEは、実習参加後の習熟度評価として実施する。【実習前】の試験が不合格の場合は、補習期間を設け、再試験とする。都合により内容を変更する場合があります。</p>					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	リーダーシップマネジメント論	2単位	2年後期	縄井/五味/宇都木/細田/後藤/垣見/多田/所	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
マネジメント	マネジメントの基礎理論、システム、サービス、リーダーシップ、人的資源活用法について理解し、マネジメントの必要性とその内容について説明することができる。				
システム					
リーダーシップ					
人的資源					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP9: 事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え、マネジメントすることができる。					
授業の概要					
<p>リーダーシップには自分自身に対するリーダーシップ(セルフ・リーダーシップ)と、周囲へのリーダーシップの2種類がある。人はえてして周りの言動に流されがちであり、こうした人間の特性を心理学の観点から学び、自分の意志で考えて行動する主体性の大切さを伝えていく。</p> <p>まずは自分自身へのリーダーシップを発揮して、周りに流されることなく行動すること、そして次に周囲へのリーダーシップを発揮してチームの目標達成のために他のメンバーを引っ張り、影響力を広げることが意識し、実践する。</p>					
授業計画					講義日 時間 教室
第1回	オリエンテーション	縄井	9月29日	5限	3号館5階講堂
第2回	「“想い”を“成果”へ」～具体的に行動することの楽しさ～	宇都木	10月6日	5限	
第3回	「“想い”を“成果”へ」～具体的に行動することの楽しさ～	宇都木	13日	5限	
第4回	地域で活躍を期待されるリーダーシップとマネジメントとは①	細田	20日	5限	
第5回	地域で活躍を期待されるリーダーシップとマネジメントとは②	細田	27日	5限	
第6回	医療従事者に求められるリーダーシップとは？	後藤	11月10日	5限	
第7回	政治家に求められるリーダーシップとは？	後藤	17日	5限	
第8回	スポーツ現場におけるリーダーシップとマネジメントについて	垣見	24日	5限	
第9回	保険外での活躍の場としての整体院運営について	佐川	12月1日	5限	
第10回	「場」・「可能性」の実現に必要なリーダーシップとマネジメント	所	8日	5限	
第11回	店舗運営におけるリーダーシップとマネジメントについて	多田	15日	5限	
第12回	貢献できる「場」・自らの「可能性」を考える	所	22日	5限	
第13回	整体院ビジネスにおけるリーダーシップマネジメントについて	佐川	1月5日	5限	
第14回	医療者が学びの中で求められるリーダーシップとは	中	12日	5限	
第15回	まとめ	縄井	19日	5限	
教科書及び参考書					
講義内で配布する資料を参考にすること。参考書は適宜、紹介する。					
成績評価方法					
授業外レポート100%					
オフィスアワー					
火曜日10時から12時 205研究室					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。					

1限 9:20~10:50
2限 11:00~12:30
3限 13:30~15:00
4限 15:10~16:40
5限 16:50~18:20

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
基礎科目	運動障害・健康障害と心理	1単位	3年前期	岡村 正洋	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
しあわせ		運動障害・健康障害のある子どもの心理的な背景や心理的な特性等を配慮しながら、理学療法士・作業療法士と専門的なアプローチができる。			
障害の背景					
心理的アプローチ					
寄り添う					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2 ; 個々の障害や人生に寄り添いながら支援を心がけることができるよう、運動障害や健康障害のある人の心理的な背景や特性についての理解を深める。					
授業の概要					
代表的な運動障害や健康障害のある子どもたちの心理的な背景や特性等について、事例等を通して協議を深め、理学療法士・作業療法士として個々の障害や人生に寄り添いながら支援できる資質を高める。					
授業計画					
第1回	しあわせの哲学				
第2回	脳性疾患・筋原性疾患				
第3回	高次脳機能障害・ジストニア				
第4回	協調性運動障害				
第5回	悪性新生物				
第6回	虐待・PTSD				
第7回	不登校・いじめ				
第8回	摂食障害・気分障害・うつ病				
教科書及び参考書					
参考書：子どものための精神医学 滝川一廣 医学書院					
成績評価方法					
定期テスト100%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。okamura@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし。					
備考					
事例を通して授業を進めていきます。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	リハビリテーション栄養学	1単位	3年前期	櫻井 麻理	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
栄養アセスメント		栄養ケアプロセスの基礎的な知識や各病態に応じた栄養療法を習得し、チーム医療の一員としての力を養う。			
栄養ケアプラン					
栄養補給法					
病態に応じた栄養療法					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
<p>DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。</p> <p>DP2:作業療法士として地域住民を取り巻く多職種と信頼関係を築く為の円滑なコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と課題を共有して協働することができる。</p> <p>DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。</p> <p>DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。</p>					
授業の概要					
<p>栄養ケアプロセス（栄養状態の評価、栄養補給法や必要栄養量設定などの栄養ケアプラン、栄養食事指導等）について学び、対象者の身体状況や病態に応じた栄養管理および栄養教育に関する理解を深める。効果的なりハビリテーションを行うための栄養関連の知識を習得し、多職種連携を担う能力の獲得を目指す。</p>					
授業計画					
第1回	リハビリテーションと栄養				
第2回	栄養の基礎①				
第3回	栄養の基礎②				
第4回	栄養の基礎③				
第5回	ライフステージと栄養①				
第6回	ライフステージと栄養②				
第7回	ライフステージと栄養③				
第8回	栄養ケアプロセス				
第9回	病態別栄養療法①				
第10回	病態別栄養療法②				
第11回	疾患別栄養療法①				
第12回	疾患別栄養療法②				
第13回	疾患別栄養療法③				
第14回	栄養教育、臨床栄養管理とチーム医療①				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
医歯薬出版株式会社「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第3版」					
成績評価方法					
期末試験90%、レポート課題10%					
オフィスアワー					
授業終了時					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	予防医学	1単位	3年後期	田辺勇人	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生活習慣		疾病の予防につながる生活習慣の改善を理解し、療法士として予防医学に貢献できる能力を養う。			
疾病予防対策					
産業医学					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的な根拠とともにリハビリテーションを実践することができる。					
授業の概要					
本講義では、超高齢社会となる我が国において、今後さらに重要性を増す予防医学について科学的根拠に基づき、病態生理ならびに特徴の知識を学修し、疾病予防のための生活習慣改善の重要性を理解していく。さらに、生活習慣改善や予防的措置において、理学療法士・作業療法士が果たす役割についても検討する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、予防医学の考え方捉え方				
第2回	メタボリックシンドローム・脂質異常症・糖尿病				
第3回	高血圧・腎疾患・心血管疾患・脳血管疾患				
第4回	運動器疾患、がん、認知症				
第5回	代替医療、その他の行為				
第6回	呼吸器疾患・口腔保健と歯周病(歯科衛生士)				
第7回	医療保険制度と医療統計				
第8回	前半のまとめと確認Quiz				
第9回	生活習慣の改善1 食				
第10回	生活習慣の改善2 身体活動				
第11回	生活習慣の改善3 睡眠・ストレス				
第12回	アルコールと喫煙				
第13回	感染症とアレルギーの予防				
第14回	健康生成論とうつ病の予防				
第15回	職域における予防医学				
教科書及び参考書					
プリント配布					
成績評価方法					
定期試験と提出されたレポート					
オフィスアワー					
授業終了後					
履修にあたって必要な予備知識など					
公衆衛生学の内容を復習しておくこと。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。					

授業科目+A1:F36区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	地域包括ケアシステム論	1単位	3年前期	谷口 圭佑	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
地域包括ケア	多職種連携	地域包括ケアシステムについて説明することができる。急性期から維持期にかけてのリハビリテーションの流れを理解し、説明することができる。			
地域連携		多職種連携について説明することができる。医療・介護チームの一員としての理学療法士・作業療法士の役割を説明する事ができる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 作業療法・理学療法学分野における専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいて臨床的課題を発見・解決できる能力を有している。					
DP4: 作業療法士・理学療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
授業の概要					
2025年以降は、国民の医療や介護の需要が、さらに増加することが見込まれている。地域包括ケアシステム論では高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムのあり方について学ぶ。また、地域包括ケアシステムを理解した上で理学療法士・作業療法士が果たすべき役割、多職種連携について学ぶ。					
授業計画					
第1回	地域包括ケアシステムの概念				
第2回	介護保険制度の仕組みとサービス				
第3回	介護予防・日常生活支援総合事業の仕組みとサービス				
第4回	地域包括ケアシステムと在宅医療・介護連携				
第5回	認知症ケアシステムとリハビリテーション				
第6回	病期別リハビリテーション(急性期・回復期・維持期・ターミナル)				
第7回	多様な課題を抱え地域で暮らすあらゆる人々へのサービス提供システム				
第8回	多様な人々を対象とした専門職として作業療法士の役割と専門性について理解する				
第9回	地域包括ケアにおける多様な専門職および地域の人々との連携協働の意義				
第10回	地域包括ケアの取り組みの実際を知る【通所サービス・介護予防教室の役割】				
第11回	地域包括ケアの取り組みの実際を知る【訪問サービスの役割】				
第12回	地域包括ケアの取り組みの実際を知る【事例検討①】				
第13回	地域包括ケアの取り組みの実際を知る【事例検討②】				
第14回	地域包括ケアの取り組みの実際を知る【事例検討③】				
第15回	作業療法を活かした地域包括ケアシステムの事例検討課題発表				
教科書及び参考書					
適宜配布します。					
成績評価方法					
授業の出席状況・レポート課題					
オフィスアワー					
水曜日・木曜日・金曜日 17時以降					
履修にあたって必要な予備知識など					
自身の住まいの地域包括ケアシステムについて事前に情報収集しておくこと					
備考					
都合により内容を変更する場合があります					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	医療関係法規論	1単位	3年後期	小西知世（責任者）/上木原	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
法律のイメージ		PT・OTにかかわる法を具体的にイメージすることができるようになり、医療専門職として社会から何が求められているのか自覚できるようになる。			
理学療法士及び作業療法士法					
チーム医療と業務分担					
社会からの期待					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学・作業療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
理学療法士、作業療法士に限らず、医療関連職種はその職務遂行上、多岐にわたる法規のもとに業務がなされている。したがって、リハビリテーション医療の提供においては、業務遂行の基盤となりうる法規を理解することは不可避である。本講義では、リハビリテーション専門職として従事するために必要な法規および関連法規について理解するとともに、正しく職務を遂行するための根拠や判断基準を習得する。					
授業計画					
第1回	イントロダクション・法とは何か——法律に対するイメージ（小西）				
第2回	保健医療にかかわる法律とその全体像（小西）				
第3回	医療専門職種関連法規——概要（小西）				
第4回	医療専門職種関連法規——PTとOTの法律上の業務（小西）				
第5回	医療専門職種関連法規——医師と看護師の業務（小西）				
第6回	医療専門職種関連法規——PTとOTの業務をめぐる問題（小西）				
第7回	医療専門職種関連法規——その他リハ職の業務（小西）				
第8回	医療事故をめぐる法の枠組（上木原）				
第9回	医療事故をめぐる法の枠組（上木原）				
第10回	医療事故をめぐる法の枠組（上木原）				
第11回	医療事故をめぐる法の枠組（上木原）				
第12回	支えるシステムに関する法律——お金・サービスに関する法律（小西）				
第13回	支えるシステムに関する法律——さまざまなサポートに関する法律（小西）				
第14回	保健医療制度の基本法・場所に関する基本法——医療法（小西）				
第15回	講義をふりかえって（小西）				
教科書及び参考書					
教科書：『理学療法士のためのはじめての法律講座』（メディカ出版、2025年） 参考書：『看護をめぐる法と制度』（メディカ出版、第6版、2025年）					
成績評価方法					
定期試験70%、平常点30%（講義中の発言回数など）					
オフィスアワー					
随時（連絡先：tomoyo@meiji.ac.jp）					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	理学療法管理学	1単位	3年後期	縄井 清志	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
理学療法管理		組織における管理について理解する。 職場管理（教育）、職業倫理を身につける			
組織					
医療安全					
社会保障					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP7:事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え、マネジメントすることができる。					
授業の概要					
<p>本科目では、一般的な管理業務を学修し、さらにリハビリテーション専門職としての業務ならびに理学療法士としての業務を適正に管理・運営できるようにし、理学療法管理の意義と目的について説明できるようにする。医療組織人としての適性を高め、人事管理、業務管理、管理者に求められる知識・技術ならびに教育業務について科学的根拠に基づき学修していく。</p>					
授業計画					
第1回	1章 職業倫理				
第2回	2章 関係法規				
第3回	3章 組織の機能				
第4回	3章 組織の機能				
第5回	4章 運営・業務の管理				
第6回	4章 運営・業務の管理				
第7回	5章 非営利的組織の質の保証				
第8回	5章 非営利的組織の質の保証				
第9回	医療安全管理(概要)				
第10回	医療安全管理(チームステップス)				
第11回	医療安全管理(感染対策)				
第12回	6章 キャリアアップシステム				
第13回	7・8章 さまざまな事業開設の実際／新時代の理学療法				
第14回	まとめ1				
第15回	まとめ2				
教科書及び参考書					
Crosslink 理学療法学テキスト 理学療法管理学 メジカルビュー 2025					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
火曜日13時から15時					
履修にあたって必要な予備知識など					
授業を受けるにあたり、対応する教科書の内容を確認しておいてください。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	動作分析学	1単位	3年前期	出澤 真乃介	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
姿勢・動作		理学療法士として、動作分析の意義、正常姿勢・動作分析の方法、統合と解釈について説明できる。さらに、各種疾患においても同様に説明できるようにする。			
神経疾患患者の動作					
骨関節疾患患者の動作					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
前半は、理学療法士としての動作分析の意義、正常な姿勢・動作分析の方法、統合と解釈について学修し、中盤以降は各疾患における動作の特徴、原因について解釈していく。動作の種類は、理学療法士として特に必要な基本動作(寝返り動作、起き上がり動作、立ち上がり動作、歩行、階段昇降)について学修し、経験則だけでなく科学的根拠に基づきながら原因を追究し解釈する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション				
第2回	臨床における動作分析				
第3回	動作障害に関与する機能障害				
第4回	姿勢制御のバイオメカニクス①				
第5回	姿勢制御のバイオメカニクス②				
第6回	寝がえりの動作分析①				
第7回	寝がえりの動作分析②				
第8回	起き上がりの動作分析①				
第9回	起き上がりの動作分析②				
第10回	起立・着座動作の分析①				
第11回	起立・着座動作の分析②				
第12回	歩行の分析①				
第13回	歩行の分析②				
第14回	神経障害系疾患の動作				
第15回	運動器系疾患の動作				
教科書及び参考書					
教科書：動作分析臨床活用講座（メジカルビュー社） 参考図書：基礎運動学（医歯薬出版）、臨床運動学（医歯薬出版）					
成績評価方法					
期末試験100%					
オフィスアワー					
月曜日 午後					
履修にあたって必要な予備知識など					
運動学に関する復習をしてください					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	動作分析学実習	1単位	3年後期	犬田 和成（責任者）/原 佳祐	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
筋電図		各検査機器を用いて、「運動」を客観的に捉え、科学的根拠を意識しながら動きを解釈することができるようにする。			
トルクマシン					
重心動揺計					
3次元動作解析装置					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
<p>本科目では、筋電図、トルクマシン、重心動揺計、3次元動作解析装置を用いて、各機器の計測の実習を行う。その目的は、理学療法士として経験則だけに囚われず「運動」を客観的に捉え、科学的根拠に基づきながら動作を解釈することが求められるからである。各機器の特徴から患者に必要な検査はどのようなものがあるのかも合わせて学修していく。</p>					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、筋機能の計測実習(筋電図①)	(犬田/原)			
第2回	筋機能の計測実習(筋電図②) 起き上がり動作	(犬田/原)			
第3回	筋機能の計測実習(筋電図③) 立ち上がり動作	(犬田/原)			
第4回	筋機能の計測実習(筋電図④) 歩行動作	(犬田/原)			
第5回	筋電図解析実習	(犬田/原)			
第6回	筋機能の計測実習(トルクマシン) 膝関節周囲筋群	(犬田/原)			
第7回	筋機能の計測実習(HHD) 上肢筋群	(犬田/原)			
第8回	筋機能計測解析実習	(犬田/原)			
第9回	姿勢の計測実習(重心動揺計①) 静的立位	(犬田/原)			
第10回	姿勢の計測実習(重心動揺計②) 動的立位	(犬田/原)			
第11回	重心動揺計解析実習	(犬田/原)			
第12回	運動機能の計測実習(3次元動作解析装置①)	(犬田/原)			
第13回	運動機能の計測実習(3次元動作解析装置②) 立ち上がり動作	(犬田/原)			
第14回	運動機能の計測実習(3次元動作解析装置③) 歩行動作	(犬田/原)			
第15回	3次元動作解析装置解析実習	(犬田/原)			
教科書及び参考書					
<p>教科書：採用しないので 参考書：資料を配布する計測法入門－計り方、計る意味－(協同医書出版)</p>					
成績評価方法					
提出課題50%・筆記試験50% 合計60%以上にて単位認定とする					
オフィスアワー					
<p>質問や相談のある場合はメールにてアポイントメントを取ってください。 犬田：inuta@u.a-ru.ac.jp 原：k-hara@u.a-ru.ac.jp</p>					
履修にあたって必要な予備知識など					
運動学の学問について復習しておくこと。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動療法学実習	1単位	3年前期	出澤 真乃介(責任者)/高田 祐	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
関節可動域練習		運動療法の理論を理解しながら、基本的な運動療法を実践できることを目標とする。			
筋力増強練習					
運動制御と運動学習					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
運動療法を施行するにあたり必要な基礎知識(関節の運動、関節可動域練習の分類や筋力増強運動、運動制御理論、運動学習理論)を理解しながら、その知識を運動療法へ展開ならびに応用できるよう実技練習を通じて実践し、科学的根拠に基づきながら対象者に運動療法を提供できるよう学修していく。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、運動療法の理論、関節とは (高田)				
第2回	関節可動域運動の概要 (高田)				
第3回	関節可動域運動実習①(肩甲帯、上肢帯) (高田)				
第4回	関節可動域運動実習②(下肢帯、体幹) (高田)				
第5回	関節可動域運動実習④(復習) (高田)				
第6回	筋力増強理論① (高田)				
第7回	筋力増強理論② (高田)				
第8回	運動制御理論 (高田)				
第9回	運動学習理論① (高田)				
第10回	運動学習理論② (高田)				
第11回	運動イメージの評価と指導 (出澤)				
第12回	バランス評価と指導 (出澤)				
第13回	協調性評価と指導 (出澤)				
第14回	姿勢評価と指導 (出澤)				
第15回	歩行障害に対する評価と指導 (出澤)				
教科書及び参考書					
資料を随時提示する。					
成績評価方法					
期末試験100%					
オフィスアワー					
出澤：月 午後					
高田：初回に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
人体構造学も運動学の学問について復習しておくこと。					
備考					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動器障害系理学療法学Ⅰ	1単位	3年前期	基幹教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
組織の治癒過程		各種組織の治癒過程を理解し、代表的な骨折や変形性関節症等の病態に基づいた理学療法評価および介入の基礎的知識と臨床的思考能力を修得する。			
骨折					
変形性関節症					
臨床的思考					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
理学療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を身につける。また、社会における役割を理解し、健康支援に貢献できる能力を育むことを方針とする。					
授業の概要					
本講義では、運動器障害理学療法の基礎となる筋・骨・軟骨等の組織治癒過程をまず学習する。次いで、臨床で遭遇頻度の高い上・下肢の骨折、変形性関節症、肩・脊椎疾患、スポーツ外傷（ACL損傷等）について、病態、手術療法、理学療法プロセスを網羅的に取り扱う。各疾患の最新エビデンスに基づき、機能障害の解釈から具体的な介入戦略の立案まで、理学療法士として必要な臨床的意思決定の基礎を構築する。					
授業計画					
第1回	骨格筋・腱・靭帯の治癒過程				
第2回	骨・関節軟骨・末梢神経・皮膚の治癒過程				
第3回	骨折と脱臼				
第4回	上肢の骨折：上腕骨顆上骨折				
第5回	上肢の骨折：コーレス骨折				
第6回	下肢の骨折：大腿骨頸部骨折				
第7回	下肢の骨折：下腿骨折				
第8回	変形性股関節症				
第9回	中間まとめ、中間試験				
第10回	変形性膝関節症				
第11回	肩関節周囲炎				
第12回	腱板損傷				
第13回	腰椎椎間板ヘルニア				
第14回	前十字靭帯損傷				
第15回	全体のまとめ				
教科書及び参考書					
(参考書) 理学療法テキスト運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ					
成績評価方法					
中間試験50%、定期試験50%					
オフィスアワー					
火曜日 11時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
解剖学、生理学					
備考					
少しずつ疾患に慣れ親しんでいきましょう。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動器障害系理学療法学Ⅱ	1単位	3年後期	基幹教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
関節変形と生活指導 脊髄損傷 臨床推論の深化		脊髄損傷や神経絞扼障害等の多様な病態を理解する。また、多角的な評価結果から個別性の高い治療プログラムを立案できる、実践的な臨床的意思決定能力を養う。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
理学療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を身につける。また、社会における役割を理解し、健康支援に貢献できる能力を育むことを方針とする。					
授業の概要					
本講義では「運動器障害系理学療法学1」で学んだ基礎知識を応用し、半月板損傷等のスポーツ外傷に加え、手根管症候群や脊椎・脊髄損傷、関節リウマチ等の専門性の高い疾患を網羅する。主要疾患の再学習（その②）では、合併症や生活背景を考慮した、より高度な治療戦略を検討する。解剖・運動学に基づき、単一の障害のみならず隣接関節や神経系への影響を統合的に解釈し、根拠に基づいた適切な理学療法を展開するための深い洞察力を習得する。					
授業計画					
第1回	半月板損傷				
第2回	手根管症候群				
第3回	胸郭出口症候群				
第4回	関節リウマチ				
第5回	頸髄損傷				
第6回	胸髄・腰髄損傷				
第7回	腰椎圧迫骨折				
第8回	中間まとめ、中間試験				
第9回	大腿骨頸部骨折（その②）				
第10回	テニス肘				
第11回	肩関節不安定症				
第12回	扁平足				
第13回	肩関節周囲炎（その②）				
第14回	変形性膝関節症（その②）				
第15回	全体のまとめ、実技試験				
教科書及び参考書					
(参考書) 理学療法テキスト運動器障害系理学療法学Ⅰ・Ⅱ					
成績評価方法					
中間試験50%、定期試験50%					
オフィスアワー					
火曜日 11時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
解剖学、生理学、運動学					
備考					
運動器障害系理学療法学1の続きとなる位置付けです。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動器障害理学療法学実習Ⅰ	1単位	3年前期	基幹教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
体表解剖・触診		体表解剖の理解に基づき、各疾患に応じた可動域測定、筋力検査、スペシャルテスト等の評価手技を正確に実施し、得られた情報の解釈と統合を行う能力を養う。			
理学療法評価					
特殊検査					
臨床的思考					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
理学療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を身につける。また、社会における役割を理解し、健康支援に貢献できる能力を育むことを方針とする。					
授業の概要					
本実習は「運動器障害理学療法学1」と連動し、講義で学んだ病態知識を評価技術として具現化することを目的とする。前半は評価の基盤となる骨・筋・腱の精密な触診技術を習得する。後半は各種骨折や関節疾患、スポーツ外傷を想定した模擬評価を実施する。関節可動域や筋力測定に加え、疾患特異的なスペシャルテストを実践し、機能障害の原因を論理的に導き出すための、理学療法士としての基本的臨床技術を体得する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、触診①				
第2回	触診②				
第3回	触診③				
第4回	上肢の骨折：上腕骨顆上骨折 の評価				
第5回	上肢の骨折：コーレス骨折 の評価				
第6回	下肢の骨折：大腿骨頸部骨折 の評価				
第7回	下肢の骨折：下腿骨折 の評価				
第8回	変形性股関節症の評価				
第9回	中間まとめ、中間試験				
第10回	変形性膝関節症の評価				
第11回	肩関節周囲炎の評価				
第12回	腱板損傷の評価				
第13回	腰椎椎間板ヘルニアの評価				
第14回	前十字靭帯損傷の評価				
第15回	全体のまとめ				
教科書及び参考書					
(参考書) 理学療法テキスト運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ					
成績評価方法					
中間試験50%、定期試験50%					
オフィスアワー					
火曜日 11時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
体表解剖学、生理学					
備考					
様々な評価を体を動かしながら体験します。動きやすい服装できてください。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	1単位	3年後期	基幹教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
神経学的検査		末梢神経障害や脊髄損傷等の病態に対し、各種感覚・運動・反射検査を正確に実施し、障害レベルを特定できる評価技術と臨床的思考力を修得する。			
脊髄損傷評価					
全身評価					
実践的な評価技術の習得					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
理学療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を身につける。また、社会における役割を理解し、健康支援に貢献できる能力を育むことを方針とする。					
授業の概要					
本実習は「運動器障害系理学療法学2」と並走し、神経絞扼障害や脊髄損傷、関節リウマチ等の専門的評価手技に焦点を当てる。各疾患特有の感覚検査、徒手筋力検査、深部反射に加え、神経学的レベル判定（ASIA等の基準）を実践的に学ぶ。また、大腿骨頸部骨折や変形性膝関節症の再学習（その②）では、より臨床に近い症例を想定した統合的評価を演習し、最終回では実技試験を通じて、確かな評価技術と臨床対応能力を養成する。					
授業計画					
第1回	半月板損傷の評価				
第2回	手根管症候群の評価				
第3回	胸郭出口症候群の評価				
第4回	関節リウマチの評価				
第5回	頸髄損傷の評価				
第6回	胸髄・腰髄損傷の評価				
第7回	腰椎圧迫骨折の評価				
第8回	中間まとめ、中間試験				
第9回	大腿骨頸部骨折の評価（その②）				
第10回	テニス肘の評価				
第11回	肩関節不安定症の評価				
第12回	扁平足の評価				
第13回	肩関節周囲炎の評価（その②）				
第14回	変形性膝関節症の評価（その②）				
第15回	全体のまとめ、実技試験				
教科書及び参考書					
(参考書) 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ、神経障害理学療法学Ⅱ					
成績評価方法					
中間試験50%、定期試験50%					
オフィスアワー					
火曜日 11時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
解剖学（神経筋、骨格）、運動学（運動力学）、動作分析					
備考					
神経学的評価、整形外科的テスト、など幅広い知識を習得しましょう。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択		
職業専門科目	神経障害系理学療法学Ⅰ	1単位	3年前期	渡邊 大貴(責任者)/出澤 真乃介	必修		
授業科目の学修教育目標							
キーワード		学修教育目標(学修成果)					
脳血管障害	機能回復	運動療法	ガイドライン	脳血管障害の理学療法に必要な病態生理を理解し、医学的治療、機能回復のメカニズムについて説明することができる。各種ガイドラインをもとに病期に即した理学療法を説明することができる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連							
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。							
授業の概要							
脳血管障害の病態生理を理解し、急性期治療、機能回復のメカニズム等について学ぶ。また、病期に即した理学療法、各種ガイドラインで推奨されている理学療法評価や治療介入(運動療法)について理学療法士として科学的根拠に基づきながら理解する。							
授業計画							
第1回	脳血管障害の病態と症候(渡邊)						
第2回	脳血管障害の医学的検査と治療(渡邊)						
第3回	脳卒中治療ガイドラインとその適応(渡邊)						
第4回	脳血管障害の理学療法評価①(渡邊)						
第5回	脳血管障害の理学療法評価②(渡邊)						
第6回	脳血管障害後の運動機能障害(渡邊)						
第7回	脳血管障害後の歩行障害(渡邊)						
第8回	脳血管障害後の高次脳機能障害(渡邊)						
第9回	脳卒中理学療法ガイドラインとその適応(渡邊)						
第10回	脳血管障害後の理学療法(急性期/リスク管理)(渡邊)						
第11回	脳血管障害後の理学療法(急性期/早期離床)(渡邊)						
第12回	脳血管障害後の理学療法(回復期/課題指向型/ロボット)(渡邊)						
第13回	脳血管障害後の理学療法(回復期/装具・電気刺激療法)(出澤)						
第14回	脳血管障害後の理学療法(生活期/通所・訪問リハ)(出澤)						
第15回	脳血管障害後の理学療法(生活期/ニューロモデュレーション)(出澤)						
教科書及び参考書							
教科書①:神経障害理学療法学Ⅰ、「メジカルビュー社」、2023年、第1版、 教科書②:REHABILITATION VIEW(動画学習コンテンツ)、「メジカルビュー社」、2026年、その他、配布資料が中心になります。 参考書:神経障害理学療法学Ⅰ、15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト、「中山書店」、2020年、第2版							
成績評価方法							
定期試験(100%)							
オフィスアワー							
渡邊・出澤:初回に提示します。							
履修にあたって必要な予備知識など							
分からないことはその場で確認、質問すること。							
備考							
授業中に使用するスライドデータの撮影(動画も含む)は禁止する。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。							

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	神経障害系理学療法学Ⅱ	1単位	3年後期	渡邊 大貴(責任者)/出澤 真乃介	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
神経筋障害	運動機能障害	運動療法	ガイドライン	神経筋障害の理学療法に必要な病態生理を理解し、医学的治療、機能回復のメカニズム、長期予後について説明することができる。各種ガイドラインをもとに病期に即した理学療法を説明することができる。	
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
神経筋障害の病態生理を理解し、急性期治療、機能回復のメカニズム等について学ぶ。また、病期に即した理学療法、各種ガイドラインで推奨されている理学療法評価や治療介入（運動療法）についても理解し、理学療法士として科学的根拠に基づきながら実践できることを目指していく。					
授業計画					
第1回	総論: 神経筋障害の病態と症候（出澤）				
第2回	総論: 神経筋障害の医学的検査と治療（出澤）				
第3回	神経筋障害に対する各種ガイドライン（出澤）				
第4回	神経難病理学療法ガイドラインとその適応（出澤）				
第5回	パーキンソン病の理学療法（目的、評価）（出澤）				
第6回	パーキンソン病の理学療法（治療戦略、アプローチ）（出澤）				
第7回	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法（目的、評価）（出澤）				
第8回	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法（治療戦略、アプローチ）（出澤）				
第9回	筋ジストロフィーの理学療法（目的、評価）（出澤）				
第10回	筋ジストロフィーの理学療法（治療戦略、アプローチ）（出澤）				
第11回	多発性硬化症の理学療法（目的、評価）（出澤）				
第12回	多発性硬化症の理学療法（治療戦略、アプローチ）（出澤）				
第13回	筋萎縮性側索硬化症の理学療法（目的、評価）（渡邊）				
第14回	筋萎縮性側索硬化症の理学療法（治療戦略、アプローチ）（渡邊）				
第15回	ギランバレー症候群、筋炎など、その他神経変性疾患の理学療法（渡邊）				
教科書及び参考書					
教科書：神経障害理学療法学Ⅱ、「メジカルビュー社」、2025年、第1版、その他、配布資料が中心になります。 参考書：病気がみえる Vol.7 脳・神経、メディックメディア、2022年、第2版					
成績評価方法					
定期試験（100%）					
オフィスアワー					
渡邊・出澤：初回に提示します。					
履修にあたって必要な予備知識など					
分からないことはその場で確認、質問すること。					
備考					
授業中に使用するスライドデータの撮影（動画も含む）は禁止する。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	1単位	3年後期	渡邊 大貴(責任者)/出澤 真乃介	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
脳卒中片麻痺者 機能障害、運動療法 運動失調、バランス 理学療法プログラム立案		脳卒中片麻痺を中心に神経変性疾患に対する運動療法、治療介入について説明できる。理学療法ガイドラインをもとに機能障害に対する治療を模擬的に実施することができる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
脳卒中片麻痺を中心に神経筋難病に対する運動療法、治療介入（理学療法プログラム）について学習する。理学療法ガイドラインをもとに機能障害に対する治療を模擬的に実践し、理学療法士として科学的根拠に基づきながらアプローチの実践ができることを目指す。					
授業計画					
第1回	脳血管障害の理学療法 ① 上肢（渡邊）				
第2回	脳血管障害の理学療法 ② 体幹（渡邊）				
第3回	脳血管障害の理学療法 ③ 下肢（渡邊）				
第4回	脳血管障害の理学療法 ④ 寝返り、起き上がり（渡邊）				
第5回	脳血管障害の理学療法 ⑤ 座位、座位バランス（渡邊）				
第6回	脳血管障害の理学療法 ⑥ 起立・移乗介助、誘導方法（渡邊）				
第7回	脳血管障害の理学療法 ⑦ 歩行介助、誘導方法（渡邊）				
第8回	脳血管障害の理学療法 ⑧ 補装具を使用した歩行（渡邊）				
第9回	脳血管障害の理学療法 ⑨ 応用動作（渡邊）				
第10回	脳血管障害の理学療法 ⑩ 高次脳機能障害や合併症への対応（渡邊）				
第11回	パーキンソン病の理学療法①（出澤）				
第12回	パーキンソン病の理学療法②（出澤）				
第13回	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法①（出澤）				
第14回	脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の理学療法②（出澤）				
第15回	筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症の理学療法（出澤）				
教科書及び参考書					
教科書①：理学療法プログラムデザイン ケース別のアプローチのポイントと実践、「文光堂」、2009年、教科書②：神経障害理学療法学Ⅱ、「メジカルビュー社」、2025年、第1版、その他、配布資料が中心になります。 参考書：理学療法プログラムデザインⅤ 神経系・内部障害編 ケース別のアプローチのポイントと実践、「文光堂」、2022年					
成績評価方法					
実技試験（100%）					
オフィスアワー					
渡邊・出澤：初回に提示します。					
履修にあたって必要な予備知識など					
分からないことがあれば積極的に質問すること。					
備考					
授業中に使用するスライドデータの撮影（動画も含む）は禁止する。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 内容を変更する場合があります。					
					都合により

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	1単位	3年後期	渡邊 大貴(責任者)/出澤 真乃介	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
脳卒中片麻痺者 急性期 回復期・生活期 神経変性疾患			急性期、回復期、生活期における脳卒中片麻痺者を中心に神経変性疾患を含めた理学療法評価及び理学療法アプローチの実際について説明、実践することができる。		
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
急性期、回復期、生活期における脳卒中片麻痺者の評価及び理学療法アプローチの実際について学修する。各期におけるそれぞれの特徴を捉えながらリスク管理を踏まえて、理学療法士として科学的根拠に基づきながら安全かつ効果的な方法を学修していく。					
授業計画					
第1回	急性期脳卒中片麻痺者に対する理学療法評価実習(機能面) (渡邊)				
第2回	急性期脳卒中片麻痺者に対する理学療法評価実習(動作面) (渡邊)				
第3回	急性期脳卒中片麻痺者に対する理学療法アプローチ実習(機能面) (渡邊)				
第4回	急性期脳卒中片麻痺者に対する理学療法アプローチ実習(動作面) (渡邊)				
第5回	急性期脳卒中片麻痺者に対する理学療法アプローチ実習(症例発表会) (渡邊)				
第6回	回復期～生活期脳卒中片麻痺者に対する理学療法評価実習(機能面) (渡邊)				
第7回	回復期～生活期脳卒中片麻痺者に対する理学療法評価実習(動作面) (渡邊)				
第8回	回復期～生活期脳卒中片麻痺者に対する理学療法アプローチ実習(機能面) (渡邊)				
第9回	回復期～生活期脳卒中片麻痺者に対する理学療法アプローチ実習(動作面) (渡邊)				
第10回	回復期～生活期脳卒中片麻痺者に対する理学療法アプローチ実習(症例発表会) (渡邊)				
第11回	神経変性疾患に対する理学療法評価実習(機能面) (出澤)				
第12回	神経変性疾患に対する理学療法評価実習(動作面) (出澤)				
第13回	神経変性疾患に対する理学療法アプローチ実習(機能面) (出澤)				
第14回	神経変性疾患に対する理学療法アプローチ実習(動作面) (出澤)				
第15回	神経変性疾患に対する理学療法アプローチ実習(症例発表会) (出澤)				
教科書及び参考書					
参考書①：神経障害系理学療法学Ⅰ、「メジカルビュー社」、2023年、第1版 参考書②：神経障害系理学療法学Ⅱ、「メジカルビュー社」、2025年、第1版 参考書③：セラピストのための脳卒中評価指標の解釈と活用、「メジカルビュー社」、2025年、第1版、その他、配布資料が中心になります。					
成績評価方法					
症例発表会でのプレゼンテーションと発表資料の提出 (100%)					
オフィスアワー					
渡邊・出澤：初回に提示します。					
履修にあたって必要な予備知識など					
分からないことはその場で確認、質問すること。					
備考					
授業中に使用するスライドデータの撮影(動画も含む)は禁止する。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 内容を変更する場合があります。					都合により

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	内部障害系理学療法学Ⅰ	1単位	3年前期	巻 直樹(責任者)/瀬高/山元	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
運動負荷試験			1. 内部障害について学習し、医学的知識を理学療法と関連づけて説明できる。		
心電図					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
呼吸・循環系を中心とする内部障害に対する理学療法を行うための基本的な知識と方法論を習得する。循環器系・呼吸器系の運動生理および運動療法を正確かつ安全に遂行するために必要な評価方法について学修する。					
授業計画					
第1回	内部障害系理学療法総論（対象疾患、運動生理、ガイドライン、エビデンス）（巻）				
第2回	循環器系の構造と機能（山元）				
第3回	循環器系の運動生理（山元）				
第4回	エネルギー代謝と運動耐容能（山元）				
第5回	運動負荷試験・心電図 ※演習1（瀬高 山元 巻）				
第6回	心電図の基礎・異常心電図 ※演習2（瀬高 山元 巻）				
第7回	運動負荷試験 解説 ※演習3（瀬高 山元 巻）				
第8回	心電図・負荷試験まとめ ※演習4（瀬高 山元 巻）				
第9回	呼吸器の構造と呼吸調節機能（運動生理）（巻）				
第10回	呼吸器系疾患の特性と病態（胸腹部周術期、肺炎、COPD、拘束性肺疾患）（巻）				
第11回	呼吸器系理学療法評価① 視診・触診・聴診・打診などのフィジカルアセスメント（巻）				
第12回	呼吸器系理学療法評価② 胸郭可動域練習、呼吸介助法、呼吸筋トレーニング（巻）				
第13回	呼吸器系理学療法評価③ 気道内分泌物吸引法、排痰法（巻）				
第14回	包括的呼吸リハビリテーション（巻）				
第15回	グループワーク（呼吸器系疾患に対する理学療法の症例検討）（巻）				
教科書及び参考書					
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸／循環・代謝 第3版：石川 朗，木村雅彦 中山書店 2017年					
成績評価方法					
評価配分は定期試験（筆記試験）の計100%					
オフィスアワー					
巻/瀬高/山元：初回に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
循環器系の解剖・生理・代謝を復習しておいてください。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	内部障害系理学療法学Ⅱ	1単位	3年後期	巻 直樹(責任者)/瀬高/山元	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
胸部理学所見	胸部画像所見	1. 内部障害患者について学習し、医学的データ・所見を内部障害と関連付けて説明できる。 2. 内部障害疾患の評価・リスク管理について、理学療法と関連付けて説明できる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
呼吸・循環系、代謝系を中心とする内部障害に対する理学療法を行うための基本的な知識と方法論を習得する。循環器系理学療法における評価や画像所見、検査データについて学修する。					
授業計画					
第1回	心臓の理学所見のとり方 (瀬高)				
第2回	心臓の理学所見のとり方(実習) (瀬高)				
第3回	循環器系理学療法における画像所見の見方 (山元)				
第4回	グループワーク(循環器系疾患に対する理学療法の症例検討) (山元)				
第5回	人工呼吸器管理下におけるリハビリテーション (巻)				
第6回	スパイロメーター、呼吸筋力測定、咳嗽能力測定 (巻)				
第7回	循環器系理学療法における血液データの解釈 (山元)				
第8回	糖尿病の病態、症状、検査所見、運動療法の意義 (山元)				
第9回	糖尿病患者に対する理学療法、症例検討 (山元)				
第10回	グループワーク(呼吸器系疾患に対する理学療法の症例検討) (巻)				
第11回	呼吸器系理学療法評価における画像所見の見方 (巻)				
第12回	呼吸器系理学療法評価における在宅酸素療法とADL・QOL評価 (巻)				
第13回	がんのリハビリテーション(疫学、病態、検査、治療、緩和ケア) (巻)				
第14回	がん患者に対する理学療法、症例検討 (巻)				
第15回	グループワーク(内部障害に対する理学療法の症例検討) (巻)				
教科書及び参考書					
15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害理学療法学 呼吸/循環・代謝 第3版: 石川 朗, 木村雅彦 中山書店 2017年					
成績評価方法					
評価配分は定期試験(筆記試験)の計100%					
オフィスアワー					
巻/瀬高/山元: 初回に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
実技実習において聴診器を使用することがあります。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	内部障害系理学療法学実習	1単位	3年前期	巻 直樹(責任者)/瀬高/山元/出澤	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
心臓リハビリテーション		1. 内部障害系に対する理学療法について、介入手技とその手順を医学的知識に基づいて説明できる。 2. 循環器系疾患に対する理学療法について、各疾患の病態に基づいたリスク管理を行いながら運動療法や生活指導ができる。			
呼吸リハビリテーション					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
循環器系理学療法において、疾患に対する病態や医学的治療・リスク管理を理解する。運動処方や生活指導などを臨床応用できるよう演習を行う。					
授業計画					
第1回	慢性心不全の病態・検査と治療・リスク管理 (山元)				
第2回	虚血性心疾患の病態・検査と治療・リスク管理 (山元)				
第3回	心臓弁膜症と大動脈疾患の病態・検査と治療・リスク管理 (山元)				
第4回	末梢動脈疾患の病態・検査と治療・リスク管理 (瀬高)				
第5回	心臓リハビリテーション(二次予防) (瀬高)				
第6回	心臓リハビリテーション(運動療法) (山元)				
第7回	呼吸理学療法評価とコンディショニング (巻)				
第8回	呼吸器系のフィジカルアセスメント(視診・触診・打診・聴診) (巻)				
第9回	用手的呼吸介助手技(上下部胸部介助手技、側臥位介助手技) (巻)				
第10回	呼吸筋トレーニング、四肢筋力トレーニング、全身持久力トレーニング (巻)				
第11回	気道内分泌物吸引法、排痰法 (出澤)				
第12回	呼吸機能検査と計測、解釈、運動処方、リスク管理 (出澤)				
第13回	模擬症例での演習(胸腹部周術期、肺炎、COPD、拘束性肺疾患) (出澤)				
第14回	到達度演習1(内部障害) (巻 出澤)				
第15回	到達度演習2(内部障害) (巻 出澤)				
教科書及び参考書					
・15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 内部障害系理学療法学 呼吸/循環・代謝 第3版:石川 朗, 木村雅彦 中山書店 2017年					
成績評価方法					
評価配分は定期試験(実技試験)の計100%					
オフィスアワー					
巻/瀬高/山元/出澤:初回に提示する。					
履修にあたって必要な予備知識など					
内部障害系理学療法学を復習しておいてください。					
備考					
実技実習において聴診器が必要となりますので、授業開始前に各自準備して下さい。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	発達障害系理学療法学	1単位	3年前期	中 徹	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
脳性まひ		1 疾患の成り立ちと障害像を説明できる			
筋ジストロフィ		2 疾患の理学療法評価を説明できる			
知的障害		3 疾患の理学療法治療を説明できる			
発達障がい		4 発達障がいの理学療法について説明できる			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP6:理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献できる。					
授業の概要					
小児期の疾患である、脳性麻痺、知的障害およびダウン症、重症心身障害、低出生体重、筋ジストロフィ、二分脊椎、その他の神経筋疾患、自閉スペクトラム症・限局性学習障がい・注意欠如多動症・発達性協調運動障がいなどの「発達障がい」について、それぞれの臨床像と障がいの特性と対応する理学療法の評価と治療体系の概略を学ぶ。					
授業計画					
第1回	脳性まひの定義から・脳性まひの判定的評価1＝麻痺のタイプと身体分布				
第2回	脳性まひの判定的評価2＝重症度とタイプ別の機能的予後				
第3回	脳性まひの機能的な評価1－運動機能の変化を捉えるために				
第4回	脳性まひの能力的な評価2－運動能力の変化を捉えるために				
第5回	脳性まひの治療体系と理学療法介入(機能面と動作面からの視点)				
第6回	脳性まひの治療体系と理学療法介入(環境面からの視点)				
第7回	脳性麻痺の到達度確認演習				
第8回	知的障害の理学療法				
第9回	ダウン症の理学療法				
第10回	ハイリスク新生児のなりたちと障害像				
第11回	ハイリスク新生児の理学療法				
第12回	重症心身障害児				
第13回	てんかんへの理学療法・二分脊椎のなりたちと障害像と理学療法				
第14回	二分脊椎の理学療法・進行性筋ジストロフィーの成り立ち				
第15回	進行性筋ジストロフィーの評価と治療・神経筋疾患および発達障がいの理学療法				
教科書及び参考書					
教科書；小児理学療法学テキスト 第3版,細田多穂,南江堂,2022					
資 料；担当者が授業開始前までにデータで配信します					
成績評価方法					
試験100% (2回実施の平均)					
オフィスアワー					
月曜日：12時30～13時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
2年次の人間発達学を振り返ると本講義の理解の助けになります					
* 予習として教科書該当部分を通読しておくこと (30分程度)					
* 復習として理解できたことと曖昧なところを簡潔にまとめること (45分程度)					
備考					
座学ですが、身体を動かす体験が時折ありますので、動きやすい服装で受講してください。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	発達障害系理学療法学実習	1単位	3年前期	中 徹	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
小児期の障害		1 運動発達の遅れに対する評価と治療が説明できる			
発達の障害		2 姿勢反射の非定型の評価と治療が説明できる			
小児の理学療法評価		3 運動器の非定型への評価と治療が説明できる			
小児の理学療法治療		4 粗大運動の非定型の評価と治療が説明できる			
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP6:理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献できる。					
授業の概要					
<p>発達障害系理学療法学で学んだ小児への理学療法が実施できるため、以下の系統別にICFに対応させる形で理学療法評価方法と治療方法を実習する。1.小児の運動発達の偏り 2. 小児の姿勢反射の偏り 3. 小児の運動器の偏り 4. 小児の筋緊張の偏り 5. 小児の呼吸循環器の偏り 6. 小児の感覚処理系の偏り 7.小児の摂食活動の偏り 8. 小児の粗大運動活動の偏り 9. 小児のADL活動の偏り</p>					
授業計画					
第1回	ICFの因子に対応した理学療法評価と治療の考えかた				
第2回	構造障害の評価と治療1 (四肢短縮・四肢欠損・筋萎縮・仮性肥大・肥満)				
第3回	構造障害の評価と治療2 (変形および強直・側弯・脱臼・骨折・瘦身)				
第4回	機能障害の評価と治療1 (筋力低下・拘縮・可動域過剰):運動器				
第5回	機能障害の評価と治療2 (股関節評価):神経系				
第6回	機能障害の評価と治療3 (筋緊張):神経系				
第7回	機能障害の評価と治療4 (感覚):神経系				
第8回	機能障害の評価と治療5(循環機能低下・呼吸機能低下):呼吸循環系				
第9回	機能障害の評価と治療6 (姿勢反射の発達):神経系				
第10回	機能障害の評価と治療7 (姿勢反射の利用・摂食嚥下機能):神経系・消化器系				
第11回	活動と参加の評価と治療1 (臥位・寝返り):臥位周辺での活動				
第12回	活動と参加の評価と治療2 (座位・起き上がりGMFM/PEDI):座位周辺での活動				
第13回	活動と参加の評価と治療3 (立位・立ち上がりGMFM/PEDI):立位周辺での活動				
第14回	活動と参加の評価と治療4 (歩行・四つ這い移動GMFM/PEDI):移動での活動				
第15回	活動と参加の障害の評価と治療まとめ				
教科書及び参考書					
教科書；小児理学療法学テキスト 第3版,細田多穂,南江堂,2022					
資 料； 担当者が授業開始前までにデータで配信します					
成績評価方法					
レポート50%・試験50%					
オフィスアワー					
月曜日：12時30～13時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
2年次の発達障害系理学療法学を振り返えると本講義の理解の助けになります					
* 予習として講義資料該当部分を通読しておくこと (30分程度)					
* 復習として理解できたことと曖昧なところを簡潔にまとめること (45分程度)					
備考					
身体接触を伴う実技を行いますので、体育時に準じた服装で、かつ安全のために装身具は身に着けず受講してください。					
都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	老年期障害系理学療法学	1単位	3年後期	原 佳祐	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
グループワーク			高齢者に特化した症例について、理学療法を実施するための思考プロセスを主体的に学修することができる。また、多職種との連携についても主体的に学修することができる。		
高齢者					
国家試験対策					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP6: 理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献できる。					
授業の概要					
高齢者に特化した症例基盤学習より、与えられた症例の問題を解決するために「今の自分に何が必要なのか」を見つけ、自己学習課題として、グループワークの中から、自ら学修を進めていく。また、多職種との連携についても主体的に学修することができる。最後に高齢者に関係した国家試験問題について理解を深める。					
授業計画					
第1回	症例①-1グループワーク				
第2回	症例①-3グループワーク				
第3回	症例①グループ発表				
第4回	多職連携会議				
第5回	多職連携会議				
第6回	多職連携会議				
第7回	症例②グループ発表				
第8回	症例③-3グループワーク				
第9回	症例③グループ発表				
第10回	症例④-2グループワーク				
第11回	症例④グループ発表				
第12回	グループ編成、症例⑤-1グループワーク				
第13回	症例⑤-3グループワーク				
第14回	症例⑤グループ発表				
第15回	高齢者分野国家試験対策				
教科書及び参考書					
資料を提示する。					
成績評価方法					
発表評価100%					
オフィスアワー					
質問等については、k-hara@a-ru.ac.jpまでお願いします。					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし。					
備考					
学習効果を得るために主体的に学修してください。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	老年期障害系理学療法学	1単位	3年後期	原 佳祐	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
グループワーク		高齢者に特化した症例について、理学療法を実施するための思考プロセスを主体的に学修することができる。また、多職種との連携についても主体的に学修することができる。			
高齢者					
国家試験対策					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP6: 理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献できる。					
授業の概要					
高齢者に特化した症例基盤学習より、与えられた症例の問題を解決するために「今の自分に何が必要なのか」を見つけ、自己学習課題として、グループワークの中から、自ら学修を進めていく。また、多職種との連携についても主体的に学修することができる。最後に高齢者に関係した国家試験問題について理解を深める。					
授業計画					
第1回	症例①-1グループワーク				
第2回	症例①-3グループワーク				
第3回	症例①グループ発表				
第4回	多職連携会議				
第5回	多職連携会議				
第6回	多職連携会議				
第7回	症例②グループ発表				
第8回	症例③-3グループワーク				
第9回	症例③グループ発表				
第10回	症例④-2グループワーク				
第11回	症例④グループ発表				
第12回	グループ編成、症例⑤-1グループワーク				
第13回	症例⑤-3グループワーク				
第14回	症例⑤グループ発表				
第15回	高齢者分野国家試験対策				
教科書及び参考書					
資料を提示する。					
成績評価方法					
発表評価100%					
オフィスアワー					
質問等については、k-hara@a-ru.ac.jpまでお願いします。					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし。					
備考					
学習効果を得るために主体的に学修してください。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	義肢装具学	1単位	3年前期	三浦 篤行	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
義肢		義肢、および装具の適応と目的、チェックアウト、現状の課題に対する理学療法士の役割等について説明することができる。			
装具					
社会制度					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP6:理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献することができる。					
授業の概要					
<p>義肢学については、適応、各部品の特徴、アライメント設定が基本動作や歩行に及ぼす影響、チェックアウト（適合評価）ポイント、切断者に対する理学療法のリスク管理等について学ぶ。装具学については、各種装具の適応と特徴、障害像に対する適切な装具の選択、チェックアウト（適合評価）ポイント、装具装着が身体へ及ぼすリスク等について学ぶ。また、義肢、装具のフォローアップに関わる現状の課題、および理学療法士の役割について学び、適切なマネジメントが行える人材の育成を目指す。</p>					
授業計画					
第1回	切断者の理学療法、義足総論。切断と評価。断端管理。				
第2回	下腿義足（構成要素、ソケットの種類）				
第3回	大腿義足（構成要素、ソケットの種類、継手）				
第4回	股義足・膝義足・サイム義足・足部義足				
第5回	義足のアライメントと適合				
第6回	義足歩行、理学療法、異常歩行（下腿義足）				
第7回	異常歩行（大腿義足）、義肢学まとめ				
第8回	装具学総論・上肢装具・体幹装具・頸椎装具				
第9回	下肢装具（構成要素と適合）				
第10回	下肢装具（種類と機構）				
第11回	下肢装具（疾患別適応）				
第12回	機能障害と装具療法（体験学習）				
第13回	膝装具・足部装具・靴型装具				
第14回	小児用装具・歩行補助具・車いす				
第15回	装具学まとめ。補装具に関する社会制度				
教科書及び参考書					
<p>教科書：PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 高田治実 監修 第1版（羊土社） 参考書：義肢装具のチェックポイント 日本整形外科学会ほか 監修 第9版（医学書院）</p>					
成績評価方法					
定期試験70% 小テスト20% レポート10%（体験学習）					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
歩行周期における各相の用語と定義をRancho Los Amigos方式に基づき使用する					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	運動障害・健康障害の自立活動論・指導法	1単位	3年前期	岡村 正洋	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード			学修教育目標(学修成果)		
自立活動			肢体不自由・病弱特別支援学校の自立指導の概要や実践が分かり、理学療法士・作業療法士としてどんな支援・連携ができるかを主体的に考えることができる。		
個別の支援計画					
合理的配慮					
評価					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP8：特別支援学校に在籍している運動・健康障害のある障害のある子供たちの自立活動の指導・支援内容について理解を深め、理学療法士・作業療法士として教員等に対して適切な助言できる実践能力を高めることができる。					
授業の概要					
運動障害・健康障害（肢体不自由・病弱）のある子どもたちの日常生活や学習場面に様々なつまずきや困難が生じている。それらの子どもたちの発達段階を考慮して支援するばかりでなく、個々の障害による学習上又は生活上の困難を克服するための指導・支援が求められる。本授業では、肢体不自由及び病弱特別支援学校の自立活動の実践を考察しながら、理学療法士・作業療法士としてどのような指導・支援ができるかを考えたり、教育と医療の連携等について理解を深めたりする。					
授業計画					
第1回	肢体不自由の基礎知識と実態把握				
第2回	肢体不自由のある子供に応じた教育課程編成				
第3回	各教科の指導、進路指導と進路の状況 (肢体不自由)				
第4回	自立活動の指導① 健康の保持、心理的安定 (肢体不自由)				
第5回	自立活動の指導② 人間関係の形成、環境の把握 (肢体不自由)				
第6回	自立活動の指導③ 身体の動き、コミュニケーション (肢体不自由)				
第7回	自立活動の指導時間と指導形態等、情報機器の活用 (肢体不自由)				
第8回	病弱・身体虚弱の基礎知識と実態把握				
第9回	病弱・身体虚弱のある子供に応じた教育課程				
第10回	各教科の指導、進路指導と進路の状況 (病弱・身体虚弱)				
第11回	自立活動の指導① 健康の保持、心理的安定 (病弱・身体虚弱)				
第12回	自立活動の指導② 人間関係の形成、環境の把握 (病弱・身体虚弱)				
第13回	自立活動の指導③ 身体の動き、コミュニケーション (病弱・身体虚弱)				
第14回	重複障害の指導、医療的ケア児の実態と支援				
第15回	まとめ、振り返り				
教科書及び参考書					
教科書:特別支援教育の基礎・基本 ジアース社 後期の学校運営論でも使用する。					
成績評価方法					
定期試験100%					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。okamura@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
教科書で予習・復習する時間を確保する。					
備考					
グループワークを時々行うので、動きやすい服装で授業に望んで欲しい。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	スポーツ障害系理学療法学	1単位	3年後期	基幹教員	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
臨床推論	各スポーツ障害の病態に基づき、関節可動域・筋力・動作等の理学療法評価を実施でき、競技特性を考慮した段階的な治療プログラムを立案・実践できる能力を養う。				
動作分析					
運動療法					
アスレチックリハビリテーション					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。 DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
本講義では、2年次に学んだスポーツ障害学の知識を基盤とし、理学療法士として必要な臨床実践能力を構築する。各部位の代表的疾患（インピンジメント、腰椎分離症、ACL損傷、シンスプリント等）に対し、解剖学的・バイオメカニクスの視点からの評価、運動療法について学ぶ。単なる患部の治療に留まらず、全身の運動連鎖や競技復帰基準、予防的アプローチまで、臨床現場に即した理学療法を深く追求する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、肩関節の疾患に対する理学療法①				
第2回	肩関節の疾患に対する理学療法②				
第3回	体幹の疾患に対する理学療法①				
第4回	体幹の疾患に対する理学療法②				
第5回	股関節の疾患に対する理学療法①				
第6回	股関節の疾患に対する理学療法②				
第7回	中間試験				
第8回	膝関節の疾患に対する理学療法①				
第9回	膝関節の疾患に対する理学療法②				
第10回	下腿の疾患に対する理学療法①□				
第11回	下腿の疾患に対する理学療法②□				
第12回	足関節の疾患に対する理学療法①				
第13回	足関節の疾患に対する理学療法②				
第14回	テーピング				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
特になし					
成績評価方法					
中間試験50%、定期試験50%					
オフィスアワー					
火曜日 11時～12時					
履修にあたって必要な予備知識など					
解剖学、運動学					
備考					
実践的な評価や運動療法を多数行います。動きやすい格好で参加してください。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	生活環境学	1単位	3年後期	山元(責任者)/OT学科教員	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
生活環境		生活拠点となる住環境や、それらを取り巻く社会環境を理解し、「人」と「環境」のつながりを説明できる。身体機能だけでなく、環境調整を含めて対象者の社会生活を考えることができる。			
住環境整備					
福祉用具					
社会参加と社会資源					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
授業の概要					
リハビリテーション対象者の身体機能だけでなく、その周辺環境を含めてどのような生活を送っていくのかを考えながら理学療法を実施することが必要である。環境について、物的・人的・社会的環境といった様々な視点でとらえながら住環境整備、福祉用具、社会資源、社会参加を設定できる生活支援の在り方を学ぶ。					
授業計画					
第1回	総論：生活環境学 ～起き上がって、車椅子に乗れた…そのあとに～ (山元)				
第2回	福祉用具・リハビリテーション関連機器とその使用方法①車椅子、歩行補助具 (山元)				
第3回	福祉用具・リハビリテーション関連機器とその使用方法②福祉用具、自助具、介護用品など (岩本)				
第4回	住環境・生活環境の現状と整備 (岩本)				
第5回	環境評価：寝室周囲、移乗、周辺動作 (岩本)				
第6回	環境評価：排泄、入浴 (岩本)				
第7回	環境評価：移動、屋外環境 (岩本)				
第8回	環境評価：IADL (岩本)				
第9回	環境評価：地域環境、社会資源 (岩本)				
第10回	法的あるいは制度としての環境と住宅および建築に関する知識 (岩本)				
第11回	疾患・障害別にみる環境整備 (岩本)				
第12回	事例検討：脳血管障害 (岩本)				
第13回	事例検討：運動器障害、脊髄損傷 (岩本)				
第14回	事例検討：認知症、その他 (岩本)				
第15回	振り返り、まとめ (岩本)				
教科書及び参考書					
随時提示する					
成績評価方法					
定期試験(実技試験) 100%					
オフィスアワー					
初回授業で提示(山元)					
履修にあたって必要な予備知識など					
日常生活活動学の復習を中心に、関連分野と思われるもので既に学んだことについても復習しておくこと。					
備考					
講義内容に実技練習を含む。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	集団支援論	1単位	3年前期	野村聖子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
ポピュレーションアプローチ		理学療法士の集団支援の実践活動や社会情勢を知り、求められる必要性を理解し説明できる。また、集団支援に必要な知識や指導技術を模擬実習を通して理解し、基本を実践できる			
評価					
実践					
からだ・こころ・つながり					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
<ul style="list-style-type: none"> ●DP6:理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献することができる ●DP7:事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え、マネジメントすることができる。 					
授業の概要					
<p>理学療法士は個別支援をすることが多いが、地域での集団支援も大切な役割である。個別と集団のメリット・デメリットを理解し、集団を対象にセルフケア能力を向上させるために必要となる基礎知識・評価・指導技術・態度を習得する。</p>					
授業計画					
第1回	総論・オリエンテーション：集団支援とは 「集団」のメリット				
第2回	理学療法士が業務で実践する集団活動を知る				
第3回	集団の評価・アセスメント（学習）				
第4回	集団の評価・アセスメント（実践）				
第5回	集団支援計画の立案（学習）				
第6回	集団支援計画の立案（実践）				
第7回	集団支援の実践Ⅰ				
第8回	集団支援の実践Ⅰ				
第9回	PDCAサイクルの重要性・プレゼンテーションスキル				
第10回	集団支援の留意点・つながりを持つための支援方法				
第11回	支援計画の修正				
第12回	実践練習				
第13回	集団支援の実践Ⅱ				
第14回	集団支援の実践Ⅱ				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
特記なし					
成績評価方法					
プレゼンテーション50% レポート50%					
オフィスアワー					
事前に連絡して下さいnomura@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
講義に集中して参加し、学生同士協力して真剣に取り組むこと 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	サクセスフル・エイジング論	1単位	3年前期	田中喜代次(責任者)/小崎	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
健幸華齢		「健幸華齢」のためのスマートエクササイズ、スマートダイエット、スマート脳トレ、スマート服薬の内容について理解を深める。			
スマートライフ					
スマートエクササイズ					
スマートダイエット					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。 DP3: 作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
<p>少子高齢化時代に限らず、いつの時代においても、子どもから高齢者まで、Quality of Life (QoL) を良好に保持する (=サクセスフル・エイジング: 健幸華齢) ための包括的なサポート (支援) が望まれている。そこで本講義では、多くの日本国民が身体的・精神的・社会的なフレイル化への移行を阻止し、心身の両面で良好な状態をできるだけ長く維持できることを願い、スマートライフ・スマートエクササイズ・スマートダイエットなどのあり方について概説する。</p>					
授業計画					
第1回	少子高齢化社会 (人口構造の変化)、百寿者の増加など (田中)				
第2回	QoL (生活の質、人生の質) を良好に保持するスマートライフ (田中)				
第3回	食生活・栄養、運動・フィットネス、睡眠・休養の重要性 (田中)				
第4回	服薬の功罪: 高血糖、高血圧、高脂血、不眠に対する服薬と運動 (田中)				
第5回	転倒防止策について (田中)				
第6回	健幸華齢のためのスマートダイエット① (田中)				
第7回	健幸華齢のためのスマートダイエット② (田中)				
第8回	スマートエクササイズ (総論) (小崎)				
第9回	元気長寿のためのスロートレーニングなど (小崎)				
第10回	介護予防対策としてのシルバーリハビリ体操など (小崎)				
第11回	健幸華齢のためのスマート脳トレ① (小崎)				
第12回	健幸華齢のためのスマート脳トレ② (小崎)				
第13回	健幸華齢のためのスマート服薬 (小崎)				
第14回	その他スマートライフのための知識等 (小崎)				
第15回	統合型地域スポーツクラブについて (小崎)				
教科書及び参考書					
健幸華齢のためのスマートライフ(サンライフ企画) ¥2,800+税					
成績評価方法					
学期末試験100%					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	地域理学療法学	1単位	3年前期	谷口 圭佑	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
地域	多職種連携	個別支援	地域理学療法全体ならびに各期(小児期、成人期、老年期)における地域理学療法の実際について説明ができる。		
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
授業の概要					
現在では地域包括ケアシステムなど様々な制度を基盤にして多くの理学療法士が地域で活躍している。本講義では、地域理学療法全体像を捉え、各期(小児期、成人期、老年期)での個別の地域理学療法の実際について学修する。その情報から科学的根拠に基づいて地域で活躍できる理学療法士を養成し、さらに学生が地域に貢献したいという思いを持てるような講義にしていく。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、地域の捉え方(理学療法士の役割)				
第2回	疾患と障害の理解(小児期、成人期、老年期)				
第3回	生活の理解(小児期、成人期、老年期)				
第4回	隣接領域の理解				
第5回	多職種連携の理解				
第6回	制度の理解				
第7回	地域理学療法の実際①(小児;訪問・通所・入所・病院)				
第8回	地域理学療法の実際②(成人;訪問・通所・入所・病院)				
第9回	地域理学療法の実際③(高齢者;訪問・通所・入所・病院)				
第10回	地域理学療法の実際④(住宅支援)				
第11回	個別支援の技術①日常生活活動の拡大				
第12回	個別支援の技術②生活の質の向上				
第13回	個別支援の技術③行動変容				
第14回	個別支援の技術④社会参加の促進				
第15回	振り返り、まとめ				
教科書及び参考書					
理学療法テキスト 地域理学療法学(メディカルビュー)					
成績評価方法					
授業出席状況(10%)・レポート課題(20%)・定期試験(70%)					
オフィスアワー					
水曜日12時30分～13時30分、水曜日～木曜日17時00分～17時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
保健医療福祉、公衆衛生学の科目を復習しておくこと。					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	バリアフリー論	1単位	3年後期	幅崎・徳田	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
バリア		世の中にある施設・設備の適切性を評価し、不適切な点や不十分な点があれば、改善策を提示することができる			
点字ブロック					
手引き					
心のバリアフリー					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:作業療法学分野における専門的知識と技能を有し、臨床的課題を発見・解決でき、科学的根拠に基づいた最適な実践能力を有している。					
授業の概要					
バリアフリーとユニバーサルデザインの基本的な考え方を説明したうえで、世の中にある物理的なバリアの解消を目的とした施設・設備（点字ブロック、スロープ、各種の福祉機器など）、情報のバリアや心理的バリアの解消を目的にした機器や取組みなど、様々なバリアフリーの手法について講義する。					
第1回	10/7 バリアとは何か：バリアフリー概論、4つのバリア 【幅崎】				
第2回	10/7 あなたの生活上のバリアとは？ バリアフリーの視点 グループワーク 【幅崎】				
第3回	10/14 グループ発表 【幅崎】				
第4回	10/14 車いす使用者、高齢者、聴覚障害者、知的障害者、発達障害者、妊婦、幼児、外国人、移住者、心のバリアのバリアを考える グループワーク 【幅崎】				
第5回	10/21 第4回と同じ 調査とパワーポイントの作成 グループワーク 【幅崎】				
第6回	10/21 第4回と同じ パワーポイントの内容を報告 グループ発表 【幅崎】				
第7回	10/28 車いす使用者が語るバリアと求める支援 車いす使用者の藤田晃子氏 【徳田】				
第8回	10/28 妊婦と乳幼児のバリアについて話を聞こう 【徳田】				
第9回	11/4 知的障害を持つ方のバリアを考える 【幅崎】				
第10回	11/4 知的障害を持つ方や支援をしている方々の話を聞こう ゲスト講師 【幅崎】				
第11回	11/11 自分の家族や知人にバリアについて尋ねよう 【幅崎】				
第12回	11/11 自分が調べたバリアについて、グループで共有しよう グループワーク 【幅崎】				
第13回	11/25 視覚障害者のバリアを考える 点字ブロック 【徳田】				
第14回	11/25 視覚障害者の話を聞こう 明石市視覚障害者福祉協会の油谷英俊氏 【徳田】				
第15回	12/2 グループワークの発表とまとめ 【幅崎】				
教科書及び参考書					
教科書は使用しない。参考書として徳田克己監修『みんなのバリアフリー 3部作』（あかね書房）2018年 を使用し、その内容をパワーポイントで示す。					
成績評価方法					
グループ発表の成績（50%）と授業終了後に出すレポート（50%）。					
オフィスアワー					
e-mailでの事前連絡をお願いします。habazaki@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
自分のまわりにある施設や設備の使いやすさなどに注意を払った生活をしてほしい。					
備考					
グループワークやディベートを行う授業なので、積極的に参加してほしい。学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。授業の進捗や受講者の関心等に応じて、内容や講義の順番を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択		
職業専門科目	地域理学療法学実習	1単位	3年前期	谷口 圭佑	必修		
授業科目の学修教育目標							
キーワード			学修教育目標(学修成果)				
予防教室	機能評価	指導	症例検討	小児および成人・高齢者の通所・訪問支援の模擬事例および予防教室の模擬運営を通じて、理学療法士として地域社会に貢献したいという思いを持つことができる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連							
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。							
授業の概要							
模擬症例や模擬的予防教室の運営を練習し、一部補助を行う。運動機能、精神機能の評価、柔軟体操指導、筋力トレーニング指導、転倒予防に関する指導を見学、一部補助を実習していく。							
授業計画							
第1回	小児期 通所 模擬症例実習① (評価項目の設定)						
第2回	小児期 通所 模擬症例実習② (介入プランの設定)						
第3回	小児期 入所 模擬症例実習① (評価項目の設定)						
第4回	小児期 入所 模擬症例実習② (介入プランの設定)						
第5回	小児期 模擬症例の発表・総括						
第6回	高齢者 通所 模擬症例実習① (評価項目の設定)						
第7回	高齢者 通所 模擬症例実習② (介入プランの設定)						
第8回	高齢者 訪問 模擬症例実習① (評価項目の設定)						
第9回	高齢者 訪問 模擬症例実習② (介入プランの設定)						
第10回	高齢者 模擬症例の発表・総括						
第11回	介護予防教室における心身機能評価実習						
第12回	介護予防教室における利用者への集団運動指導実習						
第13回	介護予防教室における利用者への行動変容・セルフケア促進への取り組み実習						
第14回	介護予防教室の運営実習計画立案発表						
第15回	介護予防教室の運営実習計画立案総括						
教科書及び参考書							
理学療法テキスト 地域理学療法学(メディカルビュー)							
成績評価方法							
授業出席状況(20%)・レポート課題(80%)							
オフィスアワー							
谷口 水曜日～金曜日17時00分～17時30分							
履修にあたって必要な予備知識など							
模擬症例に関する情報を熟読すること。							
備考							
学習効果を高めるために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。							

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	臨床実習Ⅱ	4単位	3年後期	巻直樹(責任者)/山元/中/新田/縄井/渡邊/高田/谷口/犬田/原/山元/出澤	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
理学療法評価		対象者ならびに家族のニーズを引き出し、対象者の課題や解決方法について科学的根拠に基づき解釈することができる。			
統合と解釈					
理学療法アプローチ立案					
主体的な学修態度					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP4:理学療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
DP5:理学療法士として自らを律し、使命感と責任感を身に付け、課題解決のための研究能力を有しながら、自ら学び続けられる態度を有している。					
授業の概要					
<p>実習施設にて理学療法評価学Ⅰ・Ⅱで学修した理学療法評価を対象者に対して、指導者の監視の下、指導を受けながら見学→模倣→実践をする。また、対象者ならびに家族のニーズを引き出し、対象者の課題について評価結果から得られた情報を統合し、科学的根拠に基づいた視点から対象者の全体像を解釈していく。さらに、結果から問題点を抽出し、問題を解決する為にはどのような解決方法があるのかについても科学的根拠に基づき検証する。これらの工程から、対象者の目標を設定し、治療計画を立案する。これら一連の実習過程を通して、リハビリテーション関連職種の業務内容を踏まえた上で、チームアプローチの構築の仕方並びに、その重要性についても理解する。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>					
授業計画					
【実習前】	オリエンテーション、実習セミナー、筆記試験、OSCE（巻・他）				
1週目	施設実習（巻・他）				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
2週目	施設実習（巻・他）				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
3週目	施設実習（巻・他）				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
4週目	施設実習（巻・他）				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
【実習後】	実習振り返りならびに報告会、OSCE（巻・他）				
教科書及び参考書					
特に定めず					
成績評価方法					
実習指導者評価、実習課題(50%)、実習課題の提出(25%)、実習報告会(25%)					
オフィスアワー					
巻・他	初回に提示する。				
履修にあたって必要な予備知識など					
理学療法評価学の学問を復習しておくこと。					
備考					
学外での実習となります。社会的モラルには十分意識するように。【実習前】筆記試験並びにOSCEは、実習参加の可否を決定する診断評価として実施し、【実習後】OSCEは、実習参加後の習熟度評価として実施する。【実習前】の試験が不合格の場合は、補習期間を設け、再試験とする。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	高齢者健康づくり政策論	2単位	3年後期	渡邊大貴(責任者)・中村・渡邊基子・青木・石渡	選択
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
高齢者	心身の健康教育 政策 行政	高齢者の心身の健康課題を理解することができ、政策としての取組過程について説明することができる。			
心身の健康教育					
政策					
行政					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP6: 理学療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。					
授業の概要					
高齢者の健康問題や課題を理解し、行政による高齢者の健康教育および健康づくりにおいて人材育成活動経験をもつ教員が、政策としてどのように行うかを解説する。政策として取り組むため必要な課題、その解決方法について概説していく。政策として起動させていくための仕組みや体制強化についても様々な事例を用いながら解説する。					
授業計画					
第1回	「行政」とは何か	(中村)			
第2回	高齢者の現状と保健政策	(中村)			
第3回	高齢者の身体健康問題とは	(渡邊大貴)			
第4回	土浦市の高齢者健康づくり政策-1	(青木)			
第5回	土浦市の高齢者健康づくり政策-2	(青木)			
第6回	高齢者の身体健康教育とは	(渡邊大貴)			
第7回	高齢者の精神健康問題とは	(渡邊基子)			
第8回	高齢者の精神健康教育とは	(渡邊基子)			
第9回	地域包括ケアシステムとは	(中村)			
第10回	高齢者の転倒予防	(渡邊大貴)			
第11回	事例に基づいた健康教育事業計画立案(グループワーク)	(中村・渡邊基子・渡邊大貴)			
第12回	事例に基づいた健康教育事業計画発表(グループワーク)	(中村・渡邊基子・渡邊大貴)			
第13回	介護予防教室の実践例	(石渡)			
第14回	介護予防教室の効果測定	(中村)			
第15回	まとめ	(中村・渡邊基子・渡邊大貴)			
教科書及び参考書					
適宜提示する。					
成績評価方法					
グループワーク、事業計画立案、プレゼン等で総合的に評価する					
オフィスアワー					
中村 水曜日・木曜日・金曜日 17時00分～17時50分					
渡邊基子 木曜日・金曜日 13時00分～17時00分					
渡邊大貴 火曜日13時30分～15時00分・金曜日 10時30分～12時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	学校運営論	2単位	3年後期	十河克次(責任者)/廣沢/高野	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
障害児	特別支援教育	障害のある児童・生徒を教育する特別支援学校及び小・中学校の運営組織や学校経営目標に基づく教育実践等について概観する。			
学校経営	教育実践				
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:地域に暮らす多様な価値観を持った人々への生活・文化を尊重することができる。					
DP2:豊かな人間性と倫理観を備えることができる。					
DP6:地域や世代における様々な生活上の健康課題を把握し、解決するために真摯に取り組むことができる。					
授業の概要					
(オムニバス方式/全15回)					
(55. 廣沢 純子/5回) 共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築及び特別支援教育の状況について概観し、特別支援学校の学校経営方針に基づく実践を知ることができる。					
(56. 十河 克次/5回) 障害種に応じた特別支援学校の現状や教育内容等について理解し、医療、福祉及び労働といった外部機関との連携のあり方等、特別支援学校における学校運営について知ることができる。					
(57. 高野 都/5回) 小・中学校の特別支援学級や通常の学級における障害のある児童生徒について概観し、小・中学校における特別支援教育の実践や運営等を知ることができる。					
授業計画					
第1回	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築【第1部-1章】(廣沢)				
第2回	インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進①【第1部-2章】(廣沢)				
第3回	インクルーシブ教育システムの構築のための特別支援教育の推進②【第1部-2章】(廣沢)				
第4回	特別支援学校の教育【第1部-3章】(廣沢)				
第5回	小学校・中学校等における特別支援教育(廣沢)				
第6回	視覚障害について【第2部-1章】(十河)				
第7回	聴覚障害について【第2部-2章】(十河)				
第8回	知的障害について【第2部-3章】(十河)				
第9回	肢体不自由について【第2部-4章】(十河)				
第10回	病弱・身体虚弱について【第2部-5章】(十河)				
第11回	言語障害教育について【第2部-7章】(高野)				
第12回	情緒障害について【第2部-8章】(高野)				
第13回	自閉症について【第2部-9章-1】(高野)				
第14回	学習障害について【第2部-9章-2】(高野)				
第15回	注意欠陥多動性障害について【第2部-9章-3】(高野)				
教科書及び参考書					
特別支援教育の基礎・基本(ジアース)					
成績評価方法					
試験・レポート					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	ヘルスケアマーケティング論	2単位	3年後期	近藤 千雅	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
マーケティング		ヘルスケア・マーケティングの理解を深め、保険外のサービスや医療専門職以外の多様なキャリアの可能性や、その作り方を想像できるようになること。			
キャリアパス					
ブランディング					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP7: 事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え、マネジメントすることができる。					
授業の概要					
本授業では、ヘルスケア分野におけるマーケティングの基本原則と応用を学びます。保険外サービスの展開や非医療専門職としてのキャリアを視野に入れ、マーケティング戦略の立案から実行までのプロセスを理解します。実践的な学びを通じて、ヘルスケア市場における多様なキャリアパスとマーケティングの重要性を理解することを目指します。					
授業計画					
第1回	ガイダンス、マーケティングの重要性				
第2回	マーケティング理論の基礎理論、事業計画書について				
第3回	ヘルスケアマーケティング				
第4回	ヘルスケア市場の調査				
第5回	SNSマーケティング、デジタルマーケティングの基礎				
第6回	ブランディングとパーソナルブランディング				
第7回	顧客関係管理 (CRM) 、イノベーションと起業				
第8回	保険外サービスの事例研究				
第9回	医療専門職としての生涯年収の計算				
第10回	他のキャリアを考える、キャリアアンカー				
第11回	事業計画書について				
第12回	事業計画書の作成				
第13回	事業計画書の作成				
第14回	事業計画書の最終発表会				
第15回	事業計画書の最終発表、フィードバック				
教科書及び参考書					
なし					
成績評価方法					
出席および、課題の提出および発表					
オフィスアワー					
授業の前後の時間、メールでも可(kondou@u. a-ru. ac. jp/chika-kondo@marianna-u. ac. jp)					
履修にあたって必要な予備知識など					
とくにありません					
備考					
グループワークが多くなります。場合によっては授業時間外に課題に取り組んでいただくかもしれません。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	就労支援サービス論	2単位	3年後期	牧 利恵	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
就労支援		障害者の雇用環境と支援のプロセスを理解し、専門職として課題を見出すことができる。			
障害者雇用					
福祉的就労					
自己決定					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP6:理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献できる。					
授業の概要					
障害者を取り巻く就労状況を知り、各種の就労支援制度と、就労支援に係る組織、団体及び専門職について、講義を通じて理解する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション				
第2回	障害者の働き方の種類				
第3回	障害者の雇用に関する法律について				
第4回	障害者就労の現状				
第5回	障害者就労の社会資源①				
第6回	障害者就労の社会資源②				
第7回	福祉的就労の実際				
第8回	一般就労の実際				
第9回	障害特性と職業的課題①				
第10回	障害特性と職業的課題②				
第11回	合理的配慮について①				
第12回	合理的配慮について②				
第13回	一般就労の実際				
第14回	福祉的就労の実際				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
適宜資料配布					
成績評価方法					
レポート提出（授業毎の「まとめシート」）100%					
オフィスアワー					
メールにて対応（ri_amo24@yahoo.co.jp）					
履修にあたって必要な予備知識など					
特記なし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
総合科目	理学療法研究法演習Ⅰ	2単位	3年後期	中 徹(責任者)/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
地域、臨床現場の課題		主体的に研究計画書が作成でき、研究活動を通じて使命感、責任感を意識し、継続して学び続けられることができ、地域や臨床現場の課題解決としての新しいサービスへの活用方法について検討することができる。			
研究計画書					
研究データ分析					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP5:理学療法士として自らを律し、使命感と責任感を身に付け、課題解決のための研究能力を有しながら、自ら学び続けられる。					
授業の概要					
<p>本科目では、実践的ならびに応用的な能力を総合的に学修していく。そのためには、基礎科目、職業専門科目ならびに展開科目で学修した内容から興味・関心のある領域についての課題を発見していく。今回計画した研究テーマが、地域や臨床現場の課題解決として有効性についても検討し、新しいサービスへの活用方法も合わせて学修していく。課題発見解決能力を高めるために、地域や臨床現場が抱えている課題を創造し、その課題解決のための手法を実験や調査を実施する。</p>					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、理学療法学と研究 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第2回	地域や臨床現場における課題発見のための情報収集 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第3回	研究テーマの決定 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第4回	基礎科目、職業専門科目、展開科目における研究テーマに基づいた学問のまとめ 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第5回	文献収集とまとめ 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第6回	研究テーマに基づいた研究計画書の作成 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第7回	地域や臨床現場における課題解決手段としての有効性の検討 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第8回	新しいサービスへの活用方法の検討 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第9回	研究計画書に基づいた研究データの収集 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第10回	研究計画書に基づいた研究データの収集 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第11回	研究計画書に基づいた研究データの収集 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第12回	研究計画書に基づいた研究データの収集 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真之助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第13回	研究データのまとめ 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第14回	研究データのまとめ 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第15回	研究データのまとめ 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
教科書及び参考書					
適宜資料を提供する					
成績評価方法					
研究計画書(50%)、研究データ収集方法(50%)					
オフィスアワー					
各担当教員に確認					
履修にあたって必要な予備知識など					
基礎科目、職業専門科目、展開科目について復習しておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	子ども支援学	1単位	4年前期	徳田克己/西村実穂/大和田菜子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
子育て支援		子どもに関する発達心理学の基礎、および児童福祉の基礎と実態を学習し、子どもにとって適切な環境とは何かについて説明できるようにする。			
保育					
院内保育					
世界の子ども					
授業の概要					
<p>子どもを取り巻く物理的な環境及び社会環境の実態を解説し、子どもが健全な発達をしていくためには何が必要であるのか、また保育、教育、福祉、医療などがどのように連携していけばよいのかについて講述する。また、医療者の子育てとその支援に関する具体的な制度や施設を紹介し、理解を深めさせる。</p>					
授業計画					
第1回	世界の子どもがおかれている環境（徳田 克己）				
第2回	子ども支援とは何か（西村 実穂）				
第3回	子ども、子育てに関する制度、施設・設備、法律（西村 実穂）				
第4回	慢性疾患のある子どもの支援（西村 実穂）				
第5回	医療者の子育て支援（西村 実穂）				
第6回	保護者の支援（徳田 克己）				
第7回	院内保育（西村 実穂）				
第8回	被虐待児、貧困家庭の子どもの支援（西村 実穂）				
第9回	発達障害のある子どもの支援（西村 実穂）				
第10回	視覚障害、聴覚言語障害、肢体不自由のある子どもの支援（西村 実穂）				
第11回	育児相談・発達相談（徳田 克己）				
第12回	保育（大和田 菜子・徳田 克己）				
第13回	子育て支援の現場見学1（大和田 菜子・徳田 克己）				
第14回	子育て支援の現場見学2（大和田 菜子・徳田 克己）				
第15回	子育て支援の現場見学3（大和田 菜子・徳田 克己）				
教科書及び参考書					
教科書は使用しない。使用するパワーポイントの内容は当日配布する。					
成績評価方法					
第15回の授業の際にレポート課題を出し、2週間後に提出を求める。					
オフィスアワー					
メールによって連絡すること					
履修にあたって必要な予備知識など					
自分のまわりにある子育て支援施設・設備などに注意を払った生活をしてほしい。					
備考					
オムニバス方式 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	臨床実習Ⅲ	7単位	4年前期	渡邊大貴(責任者)/犬田/中/新田/細井/巻/谷口/山元/犬田/原/出澤	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
真のニーズ		指導者の監視下において助言指導を受けながら、理学療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための理学療法アプローチを立案し、実践することができる。			
理学療法アプローチの実践					
主体的な学修態度					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP4:理学療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
DP5:理学療法士として自らを律し、使命感と責任感を身に付け、課題解決のための研究能力を有しながら、自ら学び続けられる態度を有している。					
授業の概要					
指導者の監視下において助言指導を受けながら、理学療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための理学療法治療計画を立案し、実践していく。また、列举された解決方法に対して、科学的根拠に基づき検証する。さらに、理学療法を展開する為の管理・運営に必要な知識・技術について理解する。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について理学療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。					
授業計画					
【実習前】	実習オリエンテーション、実習セミナー、筆記試験、OSCE				
1週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
2週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
3週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
4週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
5週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
6週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
7週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
【実習後】	実習振り返りならびに報告会、OSCE				
教科書及び参考書					
実習の手引き(アール医療専門職大学)、臨床実習支援システム(富士フィルム)					
成績評価方法					
実習指導者評価(50%)、実習報告会(50%)					
オフィスアワー					
渡邊：火曜日(13時30分～15時00分)、金曜日(10時30分～12時30分) ただし、事前にメールで問い合わせること：watanabe@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
理学療法評価学の学問を復習しておくこと。					
備考					
学外での実習となります。社会的モラルには十分意識するように。【実習前】筆記試験並びにOSCEは、実習参加の可否を決定する診断評価として実施し、【実習後】OSCEは、実習参加後の習熟度評価として実施する。【実習前】の試験が不合格の場合は、補習期間を設け、再試験とする。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
職業専門科目	臨床実習Ⅳ	7単位	4年後期	渡邊大貴(責任者)/犬田/中/新田/綿井/巻/谷口/山元/犬田/原/出澤	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
真のニーズ		指導者の監視下において助言指導を受けながら、理学療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための理学療法アプローチを立案し、実践することができる。			
理学療法アプローチの実践					
主体的な学修態度					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
DP3:理学療法分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP4:理学療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
DP5:理学療法士として自らを律し、使命感と責任感を身に付け、課題解決のための研究能力を有しながら、自ら学び続けられる態度を有している。					
授業の概要					
<p>臨床実習Ⅲで修得した知識や技能を踏まえて臨床実習Ⅳでは、指導者の監視下において、臨床実習のⅢの経験値を十分に生かしながら実習に臨む。特に、知識、技術をさらに発展させ、対象者の評価をより正確なものにし、治療結果から評価の妥当性を考察する。さらに、理学療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための理学療法アプローチを立案し、実践していく。また、列挙された解決方法に対して、科学的根拠に基づき検証する。また、理学療法を展開する為の管理・運営の実践を身に付けることができる。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について理学療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>					
授業計画					
【実習前】	実習オリエンテーション、実習セミナー、筆記試験、OSCE				
1週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
2週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
3週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
4週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
5週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
6週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
7週目	施設実習				
	病院施設等での臨床実習時間：8時間、在宅学習時間：1時間				
【実習後】	実習振り返りならびに報告会、OSCE				
教科書及び参考書					
実習の手引き(アール医療専門職大学)、臨床実習支援システム(富士フィルム)					
成績評価方法					
実習指導者評価(50%)、実習報告会(50%)					
オフィスアワー					
渡邊：火曜日(13時30分～15時00分)、金曜日(10時30分～12時30分) ただし、事前にメールで問い合わせること：watanabe@u.a-ru.ac.jp					
履修にあたって必要な予備知識など					
理学療法評価学の学問を復習しておくこと。					
備考					
学外での実習となります。社会的モラルには十分意識するように。【実習前】筆記試験並びにOSCEは、実習参加の可否を決定する診断評価として実施し、【実習後】OSCEは、実習参加後の習熟度評価として実施する。【実習前】の試験が不合格の場合は、補習期間を設け、再試験とする。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	経営組織論	2単位	4年前期	大木 俊郎	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
組織		現代における組織を体系的に理解習得し、学術的知見を踏まえて、実務に活用できるアイデアやノウハウを生み出す力を身につける。			
管理					
戦略					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP7: 事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え、マネジメントすることができる。					
授業の概要					
<p>本講義では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことを学修していく。具体的な課題(事例)を提示し、事業を推進していくための経営戦略、組織管理、人材管理についての知識を活かして、演習を通して学修していく。</p>					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、組織とは何か				
第2回	組織の目的				
第3回	組織におけるコミュニケーションと調整				
第4回	組織への貢献意欲				
第5回	合理的システムの設計				
第6回	自生的システムの創発				
第7回	組織プロセス				
第8回	経営資源としての変化する人				
第9回	環境と組織				
第10回	戦略と組織学習				
第11回	イノベーションと組織				
第12回	事例演習①				
第13回	事例演習②				
第14回	事例演習③				
第15回	まとめ				
教科書及び参考書					
「はじめての経営組織論（高尾義明著）」有斐閣ストウディア					
成績評価方法					
定期試験					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	教育相談	2単位	4年前期	庄司 一子	選択
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
教育相談	校内連携	一人ひとりの発達と変化の様相を思い描き、支援を通して人にとっての問題や困難の意味、教育相談の果たす役割を理解することを目標とする。			
事例検討					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP6: 作業療法士として地域で生活する障害のある幼児、児童等もしくは高齢者の課題に対して、新たな支援を展開して貢献できる。					
授業の概要					
<p>人は、子どもから老人まで、一生を通して変化と発達を遂げる存在である。その変化と発達をとげる中でライフイベントを経験し、様々な課題や困難に出会う。</p> <p>本講義は「教育相談」を通じた支援、指導を実践する上で必要な、人の生涯発達の姿、発達課題、ライフイベントとその影響、人が出会う問題や困難を理解し、実践に必要なとされる教育相談の基本となる理論と方法を学ぶ。さらに近年は子どもの問題の多様化、複雑化、長期化等に伴い、関係者との連携・協働が必須となっている。したがって、連携・協働について学ぶと共に、相談を実践上で必要な倫理を身につけることを目的とする。</p> <p>また事例検討を通し、一人ひとりの発達と変化、困難を思い描き、支援を通して人にとっての問題や困難の意味、教育相談の果たす役割を理解することを目的とする。</p>					
授業計画					
第1回	オリエンテーション、教育相談とは				
第2回	学校現場における教育相談				
第3回	教育相談の校内体制と計画				
第4回	教育相談と校内連携				
第5回	教育相談の目標の立て方、進め方				
第6回	教育相談における基本的態度				
第7回	児童・生徒の課題と教育相談の進め方				
第8回	教育相談に役立つ心理支援				
第9回	学校カウンセリングの機能、スキル				
第10回	学校における不適応者の理解と対応				
第11回	保護者への援助				
第12回	教師のメンタルヘルス				
第13回	教育相談における専門職・専門機関との連携				
第14回	相談技法(事例検討)				
第15回	相談技法(事例検討)				
教科書及び参考書					
<p><教科書> 庄司一子(編著)(2025). 「学校におけるケアの実践」 金子書房</p> <p><参考書> 文部科学省(2022). 「生徒指導提要」 令和4年12月</p> <p>その他、必要に応じて資料を配付する。</p>					
成績評価方法					
定期試験					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	経営のための法律	2単位	4年後期	中村茂美(責任者)岡村/福富/藤沢	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
法律	法の基礎を理解することができる. 経営に関連する, 法律を知ることができる				
経営					
経営実践					
セラピスト					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP2:豊かな人間性と倫理観を備えることはできる. DP5:自らを律しながら常に探求心と目的意識を持ち, 専門職業人として, 使命感を持ちながら, 日々成長を目指し, 自己学習を推進することができる. DP9:事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え, マネジメントすることができる.					
授業の概要					
法・法律は、日常生活に大きなかかわりを持っている。この講義は、受講者が法学を専門としていない学生であることを前提として、法学の基礎になる知識や技術、ものの考え方を身につけ、具体的にイメージを持ってもらうことをその内容とする授業である。また、事業所やプロジェクトを経営・運営していく上で必要と思われる法律について解説し、具体的事例について演習を通して学習していく。					
授業計画					
第1回	法の基礎 (岡村)				
第2回	経営や雇用等に関する法制度① (岡村)				
第3回	経営や雇用等に関する法制度② (岡村)				
第4回	作業療法士としての経営実践1		藤沢先生		
	日本の障がい福祉サービスの変遷、関連法律・制度、内容の理解+C5				
第5回	作業療法士としての経営実践2		藤沢先生		
	生活介護サービスの経営実践、障がい福祉に関しての過去問の紹介				
第6回	作業療法士としての経営実践3		藤沢先生		
	障がい福祉に関する関係法令、障がい福祉サービス経営概論、地域での活動				
第7回	作業療法士としての経営実践4		藤沢先生		
	放課後等デイサービスの経営実践、障がい福祉に関しての過去問の紹介				
第8回	作業療法士としての経営実践5		藤沢先生		
	障がい福祉に関する関係法令・就労に関する社会情勢、地域での活動				
第9回	作業療法士としての経営実践まとめ		藤沢先生		
	就労継続支援B型の経営実践、障がい福祉に関しての過去問の紹介				
第10回	理学療法士としての経営実践1		福富先生		
第11回	理学療法士としての経営実践2		福富先生		
第12回	理学療法士としての経営実践3		福富先生		
第13回	理学療法士としての経営実践4		福富先生		
第14回	理学療法士としての経営実践5		福富先生		
第15回	理学療法士としての経営実践まとめ		福富先生		
教科書及び参考書					
特になし					
成績評価方法					
期末試験 レポート					
オフィスアワー					
授業後に対応					
履修にあたって必要な予備知識など					
特になし					
備考					
学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
展開科目	財務会計論	2単位	4年後期	徳満真人, 武石光弘	必修
授業科目の学習教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
起業	将来就労先におけるマネージメント業務への従事や起業・独立することを想定し、財務会計を理解する経営人財としての土台を作る。				
財務					
簿記					
企業の社会的責任					
授業の概要					
<p>本校卒業後のキャリアを考えるとともに、将来的に就労先における経営職へのキャリアアップや起業した際の経営者として必要な財務会計の基礎を理解する。また、企業の社会的責任や経営者としての責任についても考えてみる場とする。</p>					
授業計画					
第1回	キャリアデザイン				
第2回	起業 事業計画から法人設立				
第3回	起業 資金計画と金融リテラシー				
第4回	起業 会社設立のシミュレーション (グループワーク)				
第5回	起業 グループワークの発表				
第6回	財務会計 簿記の基礎知識				
第7回	財務会計 収益・費用・利益				
第8回	財務会計 資産・負債・純資産				
第9回	財務会計 キャッシュフロー				
第10回	財務会計 仕訳				
第11回	財務会計 決算・納税				
第12回	財務会計 財務諸表の見方				
第13回	従業員の雇用				
第14回	企業の社会的責任 (CSR)				
第15回	経営者としての責任				
教科書及び参考書					
資料を提供します。					
成績評価方法					
出席・提出物・授業の状況によって評定します。					
オフィスアワー					
火曜日午後					
履修にあたって必要な予備知識など					
特にありません。					
備考					
<p>内容に変更がある場合は、講義前にお知らせします。 学習効果を得るために予習、復習の時間を確保すること。</p>					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
総合科目	理学療法研究法演習Ⅱ	1単位	4年前期	中 徹(責任者)/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
研究論文	研究考察力	研究結果に基づいて考察力を高め、地域や臨床現場の課題について認識を深めながら、新しいサービスを提供できるよう論理的、科学的思考力を強化することができる。			
新しいサービスへの活用					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP3: 理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP5: 理学療法士として自ら律し、使命感と責任感を身に付け、課題解決のための研究能力を有しながら、自ら学び続けられる。					
授業の概要					
<p>本科目では、実践的ならびに応用的な能力を総合的に学修していく。理学療法研究法演習Ⅰで得られた研究結果について考察を深め、地域や臨床現場の課題解決として有効性について検証し、新しいサービスへの活用方法も合わせて学修し、研究結果に留まらず地域ならびに臨床課題への解決手段としての有効性や新しいサービスへの活用についても合わせて報告していく。本科目を通じて、地域や臨床現場の課題について認識を深めながら、新しいサービスを提供できるよう論理的、科学的思考力を強化していく。</p>					
授業計画					
第1回	研究結果からの考察 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第2回	研究結果からの考察 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第3回	研究論文の作成 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第4回	研究論文の作成 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第5回	研究論文の作成 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第6回	地域や臨床現場における課題解決手段としての有効性の検証 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第7回	新しいサービスへの活用方法の検証 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
第8回	研究報告会 担当教員 中 徹/新田 収/縄井清志/呉 世昶/渡邊大貴/巻 直樹/谷口圭佑/出澤真乃助/山元佐和子/犬田和成/原 佳祐				
教科書及び参考書					
適宜提示する					
成績評価方法					
研究論文(90%)、研究報告会(10%)					
オフィスアワー					
各担当教員に確認					
履修にあたって必要な予備知識など					
基礎科目、職業専門科目、展開科目について復習しておくこと。					
備考					
主体的な学修態度で臨むこと。 都合により内容を変更する場合があります。					

授業科目区分	科目名	単位	開講時期	担当教員名	必修・選択
総合科目	応用理学療法学演習	1単位	4年後期	新田 収(責任者)/谷口圭佑 /山元佐和子	必修
授業科目の学修教育目標					
キーワード		学修教育目標(学修成果)			
プロジェクト企画		「障害のある幼児・児童等の教育支援領域」もしくは「地域在住高齢者の健康支援領域」における課題に対して、理学療法士として支援できる企画することができる。			
グループディスカッション					
臨床的課題発見解決方法					
ディプロマ・ポリシーとの関連					
DP1:多様な価値観を理解しながら尊重し、倫理観を持って対象者の生活を支援できる能力を有している。					
DP2:理学療法士として高いレベルでのコミュニケーション能力を有し、様々な分野の専門職業人と協働することができる。					
DP3:理学療法学分野における理論に裏付けられた専門的知識と技能を有し、科学的根拠に基づいた理学療法を提供できる能力を有している。					
DP4:理学療法士として地域社会に貢献したいという思いが強く常に努力することができる。					
DP5:理学療法士として自らを律し、使命感と責任感を身に付け、課題解決のための研究能力を有しながら、自ら学び続けられる。					
DP6:理学療法士として障害のある幼児、児童等もしくは地域在住高齢者の支援に貢献することができる。					
DP7:事業やプロジェクトをマネジメントする必要性について考え、マネジメントすることができる。					
授業の概要					
「障害のある幼児・児童等の教育支援領域」もしくは「地域在住高齢者の健康支援領域」における課題に対して、理学療法士としてどのようなアプローチを計画して支援できるかについて、課題解決プロジェクトをグループ活動ディスカッションを通じて戦略的に企画し、企画内容を発表していく。プロジェクトの企画については、展開科目の学修内容が基盤となり作成していき、基礎科目、職業専門科目で学修した内容から理学療法士としてどのようにアプローチするのか実施計画を学修する。					
授業計画					
第1回	オリエンテーション (新田・他)				
第2回	各領域における課題のまとめ (新田・他)				
第3回	各領域における課題解決 (新田・他)				
第4回	各課題解決のディスカッション (新田・他)				
第5回	理学療法学に関する基礎項目のまとめ (新田・他)				
第6回	理学療法学に関する臨床項目のまとめ (新田・他)				
第7回	課題解決の確認 (新田・他)				
第8回	まとめ、講評 (新田・他)				
教科書及び参考書					
特に定めず。資料は適宜提示する。					
成績評価方法					
期末試験 (100%)					
オフィスアワー					
水曜日12時30分～13時30分、17時00分～17時30分					
履修にあたって必要な予備知識など					
1年次から4年次まで学修した内容を総合的なまとめた授業のため、今まで履修した科目の内容を再考しておいてください。					
備考					
課題内容について共有しながら相互ディスカッションを行いつつ課題解決を図る。都合により内容を変更する場合があります。					